

イエスの人物像特集

UFO contactee

SINCE 1961
GAP JAPAN NEWSLETTER



UFO/超能力/宇宙哲学

コンタクティー

イエスの実像と転生の法則

計り知れぬ影響力をもつアダムスキー
宇宙の意識とともに願望を達成させる方法
熱いはずの水星に氷冠が
私のUFO目撃と不思議な体験

UFO・異星人・地球人(1)

AUTUMN
1992

118



〈巻頭言〉 関心とカルマ	1
イエスの実像と転生の法則	久保田八郎 2
計り知れぬ影響力をもつアダムスキー	中村 省三 10
宇宙の意識とともに願望を実現させる方法	高梨 十光 16
UFOがつくりだす不思議なフォースフィールド雲	20
NASAの写真は偽り?	NHMD 21
水星に氷冠を発見/熱いはずの水星に氷冠が	クラーク・R・チャップマン 22
科学—SCIENCE	24
GAP短信	26
私のUFO目撃と不思議な体験	川野 晶子 27
音楽は生命エネルギーを運び	鷲見 弘 32
大盛況・大阪支部特別月例会	34
UFO・異星人・地球人(1)	G. アダムスキー 36
天地万物との一体化で長寿	塩谷 信男 44
〈予告〉 IZU(伊豆)支部発足記念大会	45
〈投稿欄〉 ユーコン広場	46
〈予告〉 秋田支部大会	47
本誌/バックナンバー掲載記事目録	48
〈予告〉 1992年度日本GAP総会	49
編集後記	50
〈広告〉 新アダムスキー全集	51
日本GAP全国月例研究会案内	52



金星人からジョージ・アダムスキーに伝えられた金星のシンボルマーク。2個の図形の内、左側は宇宙の父性原理(陽)、右側は母性原理(陰)を意味する。円は宇宙をあらわしている。

GAPについて

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について“知る”機会を与えられるべきであるという見地に基いて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コスミック・パワー”の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界(惑星)から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”の研究と理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題に関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群には偉大な発達をとげた人類が居住しているが、米ソ等の大国政府はこの真相を隠している。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト(接触)しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

〈表紙写真〉

1971年5月23日の12時30分、オーストラリア・シユタイエルマルクのドイツチュランツベルクで、ルディー・ナゴラ氏が奥さんとともに森の中を散歩中、上空からブーンという音が聞こえたので、見上げると、銀色の円盤型物体が木の葉運動みだいに上下動をくり返していた。彼が持っていたカメラでフィルム一本を全部使いきるまで写真を撮るとUFOは飛び去った。

一六六六年、ニュートンが太陽光線をプリズムで分解して、赤、橙、黄、緑、青、紫の色帯が得られる事実を公表したとき、多数の科学者から攻撃された。「そんなばかな」というわけで、特に物理学上、弾性に関する有名なフックの法則を発見し、生物学では顕微鏡を用いて細胞を発見するなど、自然科学の各分野で足跡を残したロバート・フックに至っては、ニュートンの実験には再現性がないといつてぼろくそにけなした。今日、太陽光のスペクトル分析については小学生でも知つて

〈巻頭言〉

関心とカルマ



いる常識だが、一七世紀にこんな論争が行なわれたこと自体、不思議な感じがする。

科学的な発明発見の公開時に、場合によっては凄まじい反論が起こりがちだが、科学界はこんなものなのだろう。一時期白熱化していた常温核融合をめぐる論争も、どうやらケリがつきつつあるようだ。

三年前の三月に米ユタ大学のポンス教授と英サウサンプトン大学のフライシユマン教授が共同で発表した、室温で「あほらしいくらい簡単な」試験官

程度の装置によって、低温核融合反応が達成されたという報告に、各国の科学者がかみついた。「そんなばかな」と。

だが二一世紀最大の夢といわれる、水素の同位体である重水素や三重水素などの原子核を融合させたときに放出される膨大なエネルギーは、すでに先進国の科学者によって低温下での実験が進められ、その正当性が確認されつつある。「熱が発生し、核反応が起きているのは事実」と言えるところまできたと核融合科学研究所の池上教授は言うし、東工大の岡本教授も中性子の発生を記録した。阪大の高橋教授も同様の確認をしている。ポンス教授らの発見は正しかったのだ、と言える方向にあることは否定できないようだ。

一見、突拍子もないような発見または発明は同時代人から必ず誹謗的になる。多くの病気の原因は悪霊ではなく病原菌だという説を唱えたパストゥールは、ひどい目にあつた。無線電信を発明したマルコーニも同様である。彼も苦心して製作した電信器を税関の役人から取り上げられて海の中へ投げ込まれたために一からやり直した。

アダムスキーの場合も論をまたない。いまだに彼をイカサマ師呼ばわりする者が跡を絶たないけれども、一つは彼に学歴がなかったせいもあるのだろう。学歴とはなんとという悪魔的な存在であることか！ 大学を出なかったとい

う、たつたそれだけのことで有能な個人の社会的地位や運命まで左右されて生涯に凶り知れない禍根を残すし、大学にしてもランクづけがあつて、無名大学ならむしろ出ないほうがよかつたというほどに大きなコンプレックスを植え付ける（らしい）。まさに「そんなばかな」と言いたいところだ。

学歴のなかったアダムスキーは無学者呼ばわりされた。しかし彼は実際には米西部の名門校カリフォルニア工科大学から教授として招聘されたという事実があるのだ。

だが彼は断わつた。フリーな立場であるほうが自由に活動できるからである。

こんな事実を知らずに他人を無学者と罵る者は地獄へ墮ちるかというところにあらず、結構よい生活をしている。それはこの地球があらゆる面で見つな世界であつて、学歴という勲章を帯びていさえすれば無能でも損をしないような仕組みになつてきているからだ。

しかし大学の門をくぐらなくても、スペース・ピープルとひそかにコンタクトしている人が相当数いる。この人達は何らかの超能力を駆使して、コンタクティーとしての役割を遂行しながら、壮大なスペース・プログラム（地球救済計画）に協力しているのである。華やかに着飾つた男女が青春を謳歌する陰で、こうした人達が国や地球の安全を確保するために水面下で大活動を

続けているという事実があるのだ。その証拠を見せると？

コンタクティーの活動は低温核融合とは違う。中性子の発生を見せるようなわけにはゆかない。全く証拠がないというわけではないが、それよりも重要なのは個人の内部の深奥から湧き出る一種のカルミックな衝動であつて、これが主体をなすものの方だ。平たく言うとう、「関心」の問題であらう。

だが、この関心なるものこそ神秘的ともいふべき重要な要素を帯びている。そして個人の関心を形成するのに基礎をなすものは「過去世からのカルマ」であり、一個人の関心の根源を説明するにはこの問題を導入する必要があることをアダムスキーは示唆している。

これを非科学的と称して無視するのは自由だが、広大な宇宙に思いを馳せて遙かなる惑星群に存在するかもしれない偉大な文明を憧憬する人は、過去世において何らかの宇宙的な物事に関連があつたために、その過去世の記憶が蘇つたということになるらしい。

それはともかくとして来世紀には地球が宇宙時代に突入し、大気圏外の事象に関して地球人が腰を抜かすような新発見がなされるにちがいない。

「この天地には、おまえの思いもよらぬ事が沢山あるんだ」と友人のホレイシヨウに語つたハムレットの言葉は、現代の地球世界にも通用する大いなる金言と言えるだろう。（久）

イエスの実像と転生の法則

久保田八郎 (日本GAP会長)

★死と空間を超えて存続する人間の实体と深遠な転生の法則

本誌前号掲載の『巨大宇宙船、デザートセンター上空に出現!』で、一九五二年一月二〇日、米カリフォルニア州デザートセンターに着陸した円盤から出てきた金星人と、アダムスキーとの会見について、この金星人こそ二千年前、パレスティナで宇宙の法則を説いたイエスその人であり、アダムスキーはゴルゴタの丘で磔刑に処せられたイエスを最後まで救出しようとしたヨハネであったという記述から、イエスに関してもっと詳細を知りたいという要望にに応じてここに続編を掲載。

イエスは実在した人物

超偉大な指導者イエスに関する伝記としては新約聖書以外にはない。ところがこの書物は約二千年昔に書かれたもので、内容はかなり荒唐無稽な部分が多く、どの部分が真実でどの部分が創作なのか見当がつかない。これを全面的に信ずるかどうかは読む人の自由

だが、実証主義をたらぬノンフィクション研究家としての立場から考察すれば、到底聖書のすべてを鵜呑みにするわけにはゆかない。

たとえば、イエスがガリラヤ湖の水面を歩いたという件も、上空に円盤がいて、特殊なパワーでイエスの体を吊り上げたとか、湖の中に別な惑星から来た小型潜水艦がいて、水面まで出た船体頂上部にイエスを乗せたのだとか、もっともらしい説はいろいろあるのだが、いまひとつピンとこない。

そういうえば、裏切り者とされているユダにしても、本当はイエスを裏切ったのではなく、むしろ助けようとしたというのが真相だという。グループの会計係で財布のヒモを握っていた彼は師イエスの危急を知るや、独断で金を引き出して大祭司カヤパの部下にそれを託し、援助方を依頼してしまい、大祭司を受け取った男は逃げてしまい、大祭司にユダの意図は伝わらなかった。賄賂工作に失敗した彼は悲痛の思いにか

られてケデロンの谷に身を投げた。以上はアダムスキーがポマロイ女史に伝えた話で、この大要は新アダムスキー全集にも収録されている。

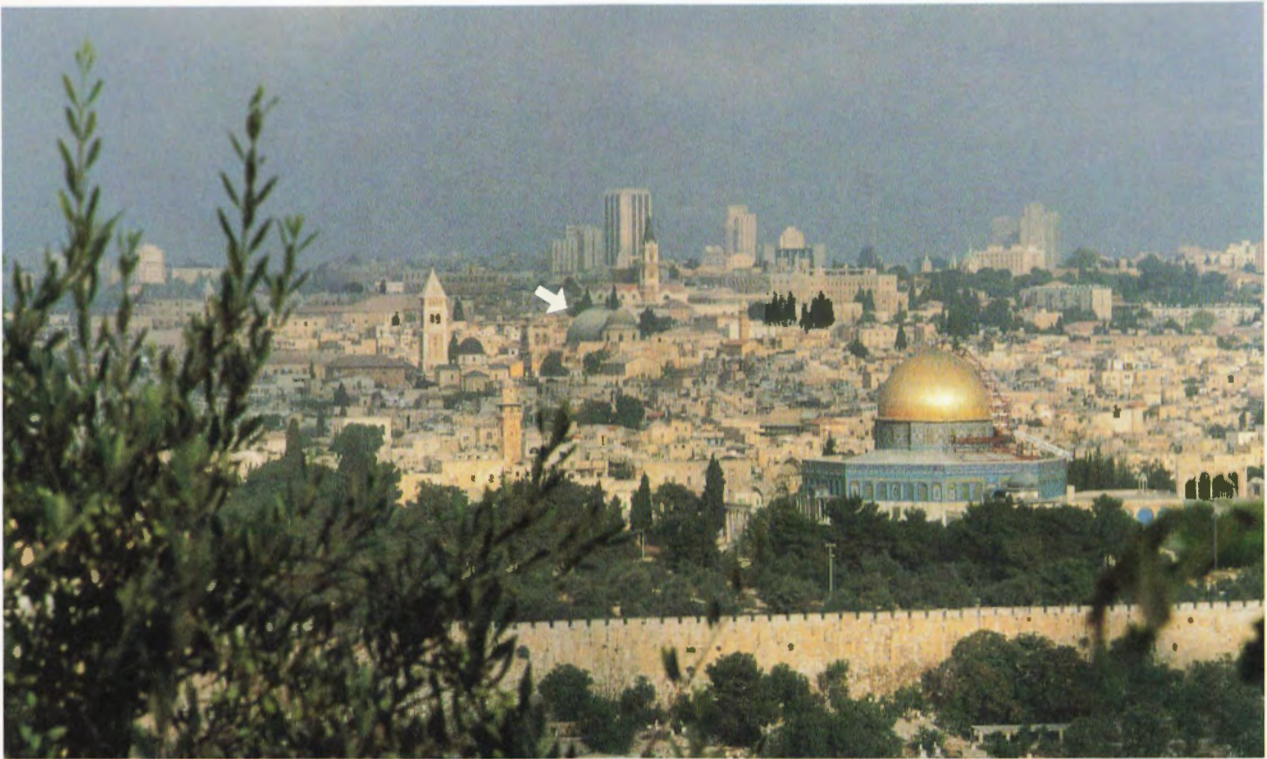
ただし筆者は水上歩行に関する諸説をあたまから軽視はしない。ひとつのインフォメーションとして心の片隅に蓄えておく。研究というものは如何なる仮説から出発してもよいと思う。

大体、聖書なるものはイエスが書いたのではなく、イエスの死後、弟子達によって綴られた文書とされており、その中心をなすものはマタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの四大福音書である。この内容は似ているけれども、所々に食い違いがあるところから、誰か一人が書いた文章を他の人達が参考にしたと思われる。学界の研究によると、筆頭を飾るマタイ伝が実はマタイ本人による記述ではなく、ユダヤ人のイエス信奉者がシリアあたりで書いたものが見られたという。

だがイエスはたんなる伝説上の架空の人間ではなく、れつきとした実在の人物である。このことは三度にわたる筆者のイスラエル旅行で、エルサレムに多年在住する知人のイエス研究者・榊原茂師の大研究の成果から知り得た事であるし、アダムスキーの『第2惑星からの地球訪問者』でもイエスが地球人に宇宙の法則を伝えるために別な惑星から転生によって地球へ来た人であると述べてある。その他、歴史的な多数の事績や伝承からして、イエスの実在に疑問の余地はない。

誤解されているイエスの出生場所

イエスというのは俗称で、正しくはヘブライ語でイェホシユアアといい、これがギリシア語に音訳されてイエス・スと呼ばれるようになった三〇歳代の男は、「われこそはユダヤ人の王である」と称したために同胞のユダヤ人から嫌われて、ついにローマ軍に捕らえられ、ゴルゴタの丘で処刑された。その出生から青年期にかけては謎だらけであり、前記のごとく唯一の伝記である新約も美化された箇所が多くて、にわかには信じ難い記述が多いのだが、キリスト教の神学思想とは別に、エルサレムの遺跡を丹念に調べてみると、大祭司の部下達が、ゲッセマネの庭園(この庭園は現存している)で祈りを済ませたイエスを捕らえて、ケデロンの谷



▲エルサレムの旧市街。矢印がイエス処刑場跡に建てられた聖墳墓教会。 撮影/久保田八郎

を渡り、石段を登った左横にある大祭司の屋敷の中庭に連れ込み、一夜監禁したあと、ローマ総督のピラトに引き渡し、群衆の騒ぎに押されてピラトがやむなく十字架にかけたことは間違いない事実であり、歴史上実在した人物であることが分かってくる。

余談ながら右の石段も発掘されて現存し、これこそイエスが直接触れた遺跡として最高といわれる貴重な物だが、三度目に行ったときは、多くの石が盗まれて目もあてられぬ状態になっていた。建築材料にするために持ち去るらしい。

イエスが馬小屋で生まれたということから、現地へ見学に来る日本人の牧師さん達はイエスの出生地であるベツレヘムへ来ると木造の小屋を連想して「馬小屋はどこにあるのか」と聞いたりますると言って榊原師は苦笑していた。イエスが生まれたのは木造の小屋ではなく、巨大な岩壁をくり抜いた状態の洞窟旅館の馬をつなぐ部屋である。これも現存している。遺跡に言及するとキリがつかぬので省略しよう。

謎の聖骸布の歴史

遺跡とは別にイエスの実在を証明する重要な物件として、聖骸布なるものがある。これはイエスの遺体を包んだ布とされる名高い物で、現在はイタリア・トリノのサヴォイ家チャペルに保

存してある。新約によると、マタイの二七・五七から六一にかけて、確かにアリマタヤのヨセフという金持が亜麻布を持参してイエスの体を包み、新しい墓の中に納めて、その入口に大きな石をころがしておいて立ち去ったとある。これと同じような記述がマルコ、ルカ、ヨハネにも見られるので、この埋葬も事実であろう。

亜麻というのはアマ科の一年生作物で、茎の繊維でもってリンネルや寒冷紗かんれいさその他の高級織物が作られるし、種子からは亜麻仁油あまにあぶらという良質な乾性油がとれる。当時としては杉綾織の亜麻布は高価な品だったにちがいない。

このときイエスの体を包んだ布が現存する聖骸布と考えられて、世界のキリスト教界から注目を浴びていたのである。

その歴史は次のとおりだ。
紀元三〇年を過ぎた頃、エデッサ(現在のトルコ東部のウルファ)の町の王であったアプガル五世のところへ「謎の人物の肖像画が描かれている。どうもイエスらしい」と言って、一人の人間が大きな布を持ち込んだ。これが歴史に顔を出した始まりである。

この王はイエスの教えを信仰して奇跡的に病気が治ったのでイエス信奉者になったのだが、五七年に王位を継承した息子がイエスの教えを毛嫌いして原始キリスト教徒を迫害したので、布は城壁の穴の中に隠された。以来、五

○年近く伝説だけが流れて現物はマボロシと化した。

ところが五二五年にエデッサが大洪水のため破壊されたため、町の再建工事が行なわれた。そのとき崩された城壁から布が発見されて、それ以来イエスの顔が描かれた聖なる物として崇拜の的になったのである。イエスの顔を見たことのある人が描いたものと思われていたらしい。ただしこの『絵』は、ちよと写真のネガみたいに白黒が逆になったもので、具体的な顔には見えないものであった。

九四三年、エデッサはビザンティン軍に包囲されたけれども、住民はこの布を敵に差し出して虐殺をまぬがれた。そして二〇〇四年まではコンスタンティノープル（現在のトルコのイスタンブール）で保存されたが、一四六六年間の空白を経て、いつのまにかフランスのジョフロア・ド・シャルニーという人の手に渡っていた。この時期、つまり一三五〇年代が聖骸布としておおよかに記録された最初である。

聖骸布はシャルニーの孫娘のマルガレの手に渡り、金に困ったマルガレはこれをサヴォイ公に売った（寄贈したという説もある）。サヴォイ家は一世紀にウンベルト一世が始祖となつて以来、一九四六年までイタリアに君臨した名高い王家である。

ところが一五三二年二月四日夜、火災で布の一部が損傷したので、管理

を嚴重にするために一五七八年、サヴォイ王家は布をトリノ市の洗札の聖ヨハネ大聖堂に隣接するサヴォイ家の礼拝堂に収めたのである。以来、布はそこに保管され、『トリノの聖骸布』と呼ばれてトリノの大司教の管理下におかれた。その後ウンベルト二世がヴァテイクン法王庁へ寄贈したために、現在はヴァテイクンの所有となつている。

科学界の大論争と放射性炭素年代測定法

さて、この布は幅一・一メートル、長さ四・四メートルある。かなり古びて黄色に変色しているけれども、ポロポロの状態ではない。縦に伸ばして広げると、両端に沿って縦二列に三角形の凶形のついた模様が見られ、そのあいだに一人の男の正面と背面の像が、布の中心部から上下に黒っぽく浮き上がっている。この布は、イエスのものとすれば、磔刑後に二つ折にされて、折り目の方へ遺体の頭をはさみこんで全身を包んだらしい。両手は下腹部で交差している。

ところが一八九八年に劇的な大発見が行なわれた。イタリアの弁護士で写真家のセコンド・ピアが史上最初の写真撮影許可をとり、撮影後に乾板を現像したところ、なんとそのネガに荘厳な顔をした人物の像が鮮明に浮かび上がったのだ！

つまり布に出ている黒ずんだ奇妙な

像は白黒写真のネガに相当し、撮影したネガに現れた像が印画紙にプリントされた普通の写真になったというわけだ。

これは大センチションを巻き起した。今まで画家の手になる絵と思われていたものが、一転してイエス・キリストの体の聖痕（せいこん）ということになり、真偽をめぐって学界で大論争の的になったのである。

科学者の論争の歴史も複雑多岐にわたるので詳述は避けるが、一九〇二年におけるフランスの医学者イヴ・ドラージュ博士がフランス科学アカデミーに本物説を発表。医学者ポール・ヴィニョンの香料による偽作説。一九三一年、イタリアの写真家ジュゼッペ・エンリエによる進歩した撮影技術を駆使した本物説。一九五九年、ドイツ人科学者団によるエックス線、赤外線、紫外線検査による不明説。一九七〇年、米NASAの科学者ジョン・ジャクソンらのVIPER8応用によるコンピュータ立体画像分析の結果、打ち出した本物説。一九七八年、アメリカの科学者を主体にした大科学者団による五昼夜にわたる調査の結果、出された本物確信説等がある。

この聖骸布の像には凄い謎がある。普通、人間の顔に塗料を塗り、それに布を巻きつけてから広げると、両耳までの部分は横に細長い楕円形に転写されるはずだが、聖骸布の像はそのよう

なことはなく、人間の顔が立体的に浮き出ているのだ。この謎は解けない。もし画家が描いたものとするれば解剖学に関する高度な知識を必要とするはずだ。

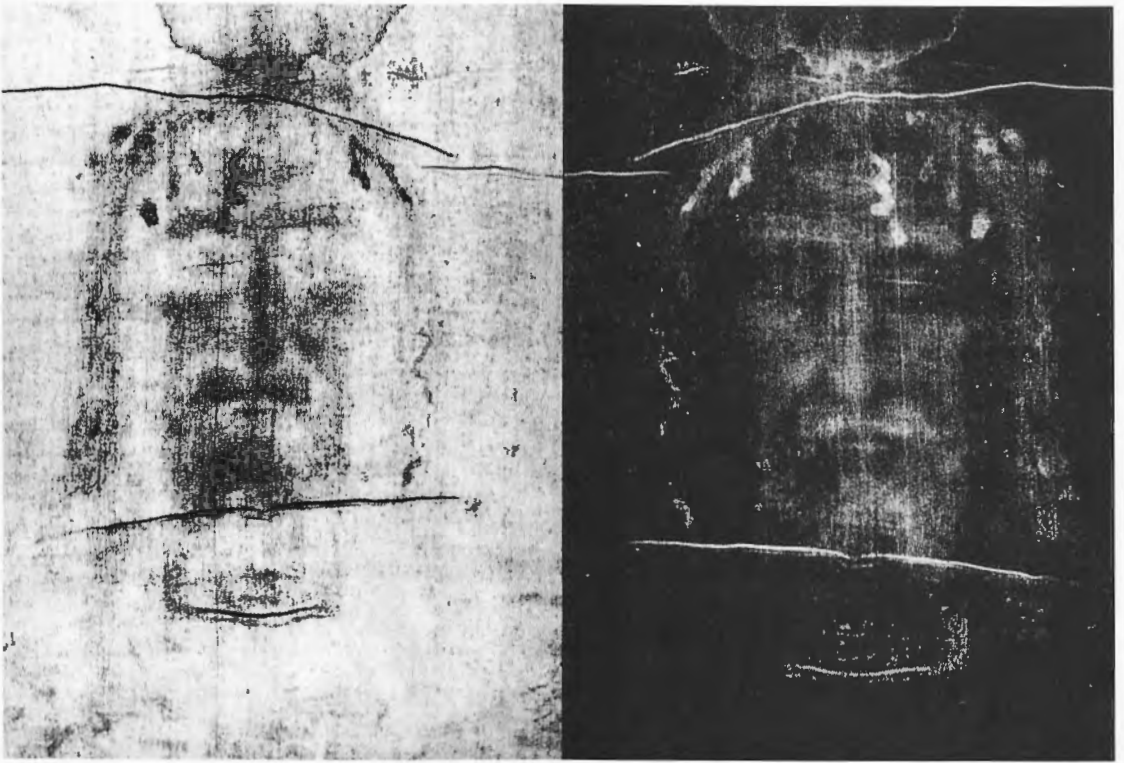
聖骸布の男とは

この布の像を調査した結果、判明したのは、男の身長は一・七六メートル、体重は約七九キロ、年齢は三〇歳程度。容貌はユダヤ人のそれであった。かなり頑丈な体格であったらしい。教会芸術の彫刻や絵画に見られる瘦せた弱々しいイエスの体とは似ても似つかぬ偉丈夫（じょうぶ）である。口ヒゲとあごヒゲをかなりたくわえていた跡がある。

それはそうだろう。妨害に屈することなくあれほどの布教活動をやつたのだから、頑丈な体でなければ続かないはずだ。スピーカーのない時代に大道演説をやつたのだから、よほど大きい声を出さないと群衆には聞こえない。そうならば腹筋や声帯の発達した肥満タイプの大男が浮かんでくる。人々を叱咤（ちか）した親肌の豪快な男であったと筆者は思っていたのだが――。

聖骸布の研究の結果、具体的に判明したのは、次のとおりだ。

頭皮が破れて出血し、額と後頭部に血のしみがあり、鋭利な刃物で切られた跡が一二カ所あった。鼻は折れて、両目も腫れ上がり、瞼も裂けていた。



▲聖骸布の顔の部分。左が布に出ている像で、右はそれを撮影した写真のネガ。正常な顔に見える。

ひどく殴られたことは明白である。両頬にも切り傷があった。

顔と手足以外の胴体には無数の傷痕を示している。これは男の両側にいた二人の人間からムチで打たれた跡らしい。右側に背の高い男が、左側に背の低い男が立って、交互に打ったようだ。男の像の両肩にひどくすりむけた跡が残っている。これは重い物を運んだ結果と思われる。

当時、エルサレムの磔刑の罪人は十字架全体を担がされたのではなく、丸太の横木だけを運ばされたのである。柱はあらかじめ刑場に立てられていた。だが横木だけでも四〇キロを超える重量はあったと考えられている。膝にもすりむけた跡がある。刑場へ行く途中何度か地面に倒れたのだろう。

右脇腹の第五肋骨と第六肋骨のあいだに大きな傷口が認められ、血液と、

槍で刺されて流れ出た体液と思われる無色の液体のしみが聖骸布に残っている。

また両目にはコインがはめられていることも判明した。これは死後の硬直を防ぐために死体の眼にコインまたは薄い陶器の破片をはめ込むユダヤ人の習慣に従ったものらしい。死体を洗った形跡はない。だから布には血痕が残っているのだが、これについて重要な結果は出ていない。

以上は一九七八年一〇月までに科学者団によって発見された結果である。だが炭素14年代測定はその時点までに実施されてはいなかった。

アメリカの化学者ウィラード・F・リビーが一九四六年に開発した放射性炭素による年代測定法は考古学界で一躍脚光を浴びたが、しかしこの方法は絶対的に正確なものとはいえないので

◀聖骸布の全身像



ある。測定者によつてはかなりの誤差が出ることもあるので、同一の試料を数名で分担して測定し、その平均値を出すほうがよいと、トリノ調査団の一人、ドン・デバンは言っている。

この測定法にかけることは早くから望まれていたけれども、ローマ法王は容易にウンと言わなかった。

ところが一九八八年にやつとヴァテイカンがヨーロッパの数カ所の研究所に聖骸布の切れ端を送つてC14年代測定を依頼したところ、なんと一四世紀の布だという報告が出たのである！これは一体どういふことなのか。

大母船内でイエスの映像を見る！

ここでコンタクティーとして知られる秋山真人氏に登場を願うことにした。

時は今年六月五日の昼下がり。場所は西新宿超高層ビル街の一角にある喫茶店。氏は例によつて非常に真剣に熱弁をふるう。聞き手は筆者のみ。

「イエスについては比較的小柄な人だ。つたとスベース・ピープルから聞いています。非常に広範囲なオールマイティーな能力を持っていた人です。当時は権力支配の強い時代ですから、武力闘争に強い者が勝ち残るといふ非常に混乱した世の中だったわけですね。そうした時期にいわば地球世界を別な方向に切り替える役割を負つて出てきた人です。筋肉質の体格のしつかりした人

だったそうです。顔は少しほっそりとした感じですよ。

イエスは行方不明になった時期がありますが、あのときは東洋へ旅をしたということですよ。

(注)イエスは公生涯の始めにヨルダン川で預言者のヨハネから洗礼を受けて三〇歳から公式に伝導活動を始めていますが、それ以前の青年期に長年月謎の失踪をとげている)

その旅行期間中、東洋の各地をポイントを決めて歩いて、東洋の能力的に強い人達との接触を持ったわけですよ。

そして今後の世界がどういふふうに動いてゆくかということでも話し合いをして、それから元の国へ帰つて、ある意味ではスベース・プログラムにのつとつた活動を展開したわけですよ。

——東洋のどこの国々へ行ったのですか。

「基本的には三カ所へ行つたと思われまふ。チベットは確実に、それとタイあたりではないかと思ひます。あと一カ所はエジプトです。エジプトでは長期潜伏していたようです。そのときにも能力の強い人間と接触をしていました。

その当時にはすでに各国にスベース・ピープルと接触していたコンタクティーがいて、それらとの接触をしていたのかもしれない。そのネットワークの接点を求めて、自分が使命を帯びていることの自己確認をするために

行つたと思われまふ。それと自分の能力向上を求めての研鑽と修行の目的もあったことでしょう。

キリストクラスになりますと、いながらにして世界のどこどこでこれからのという事が起きてゆくのか、が予知できるわけですよ。それが予知できて、しかもそれを具体的に良い方向へ変えるためには、どうしたらよいか、この国ではこういう運動をしたらよいか、というようなことのバランスが分かるわけですよ。

そうした能力を完全にマスターして自分の国へ帰つて、十字架にかかつたと言われているんですけども、これについては民衆の無意識の力というものがあります。それは大きな変革を迎えようとするときに、民衆の持つているカルマのネガティブな部分、つまり膿が大きな形で出てくるわけですよ。それが通常ならば大きな自然災害になつて環境に影響を与えます。

イエスの場合はそうしたカルマの歪みみたいなものを彼自身が背負う形にして消したと思うのです。彼自身が十字架にかからなければ、ほかの民衆が大量に死傷するような事が起こつたでしょう。それが彼の役割だったし、行動の原点というか目的だったわけですよ。そこで民衆の切り替わりが起こつて、彼も異星人からの援助で早速復活する(生き返る)というわけですよ。

——イエスが墓に入れられた翌朝、

マグダラのマリアともう一人のマリアが墓を見に行くと、大きな地震が起つて、主の使いが天から下つて来た。それが石を脇へころがした。その姿はいなずまのように輝き、その衣は雪のように白かつたと新約のマトイ伝にあります(似たような記述がマルコ、ルカ、ヨハネにも見えていふ)。この不思議な人物は異星人で、その人が特殊な方法でイエスを生き返らせたのではありませんか。

「そうです。ですからイエスの再生ということに関しては、異星人が異例の処置をとつたのです。強いパワーを彼に与えるということをやつたわけですよ。歴史的には、異星人が一個人に対して物理的な力を使ったというのは、ただ一度の例外というか、行動だつたのではないかと思ひます」

アダムスキーによれば、イエスは完全に死んでいたのではなく仮死状態であつたという。

——聖骸布の研究によれば、イエスはかなり大柄な人だつたということになるようですが——。

「比較的小柄な人だつたと聞いています。身長はそんなに高くはなくて、肩幅は非常にがっちりとした筋骨隆々たるタイプで、顔はほっそりとした長目の顔だつたと聞きました。聖骸布の場合には染み出し効果のためにパターンが大きくなつた可能性が有ります。あの聖骸布の像で正確に身長を計ると、かな

り大柄な人になるかもしれません。私は一度(別な惑星から来た)母船の中で、生存中のイエスの顔を見せられたことがあります。それはたいそう不鮮明な映像で、完全なムービーではなくて、少しずつ動いてゆく感じの画面でした。ちょうどフィルムのコマ送りが遅くなったような感じです。

それは少し球面になったスクリーンに浮き出した画像で、どつちかというトビデオを見るような感じです。動きはスムーズではなくて、不鮮明で、色も淡い感じでした。しかし聖骸布に出ている顔と全く同じでした(と語気を強める。文中の傍点は筆者による)。

そのときにイエスが手を振る光景が見えたのですが、指は長くて、ふしくれた感じでしたね」

——それはイエスの存命中の姿をスペース・ピープルが何かの方法で撮影したのですか。

「そうだと思います。たぶん何かの方法で記録されている映像でしょう。

ですから、スペース・ピープルに協力した地球人達の行動パターンから遺伝子のパターン、細胞分裂のパターンなど、膨大な記録がしまわれているわけです。それを非常に小さなフロップピームみたいなカードみたいなものに全部記録するんです。

イエスがどのように生まれ変わっていったか、存命中に彼の使命がスペース・ピープルとのあいだでどのように

取り決められていたのかということも教えてもらえませんでしたね。

これは現在も進行している問題です。特にキリスト教圏ではいろんな意味でキリスト教の教えがどうあるべきか、イエスが本当はどのように説いたのかというところは、政治問題にもつながる非常に重要なことです」

秋山氏はこのあとと延々として重要な問題について語るが、それは現代の政治問題にもつながる二千年間の深遠壮大な内容を含むもので、ここには収録しきれない。

なお、前述の炭素14年代測定法によって聖骸布が一四世紀のもものとされた件について秋山氏は、カトリック内の対立からくるトラブルのために情報工事が行なわれたのだらうと言う。つまり本物であるのに、わざと偽物情報を流したというわけだ。これで何らかのケリをつけたものと思われる。

ヨハネであつたアダムスキー

アダムスキーの『第2惑星からの地球訪問者』(中央アート出版社刊・新アダムスキー全集第一巻)の第二部をなす「宇宙船の内部」によれば、地球人のなかで生活するために他の惑星から地球へ人が来るようなことは長く行なわれてきたのかというアダムスキーの質問に答えて、異星人の婦人が、少なくとも過去二千年は続いていると述べ

てから次のように言っている。

「地球人を助けるためにあなたの世界で生まれ変わるように送られてきたイエスのはりつけ以後、地球で生まれ変わるよりも関係者にもっと危険の少ない方法で使命を遂行するようにきめたのです」(同書二〇六頁)

これからみると、イエスは明らかに別な惑星から転生してきたことになる。ただしこの書では出身惑星が明確ではない。

ところが、かなり以前にカリフォルニア州の某所にあつたグループの人間から、一九五二年にデザートセンターでアダムスキーが会見した金星人は、

実はイエスの生まれ変わりであつたと聞いたのが、この種の情報入手の最初であつた。だがこのグループは平然として無数のウソをつくような集団であることが分かつたので、その後絶縁してしまい、その件は忘れていた。

しかしアダムスキーから親しく薫陶を受けたアリス・ポマロイ女史からもその後同様の話を聞いて、筆者は俄然関心を持つようになったのである。アダムスキーは誰にもかれにも話したわけではならしく、ごく親しい側近だけに洩らしたそうだが、とにかくイエスがゴルゴタで磔刑に処せられたとき、「自分はそこにいたのだ」と語つたという。これはヨハネとしての自分がそこにいたという意味である。

新約によると、イエスの凄絶な最期

を見届けたのはマグダラのマリヤその他の婦人達で、ヨハネの名はどの福音書にもでてこない。したがってアダムスキーの場合は自分の過去世の記憶によるものだろう。一体に彼は凄い超能力者で、五千年に及ぶ過去世の記憶を保っていたという。またテレビジョン、遠隔透視、オーラ透視にも抜群の能力を有していたと、アリス・ウェルズ女史から聞いたことがある。だからアダムスキーが自宅で月例会を開催したときは、オーラ透視、過去世透視等を用いて出席者の人物の程度を見抜いていたということだ。

壮麗なイエスの肖像画

それはさておき、例のデザートセンターにおける会見は二千年後の邂逅という劇的なものとなつた、ということになる。この会見後だと思つて、アダムスキーは過去世透視によつてイエスの肖像を描いている。それは、あるときアダムスキーが四角な窓のような枠の中にイエスの姿を見たので、そのとおりに描いたのだとアリス・ウェルズ女史が一九七五年の秋、私が最初にヴィスタの女史の家を訪問したときに語っていた。その絵はどこにあるのかと尋ねると、メキシコのマリヤの家にあるという。

ところがそれから二年後にメキシコを訪れたときに、図らずも私はその絵



▲アダムスキーが描いたイエスの像。 撮影/久保田八郎

を見る機会を得た。このときはそのような貴重な絵を見せてくれるとは思っていなかったのだ。

マリア・クリステイーナ・デ・ルエダ女史はかねてからアダムスキーの熱烈な信奉者で、アダムスキーも彼女に好意を寄せて、クリスマス休暇によく彼女の家を訪れて滞在していたという。ご主人は不動産業を営む大富豪で、城

のような大邸宅に住んでいた。

大ホールというべき一階の広間の周囲を沢山の部屋が取り巻き、ヨーロッパの上流階級の館を舞台にした映画を見るような螺旋階段を昇ると、二階にも多数の部屋がある。その一つに案内されて筆者はアツと驚いた。

等身大のイエスの素晴らしい油絵が壁に掛けてあるではないか。絵画の才

能にめぐまれていたアダムスキーは、よく油絵を描いたというが、これも見事な作品である。だが、よく見ると、上半身はいいのに描いてあるもの、下へゆくにしたがって粗末になっている。顔に重点をおいたのだろう。

爆発しそうな心を抑えながら、筆者は携行したニコンF2で撮影した。アオリのきく大きなカメラを持参しな

ったことを大いに後悔した。小さな絵だと思っていたからだ。

その数年後にマリア女史は他界した。そのときの遺言によってこの絵は額縁からはずされ、キャンバスは巻かれて棺の中に収められ、遺体とともに焼かれたという。

しかし日本人であの絵を目撃したのはたぶん私だけだろうと思えば、その光栄と不可思議なカルマに肅然とするのである。

深遠な転生の法則

転生（てんせい生まれ変わり）という現象は確実に存在するとアダムスキーは唱えている。いまはこの問題が各方面で研究されているし、インドでは過去世の記憶を保つ子供の証言から、実際にそれが実証されたという記録がある。いづれ科学で解明される時代がくるだろう。

ただし、いわゆる霊界なるものは存在しないとアダムスキーは強く主張しているし、秋山氏も同様の発言をしている。このことは二人がスペース・ピープルから伝えられたインフォメーションであるらしい。

人間の实体は息が絶えてから平均三秒で他の新生児の肉体に移行するが、それは胎児が母体から出た瞬間であるという。したがって受胎した瞬間ではない。いわゆる心霊問題に関してはま

だ未解決の部分が多々あるようだ。

したがって人間の生涯は一度限りではない。無数の転生を経てさまざまな生涯を体験する。あるときは有色人にあるときは白人に、ある生涯では男、ときには女に生まれて地球上の国々を転々とする。こうして地球上のレッスンを終えたならば高次元な惑星へ転生する。卒業できなければいつまでも同じ惑星の各地へ『留年』の転生を続けてレッスンを学ばねばならない。精神的に向上してゆけば太陽系から別な太陽系へ、銀河系から別な銀河系へと大宇宙空間の転生の旅を続けるのである。

以上の件は地球が宇宙時代に突入する来世紀の重要な研究課題になるだろう。

歴史の裏面と人間のカルマ

アダムスキーがデザートセンターで見つけた金星人はイエスであり、アダムスキー自身はヨハネであったという話は一般には全く知られていないし、アダムスキーもそのことはひた隠しにしていた形跡がある。これは宗教界の攻撃や嘲笑を警戒してのことと思う。あまりに突拍子もないことなので大半

の読者も半信半疑だろう。

「いかにも本当らしい事がウソで、いかにもウソらしく見える事が意外にも本当なのだ」という格言みたいなものがあるが、これを判断の基準としなくても、謎の出来事はこの世から跡を絶たない。ノンフィクション研究家にとってネタがなくなることはまずない。この世の裏面では何が行なわれているか分かったものではないからだ。

だが、アダムスキー問題のような常識をかけ離れた問題に対する個人の信・不信は、本人の学識教養を超えた何かの基盤によって決まるものだろう。

四〇五歳で楽器演奏の天才的な能力をあらわす少年少女は、両親や祖先から受け継いだ遺伝的要素もあるけれども、過去世で優れた音楽家であった本人の才能が今生に持ち越されたと考えられるのである。無名の一少年が熱烈にイエスに憧れるかと思えば、大実業家が金だけに執着して生涯を終える。これも個人のカルマによるのだろう。

◀オーソン肖像画の横に立つ久保田八郎。一九七五年秋、カリフォルニア州ヴィスタのアダムスキーの家にて。絵は以前に火事があったために傷がついている。ただし日本GAPで頒布しているオーソン肖像写真は出火以前に撮影されたものでウエルズ女史が久保田に贈った貴重な資料



◀イエスの肖像画とアダムスキー。

撮影/久保田八郎



計り知れぬ影響力をもつ アダムスキー

中村省三

■彼の体験は時間と空間を超えて継承されている

ジョルジヨ・ディビントンの主張

アメリカに、ウェンデル・ステイヴンズというUFOの研究者がいるのをご存じだろうか。UFOの写真のコレクターとしては、おそらく世界でも有数の人物である。何度か日本を訪れたこともある。

もともと、UFO事件に関するステイヴンズの調査手腕については、あのスイスのピリー・マイヤーの一連のUFO写真を最初に紹介したのが彼だったこともあり、その評価は人によって賛否相半ばしている。

けれども、彼はその一方で、「UFOフォト・アーカイヴズ」というUFO書籍の自費出版という地道な活動も行なっている。『UFO contactee』の一七号の表紙を飾っているUFOの写真撮影したウィリアム・ハーマンの事件をはじめ、これまでに二〇冊近く出版しているだろうか。

このシリーズの中に、イタリアのジエノヴァ近郊で一九八〇年四月に始まり、一年半にわたって続けられたコンタクト事件の手記がある。

異星人と会見したのは、イタリア北西部の都市ジエノヴァに住んでいるジョルジヨ・ディビントと婚約者のティナ、そして彼らの友人たちである。

つい最近、この単行本を読み終えて、なんとも不思議な感じにとらわれてしまった。なぜ奇妙な感じを覚えたのか、ともかくこのコンタクト事件の発端を、紹介してみることしよう。

一九八〇年四月のある日の午後、ジョルジヨが自宅の部屋でくつろいでいると、光り輝く「天使」が出現した。若い美男子で、きらきら輝くチュニック（古代のギリシア人やローマ人が着用したガウンのような上着）をまとい、肩から光る翼が伸びていた。両足は裸足で、空中に浮かんでいたという。

この「天使」が再び出現したのは、イースター（復活祭）の前日だった。

ジョルジヨが問いかけると、「ラファエル」という返事が戻ってきた。まさに大天使の名前である。

そして四月のある日の午後、ジョルジヨが自宅で休息していると、知らない場所のイメージが鮮明に浮かんできた。森があり、草地在が広がっていて、小道が通っている。

ラファエルの声が聞こえてきた。

「この場所をよく覚えておきなさい。近いうちに、同じ場所にいることに気がつくでしょう。そこで私たちは出会うのです」

そして、ラファエルがテレパシーで彼にコンタクトの指示を与えてきたのは、四月二三日の夜だった。

「明後日の早朝、自動車に乗ってフィナレ・リグレに向かいなさい」

ジョルジヨは愛車のフィアット五〇〇で、西リヴィエラ海岸のフィナレに向かった。目的地に着くと、またしてもラファエルの声が聞こえてきた。

「カリスという場所に向かいなさい。そして、そこから山の方に進み続けるのです」

四月二七日の午後、ジョルジヨは指示に従って車を運転し、谷あいの道を進んだ。間もなく車では進めなくなったので、彼はフィアット五〇〇を駐車すると、徒歩で前進した。

もう太陽は後方へと沈みかけており、前方からは月が昇り始めていた。山道を登っていくと、前方に開けた空き地

があった。彼がヴィジョンで見たのとまったく同じ光景だった。

ラファエルの声が聞こえてきた。

「私たちはすぐそばまで来ています。太陽の出ている方角からそちらに接近しているところです」

円盤型物体が出現

振り返ると、沈みゆく太陽の前方に一片の雲が浮かんでいて、急速に近づいてくる。ブーンという軽やかな音が聞こえてきた。

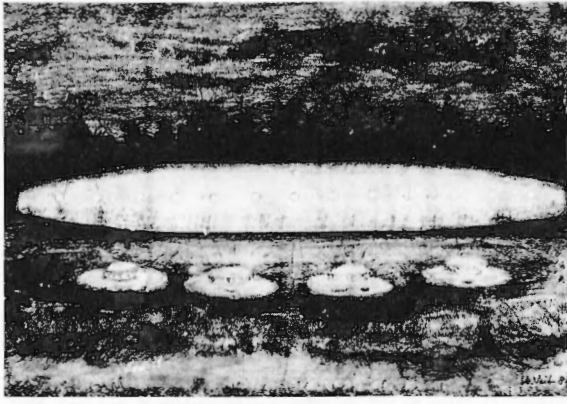
その不思議な物体は接近しながら減速し、ジョルジヨの頭上三〇メートルまで降下してきたかと思うと、そこでぴたりと空中に静止した。

大きな銀の皿のような形をした円盤だった。円盤の周囲には、色とりどりのライトが点灯していて、底部には3つの大きな球体があった。

円盤はふたたび移動すると、木立の上空で静止した。上部には大きなドームがあり、その先端からは眩しい光が放射され、周囲を明るく照らしていた。ドームの小さな丸窓からも光が放射されていた。

「私たちがこうした方法で地球人と会見するのは、今回が初めてのことでありません。太古の昔から、私たちは宇宙船の中から、地球人に語りかけてきたのです。聖書にも、神が雲の中から地球人に語りかけたと言われています」

で円盤が一瞬透明になったかのように円盤の内部がはつきりと見えた。ラファエルはドームの真下に立ち、踝まで届くローブを着て、両手を彼の



▲ディピントの本のドイツ語版表紙イラスト

す。今回の会見も、あなたがたの先祖がこれまでずっと体験してきたこととまったく同じなのです」
ラファエルは円盤の中からテレパシィでメッセージを伝えると、近いうちにまた彼と会見することになると言い残した。
空飛ぶ円盤の周囲の光が変化し、白から紫、そしてオレンジへと変わった。稲妻のような閃光がきらめくと、まる

方にさし伸ばしていた。ラファエルのそばにも何人かいるようだったが、はつきりとはわからなかった。

空中に静止していた円盤は、ブーンという音を発しながら、月の出ている方角へと飛び去った。

ジョルジョが車を停めた場所に戻ってみると、円盤が噴射するエネルギーを浴びて、ファイアット五〇〇のエンジンのジョイントとガスケットが溶けてしまっていた。彼が車をスタートさせようとしたら、エンジンから白煙がもうもうと噴き出したという。

修理のためにファイアット五〇〇をフィナレの町に残し、ジョルジョは列車でジェノヴァに戻らなければならなかった。

車を点検した自動車修理工は、エンジンのオーヴァーヒートにしては奇妙だと言って、納得できない様子だったが、ジョルジョは本当の原因については黙っていた。

後日、なぜあんなことをしたのかとラファエルに聞いたところ、直接コンタクトしたというのをジョルジョに得心させるためだという返答が返ってきた。確かに、そんな出来事があれば、夢や幻覚ではなかったことがはつきりする。

ラファエルの紋切りの型説教

2 回目のコンタクトのとき、ラファ

エルはジョルジョから五〇メートルほど離れた場所に立っていた。

ラファエルの身長は一メートル九〇センチ弱で、年齢は見当がつかなかった。顔立ちには、最初に彼の家に出現したときと変わらない。ラファエルはオリーブの木立の中に立って、ジョルジョにはほほ笑んでいた。

「最初は、私は光の次元であなたの前に姿を現わしました。今、あなたが目にしているのは、私のコズミック・フォーム（宇宙的な形態）です」

ラファエルは、自分の姿を指しながらこう説明した。そして、さらに話を続けた。

「聖書に書かれている事柄の多くは、抽象的で象徴的なように思えます。けれども、そこに書かれている事柄はこれまでに実際に起きてきましたし、今後必ず起きることなのです。」

間もなく、歴史上の決定的瞬間が訪れようとしています。あなたの惑星全体が、過去何千年にもわたる歴史の中でまったく経験したことのない時代に入ることになるのです」

そしてラファエルは、あたりの景色を見回した。

「なんて美しいのでしょう。地球は宇宙の中で最も美しい惑星の一つです。けれども、地球人の傲慢と利己主義によって、この惑星はまさに危機に瀕しています。」

はるかな昔から、私たちは地球人を

助けようと努力してきました。あなたがたが地球にもたらそうとしているカタストロフィー（大破局）を回避し、あなたがたが善なるものに目覚め、その通りに行動するように影響を及ぼしてきたのです。

けれども、私たちにできるのは、地球人が完全に自由に振る舞いながら、自ら向上していくのを手助けすることだけなのです。私たちは、地球人を実力で従わせるつもりはありません」

ジョルジョは、万一、大災厄が地球を襲ったときには、異星人が援助してくれるかどうか質問してみた。

「われわれは、全員が同胞であり、万物の創造主の子供です。私たちの愛はすべてのものに、無条件でわがち与えられます。たとえ創造主の普遍的な宇宙の法則に敵対する立場を取り、悲惨な死へと至る道を選んだ人々に對しても、この愛は変わることがありません。けれども、万物の創造主の寛大さにつけこむのは最大の悪であり、神に對する挑戦にほかなりません」

そして、ラファエルは深い憂慮を示しながら、悲しげに語った。

「創造主から大いなる愛を込めて授けられた宇宙の普遍的な教えに従わないと、どれほど危険なことになるか、あなたがた地球人は十分に理解しなければなりません。この基本的な法則が、宇宙を隅々まで支配し、生命の誕生と発達を可能にしているのです。」

このことを学ぼうとしない者は、その過ちの大きさに応じて、苦痛に満ちた浄化の力を体験することになるでしょう」

ちょうど同じ時刻に、ジョルジョの婚約者のティナも、このコンタクトの様子をヴィジョンによって知らされていた。しかも、次回のコンタクトの際には彼に同行するようにと、テレパシィで指示されたのである。

ジョルジョとティナは、彼らの体験したことを、ごく少数の親友にだけ打ち明けた。

こうして、ジョルジョたちと異星人との本格的なコンタクトが始まる。

コンタクトは基本的に、ジェノヴァ郊外の山中で行なわれている。これは精神的にも肉体的にも汚染の少ない場所がコンタクトに適しているからだろうだ。また雨が降る中でコンタクトが多かったが、これもラファエルによると、雨によって汚れを浄化するためだということだった。

五月一日の午後のコンタクトでは、ジョルジョだけでなくティナも同行し、三人の異星人と会見している。

異星人からの指示で現場から数キロ離れたふもと谷に残っていた四人の友人たちは、UFOが飛んでいくのを目撃した。そればかりか、彼らはコンタクトの内容の一部をテレパシィで伝えられたのである。

その後もコンタクトは続き、彼らは

全長一〇メートル以上の巨大な葉巻型宇宙船を目撃したこともある。

その巨大な宇宙船の機体の端から四機の円盤がまぶしい光を放ちながら出現し、前方の草地にゆっくりと着陸した。円盤の小さなドアが開くと、男性五人、女性四人の男女の異星人が姿を現わした。

また、穀物畑でのコンタクトのときにも、巨大な葉巻型宇宙船が数百メートル上空に出現した。母船の内部から大型の美しい円盤が姿を現わし、畑の間にある空き地に着陸した。

このときには、以前に会ったことのある異星人たちのほかに、もう一人女性の異星人がいた。

その初めて見る女性異星人は柔らかそうな空色のスペーススーツを着ており、肩まで届く長い髪の毛は明るい茶色だった。年齢は二〇歳ぐらいで、青い瞳をしていた。彼女の全身から洗練された気高さがほとぼしっていた。

その美しい「レディ」は、間もなく地球の人類が、これまで体験したことのないほどの試練に直面することになるでしょうと警告した。

彼らがその警告の「しるし」を目撃したのは、一九八〇年六月二十九日、ジョルジョが友人たちをさそって東リヴィエラにあるブラッコの山頂に出かけたときのことだった。

太陽の前面で、巨大な円盤型の物体がうねりながら旋回していた。まるで、

太陽そのものが回転を始めたかのように見えた。目撃した者全員が、そのドラマティックな光の舞踏に魅了されてしまった。

これは、地球人類に対するスペース・ブラザーズからのメッセージだったのであるという。

円盤の内部に入る

一九八〇年七月二七日の夜のコンタクトのとき、ジョルジョとティナ、そして彼らに同行していた友人のパウロは着陸している円盤の内部に案内してもらうことができた。

円盤の内部は簡素だったが、エレガントな感じがした。中央の部屋は光源が見当たらず、あらゆる方向から光が差し込んできているようだった。

円盤のドアが開まると、床がかすかに振動した。そして円盤は上昇し、地球の大気圏外にいる母船へと向かって飛行した。

母船の中に入ると、そこはかなり大きな部屋になっていた。部屋の中は、美しい色彩が微妙に変化し続けており、暖かみと優美さが波動のように伝わってきたという。

彼らは母船の内部で、スペース・ブラザーズから高度な立体映像によって宇宙の普遍的な法則の説明を受け、黙示録の大破局が地球に迫っていると警告された。

ジョルジョとティナ、そしてパウロはその後も何回か宇宙旅行を体験しており、美しい惑星に連れていってもらったこともある。

一九八一年九月初旬、彼らはジェノヴァ近郊の丘で、ラファエルたち二人の異星人を従えた美しい「レディ」と最後の会見をした。

メッセージを受け取ったジョルジョたちが草むらにひざまずいていると、「レディ」と異星人は円盤に乗り込んで飛び去ってしまった。

その後、ジョルジョたちは講演活動を通じて、異星人から授かったメッセージを普及する活動を展開していく。その活動の一環として執筆したが、その本である。

聖書を基盤にしたストーリーか

まさに典型的なコンタクト・ストーリーだが、彼らが授けられた異星人からのメッセージは、あまりにも聖書の記述を重視しすぎている気がしてならない。

異星人は最初「天使」として出現しているし、美しい「レディ」は聖母マリアを彷彿させる。また彼らが目撃した太陽の奇跡も、あの有名なファティマ事件のミニチュア版といった印象が強い。

このコンタクト・ストーリーは、聖書の黙示録予言と聖母予言が底流にあ

ることがわかる。

それにしても、スペース・ブラザーズが、今たためて聖書の内容を強調するのはなぜなのだろうか。コンタクトイーターたちがカトリックの信者なので彼らが受け入れやすい形を採用したのかもわからない。

それはともかく、一番驚きだったのは、五月一日に三人の異星人に会ったとき、ラファエル以外の二人がそれぞれオーソン、ファーンと名乗ったという記述である。

そればかりかラファエルも、自分もアダムスキーが付けた仮名があるとジョルジョに打ち明けたのである。

「私はラミューという名でした」

あるいはまた、その後に出会った女性の異星人たちも、カルナ、イルムスなど名乗っている。

もちろん、これらはジョージ・アダムスキーがコンタクトしたスペース・ブラザーズたちの名前、しかもアダムスキーが名付けた仮名である。

ジョルジョの証言を信用すれば、異星人たちが嘘をついているのではないかぎり、彼はアダムスキーが会見したのと同じ金星人や火星人、土星人たちとコンタクトしたことになる。

このコンタクト・ストーリーは、アダムスキーのコンタクト体験の真実性を裏付けるものなのだろうか。それとも、単にアダムスキーの権威に寄り掛かろうとしているだけなのだろうか。

そのあたりがどうにも判断しかねて、なんとも不可解な気持ちになってしまったのである。

ともかく、この事件を通じて、アダムスキーの体験が完全に過去のものになつてしまったわけではなく、今日まで受け継がれていることを、うかがい知ることができよう。

このジョルジョ・デビントの著作『宇宙船の中の天使たち』は、最初一九八〇年にイタリアで出版され、その後ドイツ語に翻訳された。

アメリカのニューヨーク州ロチェスターでUFOの研究グループを主宰するビルとローダのシャード夫妻は、そのドイツ語版から英語に翻訳して、ごく小部数を配布していた。

ビル・シャードは、元イーストマン・コダック社の計画開発主任技師で、ロドファー・フィルムの分析を行なった人物である。当然ながら、生前のアダムスキーとも親しかった。そのため、とりわけ興味を感じてこの翻訳に取り組んだのだろう。

一九九〇年五月一日に、ステイヴンスはシャード夫妻の家を訪れたときに、夫妻が数年前に出版した翻訳書を受け取った。そして一九九〇年に、彼の「UFOフォト・アーカイヴズ」から出版したのである。

ミシェル・シルジェの主張

これが、アダムスキー体験が時代を超えて継承されていることを物語るエピソードだとしたら、次に紹介するフランスのUFO研究者ミシェル・シルジェの「エイリアンの筆記法に関する新たなアプローチ」という論文は、アダムスキー体験の同時代的な拡張といえるかもしれない。

一九九一年二月初めのこと、シルジェは「ヒューマノイド」のフランス語版をバラバラとめくっていた。この書籍は、かつてイギリスの『フライング・ソーサー・レビュー』誌の編集長だったチャールズ・ボウエンが編集したもので、異星人との遭遇事件を集めた古典的な書籍である。

すると、一九五七年一月一日にブラジルで起きたUFO事件の体験者が描いたスケッチが目に入った。それは、アントニオ・ヴィラス・ポアスという青年がUFOの内部に連れ込まれた際に見たというものである。

アントニオ事件の内容はまさに奇想天外だが、ブラジルのオラヴォ・フォンテス博士やウォルター・ビュラーなどによって詳しく調査されており、きわめて信憑性の高い事件だと評価されている。

この事件は非常に有名なので、シルジェも以前にスケッチを見ていたのだ

が、そのときはほとんど注意を払わなかった。ところが、あらためてアントニオのスケッチを見直したところ、同じような記号をどこかで見たことがあるとひらめいたのである。

彼はすぐに思いあたった。一九五二年一月二〇日に、ジョージ・アダムスキーが会見した金星人が砂漠に残した足跡の模様と同じような記号があったのである。もつと正確にいうと、金星人の足跡の左足の踵の部分にそっくりだったのだ。

シルジェは、もはや故人となったペルギーのUFO研究者J・G・ドーマンの『Le Cas Adamski (アダムスキー事件)』という著書を読んで以来、ずっとジョージ・アダムスキーに関心を持っていった。

なお、このドーマンの著書は、アメリカや日本ではまったく知られていないが、シルジェによると、ジョージ・アダムスキーに関する必須文献の一つだということである。

ドーマンの本を読んだからというものの、シルジェはほとんどのUFO研究者がアダムスキーをペテン師呼ばわりしているのは不当だと思ふようになり、アダムスキーの体験が真実だという証拠を見つけ出そうと努力していた。

そのため、シルジェは金星人オーソンがデザートセンターの地面に残した足跡の模様はもちろんのこと、アダムスキーが一九六二年一月一三日に金

星人から受け取った写真版の金星文字もそらで覚えていた。

念のため、ジルジェは書庫からアダムスキー関連の本を持って来て、アントニオのスケッチと比較対照してみることにした。

彼の記憶に間違いはなかった。アントニオのスケッチと、金星人の左足の踵のシンボリックな模様との間には、驚くほど似通った点がいくつも見つかったのである。

ジルジェの指摘に従って、アントニオのスケッチ(1)と、金星人の左足の踵の記号(2)を、それぞれ三つのグループに分けて比較してみよう。

a 7に似た記号は、(1)では内部に二本の短い線がある点を除けば、そっくりである。

b Vに似た記号は、(1)では三本の短い線のところがあるが、(2)では黒点になっている点を除けば、これまたそっくりである。おそらく三本の線と、一個の黒点とは、記号の意味が違うのだろう。

このVに似た記号は、(1)と(2)とは、ちょうど鏡に映したように天地が逆になっている。

当然ながら、石膏で取った足跡の型は、靴底とちょうど同じになっているが、靴底と違って、デザート・センターに残された足跡の記号は二通りに解釈できる。砂漠に残された足跡の通りに解釈するか、それとも靴底を直接のぞきこ

んだとおりに解釈するからである。

c アントニオのスケッチに出てくる残りの二つの記号については、金星人の足跡に同じものは存在していない。

けれども、アダムスキーが金星人から受け取った写真に写っている無数の記号の中からだと、片方の記号が少なくとも三つ、残りの記号が一つあることが、はっきりと分かる。

なお、足跡に出てくる円の記号も、写真の記号の中には一つしか見つけることができない。

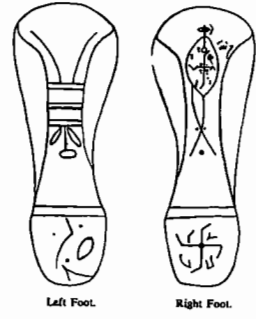
このことから、アントニオ・ヴィラス・ポアスのスケッチと、金星人オースンのシンボリックなメッセーじとの間になんらかの関連があることは、誰にも否定できないだろう。

この類似は、偶然の一致ではとうてい片付けることができない。けれども、ジルジェが発見するまで、四〇年近く見過ごされてきたのである。

これらのシンボルはすべて同じ異星人のものか、あるいは同じ文字体系を持つ異星人のグループのものだと考えられる。

けれども、これをどのように解釈したらいいのだろうか。アントニオ・ヴィラス・ポアス事件と、ジョージ・アダムスキーの体験とが、どこでどのように結びつくというのだろうか。ほとんどのUFO研究者がこうしたいい付きを一蹴することは、まず間違いない。

アダムスキーが会見した金星人の足跡

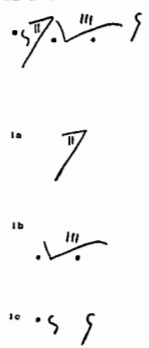


サンマルタンのタフレット事件

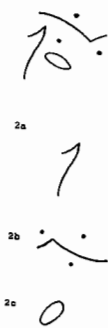
それでも、この二つの事件の「ミッシング・リンク」と思われる事件が存在するのである。それは、サンマルタン事件である。

一九五四年一月一七日のこと、スペインのマドリッド郊外に住んでいたアルベルト・サンマルタンは、なぜか眠れずに苦しんでいた。彼は「メンタル・フォース」に導かれるまま家を出ると、ラ・コルーナ・ハイウェイの橋

① アントニオがUFOの内部で見た記号のスケッチ



② 金星人の足跡のうち左足の踵のマーク



すると、その場所に高いドームのある円盤が着陸した。円盤の中から、体にびったりしたウェットスーツを着た異星人が出現した。その異星人は髪が長くアダムスキーが会った金星人とよく似ていた。

その異星人はサンマルタンに対して親愛の情を表わす態度を示すと、無言のまま、薄紫色をした奇妙な石のタブレットを彼に手渡した。タブレットは長さ一二センチ、幅四センチ、厚さ二センチぐらいいで、その一面には読解できないシンボルが刻まれていた。その善意に溢れた異星人は微笑を浮

かべながら、別れの挨拶をすると、宇宙船に戻り、飛び去っていった。

その後、アルベルト・サンマルタンは、石の研究をするため、ブラジルに移住している。

現地取材した矢追純一ディレクターは、サンマルタンが異星人から受け取った石について、ブラジルの鉱物分析研究所が「この石は人工のものである。しかし、地球上の科学では造ることができない」と結論したと報告している。(矢追純一「写真で見える空飛ぶ円盤の真相」平安書店)

一方、アダムスキーの著書『空飛ぶ円盤の真相』(新アダムスキー全集第六巻「UFOの謎」に収録)の中には、次のような記述がある。

「一九五六年にメキシコで休暇をすごしているとき、私はスペインから一通の手紙を受け取ったが、それはその国のある人が円盤から出て来た人と個人的な会見をしたことと、それが一九五二年に砂漠で私と会った宇宙からの訪問者と同じ人かどうかを尋ねた文面であった。その場合は異星人がそのスペイン人に一個の美しい奇妙な石を与えたが、その表面にも見慣れぬ文字が刻まれていたという。手紙の中に同封されていたその石の写真には、私が受け取ったあの文字とよく似た象形文字が写っていた」

このことから、一九五六年にメキシコ滞在中だったアダムスキーが、サン

マルタンがスペインから出した手紙を受け取っていたことがわかる。その手紙には、サンマルタンが異星人からもらった石のタブレットの写真も同封してあったのである。

手紙を受け取ったアダムスキー自身も、石のタブレットに刻まれている記号が自分の受け取った金星文字とよく似ていることに気がついている。

実際、それらのシンボルのいくつかは、一九五三年にアダムスキーが宇宙人から受け取ったフィルム上の記号とまったく同じといえるほどである。

たとえば、サンマルタンがもらった石のタブレットには二列の記号が刻まれているが、その左上にある土星型の記号は、アダムスキーが受け取ったフィルムの左上にある記号とそっくりである。また、左側の上から三番目の記号も、フィルムに出てくる。

そしてもちろん、アントニオ・ヴィラス・ポアスのスケッチと、アダムスキーのフィルムに共通して登場する二つの記号が、サンマルタンのタブレットにもちゃんとある。ただし、サンマルタンのタブレットでは、鏡に映したように左右が逆になっている。

また、アントニオのスケッチには、Vに似た形の記号に二つの黒点と三本の直線が配されているものがあつた。この三本の直線はアダムスキーが金星人から受け取ったメッセージには含まれていない。けれども、サンマルタン・

ストーンの左下にある記号は、まさに三本の直線なのである。

アルベルト・サンマルタン事件について、多くのUFO研究者はまじめに受け取らずに、「インチキ」だと片付けてしまっている。けれども、もしサンマルタンのタブレットが偽物だとしたら、どうして三本の直線を刻み込むことが可能だったのだろうか。

三本の直線は、サンマルタンのタブレット以外には、アントニオ・ヴィラス・ポアスのスケッチにしか登場しない。アダムスキーが入手したフィルムにも、金星人の足跡にも、それに似た記号は出てこない。

もし、サンマルタンがアダムスキーの話から着想を得てコンタクト・ストーリーをでっちあげたのなら、当然アダムスキーの著書に出てくる記号をもっと取り入れるはずである。ところが、その代わりに、サンマルタンは一九五四年の時点で知っていたはずのない謎めいた記号をタブレットに刻み込んだことになる。

ともかく、アダムスキーが真実を語っているなら、サンマルタンもアントニオも真実を語っている可能性が高いということになる。

おそらく、これら三つのコンタクト事件にはなんらかの関係があるはずである。ただ、それぞれをつなぐ「鍵」が失われてしまっているため、現在とっては、なんとも不思議な感じがす

るのではないだろうか。

今のところ、データがあまりにも不足しているため、これ以上の謎の解明は不可能である。

編者注

『第2惑星からの地球訪問者』に出てくるアダムスキーとコンタクトした異星人のグループは、地球での任務を終えて帰星して以来、再度地球人とのコンタクトは行っていないと編者はアリス・ウェルズ女史から聞いたことがある。女史はアダムスキーからそのことを聞いたのだろう。またアダムスキーが体験記を執筆するにあたって読者の便宜のために仮につけた異星人達の名前を、彼らが見ずから名乗ることはあり得ない。混乱が生じるからだ。

「地球は美しい星だが、地球人の傲慢と利己主義のために地球は危機に瀕している」「地球はまもなく大変動を迎える」などの表現は各種のコンタクト・ストーリーに出てくる決まり文句で、これらはすべてアダムスキーの書物の焼き直しとしか考えられない。ただしサンマルタン事件には考慮の余地がある。異星人が特殊な石を地球人に与えたという事例は他にもある。

筆者・中村氏があえてディビントのストーリーを取り上げたのは、アダムスキーが如何に大きな影響を与えたかを強調するためであつて、参考資料として提供したのである。

宇宙の意識とともに 願望を実現させる方法

高梨十光

(アールティオーオー鍼灸オフィス院長)

最初に言葉があった
言葉は神と共にあった
言葉は神であった

「生命の科学」の本質ともいえる「創造の原理」。その一方法が

「ミラクル・ワード」(反復思念法)

「ミラクル・イメージ」(イメージ法)である。

宇宙の法則であるこの方法は、古来より伝承実践されてきて、地球を救ってきた。多くの偉人がそれを知っていたことは想像に難くない。

「今日の自分とその環境は自分が望んできた、あるいは選択してきた環境である」

「人間の心で思ったことが、宇宙の意識

に伝えられ宇宙の意識がそれを適えてくださる」

久保田会長は、日本GAPの活動において、この超能力を多用され、想像を絶する危機を脱し、幾度も奇跡を起こされてきたという。

この奇跡を起こす驚異的方法を知った熱心な日本GAP会員は早くからこれを忠実に実践し、数々の奇跡を起こしてきた。

久保田会長がかなり以前から推奨されているこの宇宙的願望達成法を筆者もいち早く取り入れ実践してきた。この方法は筆者自身を救うことはもちろん、周囲にも多大な影響を与え続けてきた。

今回、光栄にも拙稿をしたためることにになりましたのも、すべて久保田会長のご高配と感謝申し上げます。

UFOにあこがれた少年時代

筆者は小学生の時、少年週刊誌を毎週購読していた。現在の少年週刊誌と違って知的な特集があった。これによってずいぶん知識が広がった。少年の大好きな飛行機、自動車、冒険、科学の特集は夢中で読んだものだ。「空飛ぶ円盤宇宙人の特集」もあった。「空飛ぶ円盤」「宇宙人」これは本気で存在すると信じていた。

世界をリードする人々は、これを研

究していて、宇宙文明を導入する方向に進んでいると信じ続けていたのだが、どうやらそうではなく、問題はかなり複雑であるとうっかり始めたのは、ずいっと後のことであった。

多感な中学、高校時代。進学、進路について苦悩していた渦中、この世界の真理を探究したくなってきた、何かを求めていたが、はつきりしなかった。何かのイメージがあったがはつきりしない。今になればそれは「イエス・キリスト」「聖書」「地球」「宇宙」「円盤」「スペース・プログラム」というイメージであるが、言葉として理解できないので何であるか不明であった。

そして実に不思議なことに、小学生の時、少年雑誌で感動して見た母船の構造のイラストなどのイメージが浮かび始めてきた。どこかでそれを感じるのだ。それは次第に具体的に「円盤」という言葉になった。

こうなれば簡単である。熱海の第二ビルの書店で、これだという本を入手した。それは、久保田先生訳すところの「空飛ぶ円盤同乗記」であるということになればまことに都合がよいのだが、その書店にはそれはなかった。

「空飛ぶ円盤のすべて」平野威馬雄氏編を目を凝らして読むうちに、空飛ぶ円盤の果てしもなく壮大なロマンを感じ「空飛ぶ円盤」の研究にすべてを賭けようと思案した。出版社の高文社に問い合わせたところ、三団体のUFO

研究会を紹介していただけだ。

選択には慎重に慎重を重ねた。名称だけからいろいろ検討してついに入会したのは日本GAPであった。後になって知るのだが、日本のUFO研究界はコンタクト派とアンチコンタクト派に分かれ、日本GAPはコンタクト派に属し、特にG・アダムスキー氏を支持するグループでは最も正統的であるということだった。

「UFO研究は人間研究である」とは久保田会長の格言であるが、三〇年以上も信念を持ち続けて活動しているそのエネルギーは偉大である。私達は常にそのことを念頭に入れるべきである。

久保田八郎との出会い

日本GAPの宇宙的規模の活動に、まだ青二才の筆者が参加していいものだろうか、躊躇があった。あえて荒波に船出することもないのにといい萎縮した考えもあった。また、デザートセンターでG・アダムスキー氏と会見をした金星人オースン氏は、イエス・キリストそのものだとしたらと想像しただけで思わずため息が漏れた。

地球的規模、宇宙的規模の活動にこの一介の少年が、加担してよいものだろうか？ その資格があるのだろうか？ 浮かびくる多くの疑問を解くべく機関誌や「生命の科学」を熟読する勉強に明け暮れた。また宇宙哲学は、



▲高梨十光氏

生きる支えとなっていた。

熱心に日本GAPの勉強をするうちに、どうしても、憧れの久保田先生にお目にかかりたいと強く思うようになった。月例研究会で、空飛ぶ円盤と宇宙人の研究をしていると思うだけで、憧れは募るばかりであった。

この夢は実現した。池袋の豊島区民センターに到着して廊下で待っていると颯爽と入場してくる先生をお見かけした。

憧れの久保田先生はベレー帽を被られ、一見すると雰囲気は鉄腕アトムで有名な天才漫画家手塚治虫先生（手塚先生は昭和三二年に鈴鹿山脈上空でUFOを目撃されている）に似ていた。

体格は写真で拝見するより大きく立派で、ハンサムな白人のようだった。ついに雲の上の人を拝見したのだ。（編注）これは昭和四五年頃）

次々と願望が実現する

その後、何回か東京本部月例研究会に出席して多くの方々と接触することが出来た。筆者は、円盤をぜひとも目撃したいと思っていた。

すでに願望達成法は、機関誌の久保田先生の記事を熟読し、実践していたのは当然である。このイメージを描いてかねてからの最大の念願だった「円

盤を目撃する」ことが本格的に可能となったのは、比較のおそく二三歳ごろであった。

当時一部の間では、円盤観測の達人として尊敬されていた池田雅行氏に、円盤目撃法の技術を乞うことによつて、筆者は急速に自信をつけその夢を適えたのだ。

実は、当時、久保田先生が社長だった出版社から発行されていた「UFOと宇宙」で「円盤をよく見る人」とセンチシヨナルにとりあげられた池田雅行氏の記事に大感激して、あては何もなかったが、「この方にぜひ円盤を目撃する方法を教えてください」と「ミラクル・ワールド」「ミラクル・イメージ」をしてお願いした。その結果として、東京本部月例研究会終了後にどういふわけかすんなりと池田雅行氏のグループと合流し、待望のUFOシーイングの秘訣を体得する一歩を踏むことになった。友人たちとUFOの観測を続けていたそのころと前後して、自動車の運転免許、鍼灸師の資格もイメージ法を大いに活用して取得した。自動車の免許取得においては実技の仮検で不合格とされたのはショックだった。自信はあったのに、何故か不思議だった。教官の評価はこうだった。「あなたは運転がうますぎる」

続いてイメージ法によつて今度は熱海の鍼灸専門学校を無事卒業し、医療類似行為者の資格を得たことは幸運だ

った。現在は鍼灸が注目され、鍼灸大学、大学院があるが、筆者が資格取得した時に比して明らかに高い資金と学力が要求されている。よい時に取得したものである。

今度は就職である。資格を得れば開業権があるが、その前に病院、もしくは鍼灸院で臨床を経てから開業したかった。これももちろん「ミラクル・ワールド」「ミラクル・イメージ」を行なっていた。

すると考えもしなかった経路から、リハビリテーション病院で職員を募集しているから就職しないかというまことにうまい話が飛び込んできた。西洋医学を勉強するチャンスだと思つて就職した。その病院は経営が安定していてボーナスも多く、「先生、先生」とチャホヤされた。本当にこれでいいのかと思うほど楽しい思いをした。

日本GAPにたいする協力活動も順調で、毎日が楽しくてしかたがない。円盤も出現してくださる。「ミラクル・ワールド」「ミラクル・イメージ」も絶好調であった。

結婚も重要な人生の出来事であった。双方の家庭の事情で、とても結婚できる状況になかったが、「ミラクル・ワールド」「ミラクル・イメージ」で、この難関を突破した。当時、亀田一弘先生という大超能力者がおられ、久保田先生と昵懇が深かった。機関誌の住所を頼つて、東京の事務所にお伺いし、透視

をしていただいた。ものすごい超能力である。そこである程度の方針が決まり、その後、強烈な「ミラクル・ワード」「ミラクル・イメージ」で晴れて結婚に至った。

忘れもしない。緊迫して妻のご両親に結婚を申し込みに行く時、新幹線のホームから円盤状のUFOを見た。本当にありがたいと思った。筆者は奨めたい。とことんチャレンジすべきだと「信念の力」「希望の力」「絶対に諦めない力」がある限り――。

新婚旅行は日本GAPの旅行に参加して、北米、南米に行けた。ナスカの地上絵の巨大滑走路のような模様はマスコミの情報と見解とはまったく異なり、実見によれば、明らかにインディアンが鋳で掘ったのではないということが解って得るものがあった。

少年時代からの夢、聖書の地、イスラエルにも夫婦で参加した。イエス・キリストが活躍された場所が二千年後の今日も現存していることはまさに驚異的で、地球にとつて最重要な史跡が、何かの力によって守られているのだと思った。この例はカルフォルニアのデザートセンターにも該当するだろう。久保田会長は毎年、現地調査をしてもらえるが、きつと目的を完遂されることだろう。

さて筆者は、飛ぶ鳥を落とす勢いで、公私共に絶好調であった。特に「ミラクル・ワード」「ミラクル・イメージ」

の研究は楽しく、情熱を込めていた。

反復思念法を実践して、長年、多数の人々を救済してきた聖人も呼べる方がいた。久保田会長はこの方とも親交があった。アダムスキー氏を支持していた神戸の瞑想の達人、異直道先生である。袋井市で行なわれていた「般若心経講座」は、越智宏倫先生（現在農学博士、日本老化制御研究所所長、日研フード社長）が当時、毎月開講され、講師には異先生を招聘されていた。

異先生はスペース・ビープルを「宇宙の聖賢」と崇めておられた。

「なおる なおる きつと なおる」「よくなる よくなる きつと よくなる」などと反復して唱えることによって奇跡を起こしていた。

久保田会長は、「ミラクル・ワード」「ミラクル・イメージ」を推奨されていたが、この研究推進に大いに役立ったのである。

筆者の意欲はますます高まり、日本GAPへの協力活動も充実していった。

ストレスを見事に克服

そんなおり、思わぬ事態が発生した。当時、順調だった地元の支部の日本GAPへの協力が思うように運ばなくなってしまうのである。日本GAPで活躍できないことは、その道一筋でや

つてきた男にとつて大変なショックだった。

久保田会長は三〇年以上も聖なる日本GAPを率いる間には、何度となく人間関係のトラブルに遭遇されている。筆者も似たような例を経験した訳だが、これは強烈なものだった。

この問題も根性だけでは負けない筆者だから強烈な「ミラクル・ワード」「ミラクル・イメージ」でうまくきりぬけられるはずだった。

しかし今回だけは違った。途中で、突然、異様な感じがして、一種の重い倦怠感に襲われた。強烈なストレスのため、身体がおかしくなったのだ。これは結論をいうと何年も簡単には治らなかった。筆者は健康には自信があつたので、このように気力、体力が衰退するとは、想像もしていなかった。症状を人に説明しても解ってもらえない。精神内科に受診をすれば、精神安定剤をたっぶり飲むことになつただろう。

そこで鍼灸治療を自ら行なつたのである。得意の「ミラクル・ワード」「ミラクル・イメージ」を行なおうにも、以前のように行なえない。気力が出ない。しかし、「宇宙哲学」を学んでいる人間がこんなことでギヴアップしてはならない。焦らずリラックスして、宇宙の意識の力が湧き起こってくることを毎日続けた。

「必ず復活するのだ」

身体は一向によくならなかった。ところが、願いが通じたのか、ある日、漢方薬治療の優秀な先生がいるという嬉しい情報を得た。即座に印象で本物だと確信した。東北薬科大学卒業の佐藤悟先生は、病院勤務後、独立し、奇跡的な治療成績を上げていた。漢方薬は古代中国より人間を救つてきた歴史があり、信頼性は抜群である。佐藤先生ご処方の漢方薬を飲むようになって、筆者は急速に健康を取り戻していった。

不思議なネズミの出現

ある夜、就寝中、誰かがドンと足跡をたてて侵入してきた、と思つたほど不思議な音がした。

これがプロログであった。目が覚めた。妻もその音に驚いて起きた。しかし玄関のドアはしっかりと閉めてあるはずだ。変なことがあるものだと思つた。聞き耳をたててもその後、なにも物音がしない。その夜はそのまま眠ってしまった。

翌朝、台所の大きなジャガイモが紛失していると妻が騒いでいる。あの音は、ジャガイモが流し台から落ちた音だったのだ。ネズミが落としたのだろう。

コンクリート住宅の二階にネズミが出現するとは驚きだ。

昼間、寝室の小さなマスケットがな

くなっているのに気がついた。

それから、ネズミは、毎日、部屋に侵入してきた。施設の管理責任者によれば、筆者の住宅のみに出現して他には出現していないという。しかもいまだかつてネズミが侵入するなど聞いたためしがないという。

被害は続出。人形がかけられたり、双眼鏡のアイピースをけられた。電気コードもかけられた。とにかくあらゆるものをかじったり、運んだりする。侵入経路をついに捜しあてた。台所のペニアの壁に穴を開けている。早速、板でふさいだ。

ところがその夜、すぐにかじられてしまった。またふさぐ。また穴を開けられる。これのくりかえし。

ネズミに積極的に出られれば、人間も弱いものである。就寝中、部屋中を走り回っていたにちがいない。そう思うと熟睡できなかつた。夜になると板をかじる音がしていた。

最後の切り札、鉄製の台所用品で穴をふさいだ夜はチューチューとかじれないいらだちを見せていた。

結局約一週間ほどでこの騒ぎに幕が降りた。安堵感とともに、この一週間のネズミ君事件で、引越しをしようかと思うようになった。

しかし、引越しをしようにも、あては全然なかつた。

ところがここでも奇跡が起こった。偶然にも妻の同僚の義兄がマンション

を建築中との情報が入ったのだ。同僚にものごく親切にしてください、苦勞なく入居が決定してしまつた。なんと運がよいのだろう。

新築のきれいなマンションに転居した。チャンスだ。「同時に病院を退職し、開業してしまおう」という大決心をした。

一生病院にいるつもりはなく、好機に退職するつもりだったが、まさにこれがそうだったのだ。身体の調子がおかしくなつたのもネズミ君出現事件も宇宙の意識がそのようにしむけたのだろう。

ネズミ君のおかげで、待望の開業が可能となつたのだ。穴がふさがつていた夜、痲癩かんじょうをおこしチューチューと鳴いたネズミ君に感謝である。

開業後は、身体も急速に回復していった。上司がいけないことは、こんなに自由なのか。解放されて楽しい毎日だ。ゴルフも上達し、プライベートコンペで初優勝もした。二大タイトルがかかつていた大試合だったが、あつけなく優勝できた。誰もが、筆者が優勝するとは思わなかつただろう。優勝を狙つていたメンバーには、申しわけないことをしたが、実は「ミラクル・ワード」「ミラクル・イメージ」の勝利なのだ。驚いたのはドライバーショットの飛距離の向上だ。筆者の尊敬している美容師の先生はゴルフのシングルプレイヤーで、ドライバーショットは三〇〇

ヤード飛ばすことがある。この先生より飛ばすことは夢のまた夢である。ところが、ある日ついに飛んでしまつたのだ。

「ミラクル・ワード」「ミラクル・イメージ」の威力は凄いと感謝した。日常の生活は楽しいことばかりになつた。もっと楽しい幸運が訪れた。昨年の日本GAP総会に筆者は参加させていだいた。「復活」だった。復活できたのも、まったく思いがけない幸運があつたからだ。これはまたの機会にお話ししたい。日本GAPのみなさんに、大歓迎していただき、感激の祝杯をあげたのであつた。

シュリマンは願望達成に四〇年かから、ドゴールもフランスの大統領になる願望をもつてから五〇年以上かかっている。願望がたとえ何年かろうと実現するのにあせつてはならない。大いなる願望に、あせりは禁物である。日本GAPの会員のみなさんは宇宙の真理を探究するスケールの大きい人間である。特に若い人達は前途洋々たるものがある。途方もなく雄大な夢を描くことを恐れてはならないと思う。

実現させるには、能力開発の資料で研究されるとよいだろう。しかし基本は「宇宙哲学」である。本誌一一六号に掲載されている久保田会長の「ミラクル・ワード」「ミラクル・イメージ」を大いに熟読すべきである。

「ミラクル・ワード」「ミラクル・イメージ」の秘訣を思いつくまま記してみる。参考になれば幸いである。

宇宙の意識、万物に対してつねに感謝をする。

そうだ、宇宙の意識とともに生きるのだ。

宇宙が地球が家庭が人間が万物がよき方向に向かうものだけが実現しますようにと祈る。

そうだ、願望は宇宙的に幸福になるために達成されるべきだ。

自分が好きなこと。本気でやってみたいことをやる。

そうだ、宇宙の意識の声にしたがつて自分の個性を発揮するのだ。

困つたら宇宙の意識にまかせよう。そうだ、宇宙の意識は万能である。

個人的な願いはなるべく秘密に。

そうだ、それは他人の嫉妬心などで妨害を受ける場合もあるからだ。

以上、思いつくまま、記してみた。「ミラクル・ワード」「ミラクル・イメージ」は、完全に奇跡を起こす。

けれども忘れてはいけない。宇宙の意識の印象に従い、宇宙の意識とともに幸福になるのが目的だということ。

UFOs Shrouded in Force Field

●UFOがつくりだす フォースフィールド雲

神奈川県小田原市在住の主婦O・Oさんは東京在住の頃からたびたびUFOを目撃するという特異な体験をもっていた。その後、神奈川県に転居して以来、11年前より不思議な雲をひんぱんに見るようになった。空に沢山の雲が浮かんで移動している。ところが、ある一つの雲に限って一日中動かないで同じ位置に停止している。その雲というのは巨大な円盤型であったり、母船型であったりする。ここに掲げた写真は87年10月29日に本人が自宅から撮影した一連の写真。秋山真人氏の鑑定によるとUFOがつくりだした典型的なフォースフィールド雲であるという。

O・Oさんは89年1月にも夜間、自宅の窓から巨大な母船を目撃している。それは葉巻型のUFOで、胴体の横に丸窓が一行に並び、中央には卍のマークがついていたという。しかしこの頃はUFOも不思議な雲もあまり見なくなった。現在はご主人や子供さんと平穏に暮らしている。

取材 上藤末佳



NASAの宇宙探査機から

NHMD

アメリカのサイエンス誌二五五号に「科学者は偶然か意図的にか惑星画像をゆがめてきた」と副題がついている記事で、NASAのコンピューター画像処理が現実のイメージをゆがめている例として、金星探査機マジェランのデータから再構成したマートモンズ火山が、発表された写真よりも実際は平らであることや、ガリレオ衛星による小惑星ガスパルの画像が肉眼では灰色なのに、黄褐色で発表された事実をあげている。

同記事の中で驚かされるのは、地形イメージの誇張だけではなく色彩のコントラストについても甚だしくゆがめられている点だ。たとえばヴァイキング火星探査機による赤色の火星表面のイメージは私達の心にすでに固定観念として焼きつけられているが、あの写真の発表から数カ月後にカメラの正しい調整によって、実際の火星大地は「黄色をおびた焦げ茶」であることが判明したという。

21
こんなことは全くの初耳で（GAP会員にとつては常識だろうが）、問題はその正しい写真が一般に伝わっていない点にある。同様に、ヴォエイジャー惑星探査機からのカラー画像も実際とは相違していると指摘されている。

以上に加えて注意を喚起したいのは、専門家にとつては常識なのかもしれないが、マジェランの写真や、先頃成功した日本の「ふよう」の画像にしても、いわゆるリーダー写真（この場合はSAR、合成開口レーダー）は肉眼で見たイメージとは別の画像情報であるという。つまり金星のクレーターとか谷など、さまざまな地形の画像が発表されているが、黒色や白色に写っている部分が必ずしも肉眼で見える暗い部分や明るい部分に対応してはいないという事実がある。

となると我々が期待しているような金星表面上の「人工構造物」は、画像処理の段階で意図的に隠されている可能性のほかに、はじめからそれと分かるほどの画像になっていない可能性もありうるのである（秋山氏の鑑定は別として）。

その上、金星人自身のテクノロジにより、電波に干渉して別の画像を受信させていたり、ひよっとすれば地下に施設を移している可能性も否定できないので、我々が目にする写真に異常な物体が写っていないくても失望する必要はないだろう。

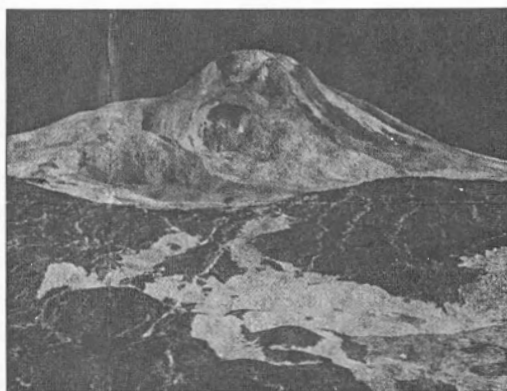
いずれにせよ、今回の記事で指摘された「改ざん」以前の問題として、公表されている画像を見るとき、その画

像が光学的装置によるのか、それともレーダー写真なのかを念頭におく必要がある。

NASAの陰謀説が一部で流布されているが、確かにNASAは大量の写真やデータを保有しており、その一部はCD-ROMに収めて頒布されている。ヴォエイジャー、ヴァイキング、マジェランその他スペースシャトルから撮影した映像や画像も大量にあるはずだが、公開されているのはほんの一部にすぎない。それらは現在コンピューターネットワークを通じて入手可能であるが、重大な写真はファイルされていないので、通常のルートでは入手不可能である。

今後日本の宇宙開発が進んだときにも、おそらく同様の事態に直面することが予想され、日本製の月探査機や惑星探査機からのデータが国家レベルで検討されるだろうが、事実は隠されて、「常識的な画像」だけを見ることになるだろう。

この壁を打ち破り、真実の画像を獲得するために、筆者は現在ある構想を練っている。これには相当な努力と資金、情報、技術力を要するので、国内外の専門家や協力者の知恵を結集して推進してゆくつもりである。一〇年計画だが、もっと早く実現するかもしれないし、全くの徒労におわるかもしれない。しかしこれは挑戦する価値があると思う。座してお仕着せの情報を待



▶左の小惑星ガスプラは実際にはグレーで、右の金星のマートモンズ火山は平らなはず。

つよりも、悪あがきと言われようと、真実のディスクロージャー（暴露）を目指して前進したいと考えている。

水星に氷冠を発見?

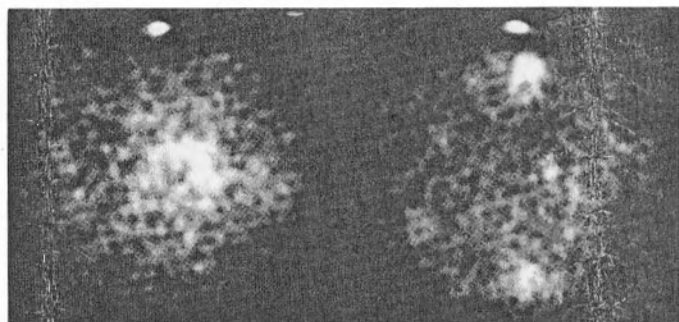
JPL(米ジェット推進研究所)の天文学者マーティン・スレイドは、仲間の研究者達とともに、この太陽系で最も熱い惑星である水星の北極点上に最近発見した光点の正体について首をひねっていた。

「水か? いや、そんなものがあるわけがない。いったい何だろう?」

しかし考えを進めてゆくうちに、スレイド、デュアン・ムールマン、カリフォルニア工科大学のブライアン・パトラー、JPLのレイモンド・ジャーンズらは、水星に氷冠があつてもそれほど突飛なことではないという結論に達したのである。

水星の極の光点が、従来の望遠鏡による映像ではなくて、電波望遠鏡で見られたという事実を考えると、これはもつともなことと思われた。ある程度の水が電波の透過可能な地表下に存在し、それにより外部の酷暑から守られてきたのだ。

また水星の極地域が比較的冷温であることから保護されたのだろう。水星は季節をもたないため、極ではマイナス摂氏一四八度まで冷え込むのになんて、赤道付近では太陽によって摂氏四三〇度まで熱せられる。



▲レーダーでとらえた水星の氷冠? (上方の白い点)

しかし「これは水というにはまだいくぶん納得のゆかない説明です」とスレイドが言う。荒れた岩の多い地表を思い出させるような従来の説明よりは、しかしながら、何十億年もの間に、氷が蒸発しなかつた理由を知ることがはむつかしいという。彼らは去年の夏に今度は南極上に二つ目の光点をとらえたと考えている。(サイエンス誌二二五号より。越崎裕子訳。資料提供/原永庫)

熱いはずの水星に氷冠が

Ice Cap Right Under the Sun
by Clack F. Chapman

クラック・R・チャップマン

太陽から五千八百万キロメートルしか離れていない、太陽系で最も内側の惑星である水星において極地に氷らしい物が発見された。これが惑星科学の会議で発表されたときには驚嘆を巻き起こしたのである。

今世紀初頭、この太陽に最も近い惑星は、訪れるのに良い所だと思われていた。もちろん昼間は熱いけれども、太陽から常に隠されている水星の裏側は、太陽系中で最も寒い所と考えられていたのである。そして昼と夜との境目の近くは適温であり、水星は楕円軌道を描くため、実際にはその境目の部分は前後に早く移動するが、極付近では地球に似た温度をもつ可能性があると考えられていた。

さらに、この惑星の表面をただよう雲が目撃されていた。少なくとも三人の観測者がその小さなすかに光る惑星を望遠鏡で観測していて、火星の万年氷に似た明るい極冠を見た報告し

たのだ。一九六〇年代の半ばにおいても、いくつかの天体物理学研究所が(疑問の余地がなかったわけではないが)水星には大気が存在し、いまは存在することが分かっている火星の大気と同程度の密度をもっていると指摘したのである。

しかしプエルトリコにある三〇〇メートルのアレシボ電波天文台が電波の反射を受信し、水星の一日の長さが当初信じられていた八八地球日ではなくて、五九日であることを証明したとき、我々の描いていた水星は根本的に変わってしまった。

それは、水星がその八八日の公転周期において常に同じ面を太陽に向けているのではないので、永久に酷暑の裏側は存在しないということを意味しているのだ。また、これまで大気存在を示すと考えられていた徴候の多くが、実はもつと簡単な理由、すなわち水星の本当の回転周期によるものであることも判明したのである。

一九七四年三月と続く二度の機会に、マリナー一〇号は最も内側の惑星に接近し、クレーターの散らばった表面と予測されなかつた磁場の存在を明らかにした。水星の大気についても細かなデータが得られたが、それは一九五〇年代と六〇年代初めに議論された『火星のような大気』よりも一〇億倍も薄いものであることが判明したという。

水星の焼けつくような表面はある専門家にとつてはまだ関心の的である。彼らは水星の大きな容積を構成する物質の手掛かりを探していた。またある専門家は、水星の希薄な大気中に存在するナトリウムとカリウムのスペクトルが変化している状態が最近観測されたのを究明しようとして、ガスの分子と水星表面の細かな凹凸との相互作用について思索していた。しかし極地の氣候が温暖だという考えはすべて過去のものとなった。

だからジェット推進研究所(JPL)のニューメキシコにあるゴールドストーン追跡アンテナとアレシボの設備を用いる電波天文学者達が、水星が極に氷冠をもっているかもしれないと先月発表したとき、誰もが驚いたのである。八月に、水星が比較的地球に接近している間、マーティン・スレイド(JPL)とデュアン・ムールマン(カリフォルニア工科大学)は、マリナー一〇号により観測されなかった方の半球に焦点をあてて観測を履行した。

水星の北極は八月には偶然にもわずかに地球の方を向いており、そして電波の反射から組み立てられた画像にはレーダーに反射する冠が、ちょうど極の所に明瞭に映っていた。惑星電波天文学の歴史においては、これまでにも奇妙な明るい反射体が現れたことがあった。それは土星の輪や何個かの木星の衛星の表面、または地球に近づく小

惑星の表面、または地球に近づく小惑星アドニスからのものである。これらのデータのいくつかには、氷の存在という説明がなされていた。

最初、水星の氷冠など、その発見が発表された惑星科学会議において殆どの人がそうであったように、スレイドとその仲間達にもあり得ないことのように思われたのである。しかしデイビッド・ペイジ(カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校)は、いくつかの簡単な温度モデルを使い、水素の極地域は氷点下わずか一二五度Kになりうると結論づけた。

実際、ゲリー・E・トーマスはマリナー一〇号の最初の水星探査の直前に『サイエンス誌』(一一八三号、一一九七—一一九八頁)において、その小さな惑星の極地域、つまり、おそらく永久的に影になった部分で氷が少しづつたまっている可能性がある」と発表した。極に氷が堆積していると仮定されている月と違って、水星の両極は常に太陽—水星のラインよりも正確に九〇度の方に離れており、そのために永久的な影の地域がより広く存在しているようだ。確かに、マリナー一〇号によって撮影された太陽の日光に照らされた極地域には、氷の存在を示すようなものはなかった。しかし、永久的影の地域は電波によって観測された広範な北極の氷冠を説明するに足るほど広くはないようであった。

スレイドと研究者達は、広い氷の層が、水星の土壌の下数メートルの所に埋もれているのかもしれないと考えた。そこでは気温が常に低く、水の分子の消失は限られ、そして、もちろん土が電波の波を透過させながらマリナー一〇号のカメラから水を隠したのだろう。

もし水星が本当に氷冠を持つているのなら、その水はどこから来たのか。水星の磁場にもかかわらず、太陽風は時折表面に達する。それによって水素が地表に取り込まれたのかもしれない。水星に豊富に存在する珪酸岩には酸素が含まれており、それゆえ、いくらかの水素と酸素が結びついて水を成す理論的可能性がある。そしてそれよりも、水は水星の形成時から現在に至る間に、衝突してきた彗星や炭素質の小惑星から来たのかもしれない。いくらかの水は気化せずに残り、確実に宇宙からの補給が続いているのだ。

水星の熱い放熱的環境においては、表面付近の水分子の大部分は即座に分解し、宙に消えてゆく。けれどもほんのわずかなものは惑星の極の冷たい地域に向かつて流れ、やがて表面下の氷のたまっている所に拡散してゆく。一九七四年のトーマスの仮説にもかかわらず、その後の水星の大気形成に関する研究では、極の氷冠の大気に関する修正されたモデルも期待できよう。

とはいっても、我々はあまりに夢中になりすぎているのではないだろうか。水

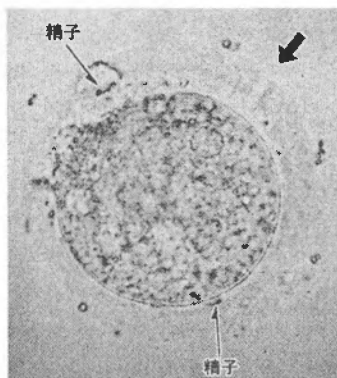
星の北極地域での発光点が氷によるものだと、まだ証明されていないのだ。マジエラン探査機による金星の表面を撮影した電波による素晴らしい地図も、氷でできているとは到底考えられないような奇妙に輝く固まりを見せていた。水星の氷冠が北極点にあったという一致性(しかも南極点にもそれに似た微候があった)は、容疑者として(つまり、原因として考えられるものとして)明らかに気温に影響されやすい物質の存在を示している。

一方では、現在、我々の「焼けつくような水星」イメージは、水星の氷を考へることへの妨げとなつてゐる。そして、その源や貯留地、移動径路、安定など、すべての考察がなされたならば、氷の存在は完全に理に合ったものになるかもしれない。

また一方では、我々の住む惑星には非常に多くの水があり、その平均気温がたまたま氷の氷点にとても近いことから、すぐに氷を発想してしまう可能性がある。我々が他のすべての可能性のありそうな物質の電波反射特性を理解するまでは、太陽のすぐ下に氷が存在することを確実に知ることはないだろう。(ネイチャー誌三五四号より。越崎裕子訳。資料提供/原永庫)。

日本初の「顕微ペビー」秋にも

卵に人工的に穴をあけて精子を注入する男性不妊の最先端治療法「顕微授精」で、不妊治療の専門クリニック「セントマザー産婦人科医院（田中温院長、北九州市八幡西区折尾）」が、二人の女性を妊娠させることにわが国で初めて成功した。二五日に同院長が明らかにしたところによると、二人は既に妊娠六〜七週目。体調に異常はみられず、順調に行けば今年一〇月から一月にかけて日本初の「顕微授精ペビー」の誕生が見込まれる。こ



の治療法に対しては安全性の不安を指摘する声もあり、改めて論議を呼ぶことになりそうだ。

顕微授精は、精子数が少なかったり、精子の動きが悪いために、人工授精や体外授精でどうしても妊娠しない男性不妊症のカップルに行なう。

この治療法で妊娠したのは東京都在住のA子さん（三三）と北九州在住のB子さん（三三）。Aさんは結婚一三年、またBさんは一〇年間子宝に恵まれなかった。それぞれ体外授精も何回か受けたが妊娠しなかった。

海外では顕微授精によりオーストラリア、香港、イタリア、米国などで既に数十人の赤ちゃんが誕生している。

卵に傷をつける治療法なので、批判の声も強いが、我国でも昨年一月、日本産科婦人科学界が臨床応用を承認した（3・26読）

観測送信機二〇年

二〇年前の一九七二年三月二日に米航空宇宙局（NASA）が打ち上げ、太陽系の外に出た最初の惑星探査機「パイオニア一〇号」は、その後も宇宙の深部に向かって飛行を続け、現在も八〇億キロのなななから科学情報を地球に送り続けている。

重さ二六〇キロのパイオニア一〇号は、七カ月かけて火星と木星の間に広がる岩石やちりできた小惑星群（アステロイドベルト）を通過、七三年一月には木星の周囲の放射能帯も無事通り抜け、木星のクローズアップ写真を送ってきた。八三年には海王星の軌道を通り、太陽系外に出た最初の人工物体になり、太陽風などの観測を続けている。

飛行計画に携わっているアイオワ大学の物理学者、ジェームズ・パン・アレン氏はパイオニア一〇号からもたらされる情報について「太陽の影響が予想以上に遠くまで及んでいるのが分かった。大きな発見だ」と評価している。

パイオニア一〇号には、原子力発電機と、常夜灯をともし電力に等しい八ワットの出力の送信機が備えられているが、送信が切れるのは二〇〇〇年前後になるだろうと関係者はみている。（3・2読）

笑いは健康の源

笑いは健康の源——。心と体の関係を

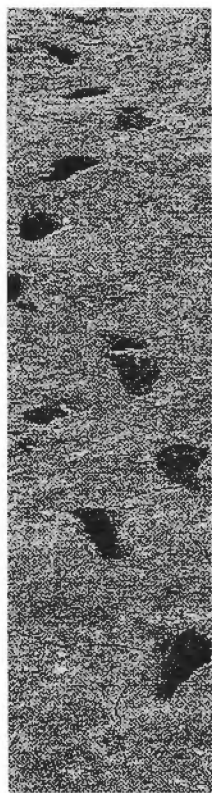
研究している医師らが寄席に来た人を対象に体の抵抗力を示す免疫能を調べたところ、開演前に比べ大笑いした後のほうがはるかにアップすることがわかった。「病は気から」の諺（ことわざ）を科学的に実証したものだ。

測定したのは岡山県倉敷市の柴田病院の医師で、五年前にガン患者のモンブラン登頂で話題を呼んだ「生きがい療法実践会」を指導している伊丹仁朗医師（五五）ら。

三年前、ガンや難病患者らが身近な出来事から笑う話を作り、周りの人に話して一緒に笑うユーモア・スピーチという「笑い療法」を取り入れ、闘病意欲が高まるなど、効果をあげている。

笑いとユーモアが実際に免疫能にどう作用するかを調べるため昨年一月、大阪・ミナミの「なんばグランド花月」で実験した。約三時間、漫才や喜劇などを楽しんだガン、狭心症などの患者四人を含む一九人（二〇〜六二歳）から開演前と終了直後に採血した免疫能を比べた。

ガン細胞を攻撃し免疫能の指標となるナチュラル・キラー細胞の活性は、測定できた一八人中一四人が開演前より上がり、基準値（一八〜四〇パーセント）内とそれ以下だった一〇人はすべて上昇。中には五〇ポイントも上がった人も。全



体の平均値は開演前の三五パーセントから四五パーセントにアップした。（5・25読）

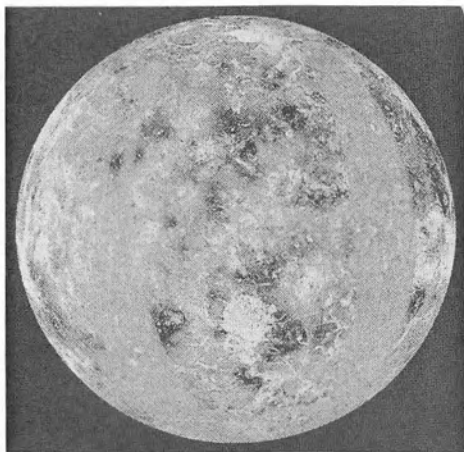
縄文人の足跡

神戸市垂水区の「垂水・日向遺跡」で昭和六三年に出土した大小約一〇〇個の人間の足跡が、地層の火山灰の分析から六三〇〇年以上も前の縄文時代早期のものであることが同市教育委員の五日までの調査でわかった。これまで確認されている最も古い同時代中期（約四〇〇〇年前）の足跡に比べ、二〇〇〇年以上もさかのぼる国内最古と見られる。

足跡は、中世の漁村跡の遺構より、二・五メートル下の層で約二〇メートル四方の範囲で見つかった。大きいものが長さ約二〇センチ、幅九センチ、小さい方は長さ約一センチ、幅約六センチで東西に並んで歩いているように残っていた。市教委が足跡より約一メートル上にあつた火山灰層を専門業者に依頼して分析、約六三〇〇年前に噴火して西日本一帯に灰を降らせたアカホヤ火山（鹿児島）の火山灰と一致。また、足跡の約五〇センチ下の地層の放射性炭素「C14」の残存量からも、足跡の年代を「六三〇〇年前から七三〇〇年前の縄文早期のもの」と断定した。（4・6読）

人間の脳にも磁石
人間の脳細胞の中にごく小さな磁石があることを米カリフォルニア工科大等の研究チームが発見し、近く研究成果を米科学アカデミー紀要に発表する。

生まれた川に戻るサケや、渡り鳥、ハトなどの動物の脳に体内磁石があり、磁気コンパスとして方向を知ることが分か



ウィーナスの素顔
米国の金星探査機「マジェラン」が観測した金星の全体画像。経度〇度を中心にした方向から撮影。金星は炭酸ガスなどの厚い雲に覆われていて素顔は見えないが、マジェランはこの雲を透過して表面を観測できる合成開口レーダーを搭載している。この画像は、合成開口レーダーの部分観測データをコンピュータ・グラフィックによりつなぎ合わせ、データの足りない部分はパイオニアウィーナス探査機のデータで補った。(3・18説)

っていたが、人間の脳で確認されたのは初めて。研究チームのジョゼフ・カーシユベック氏は「人間の脳内磁石の機能はまだよく分らない」としている。

研究チームは、司法解剖された七人の遺体の脳を、電子顕微鏡と精密な磁束計で調べた。その結果、全体の脳細胞に、直径一〇〇〇分の一ミリ程度の磁鉄鉱の結晶が含まれ、特に脳を包む膜で密度が高かった。結晶の数は脳細胞一グラムあたり約五〇〇万個。この結晶は、地球の磁場よりほんの少し強い磁場にも反応するという。

体内磁石はミツバチやバクテリアなど多くの生物で見つかっているが、人間にもあるかどうかは分かっていなかった。(5・13説)

唾液はマルチ毒消し薬
毎年約二〇万人が亡くなり、日本人の死亡率原因のトップを占めるガン。同志社大の西岡一教授(生化学)は、そのガンの予防法のひとつにかむことをあげている。

唾液(だえき)には、私たちの食事に含まれる様々な発ガン性物質の毒素を消す効果があるという。

例えば、魚や肉の焼けこげに含まれる発ガン性物質のトリブP-1。試験管の中に唾液とトリブP-1を混ぜ、バクテリアの突然変異(ガン化)の起こる頻度を調べた。その結果、唾液を混ぜると、突然変異が起こりにくくなり、毒性がほぼ消えることがわかった。

発ガン性物質には、トリブP-1のような天然物だけでなく、食品添加物などの人工化学物質もある。唾液の毒消し効果はほとんどの発ガン性物質に有効だっ

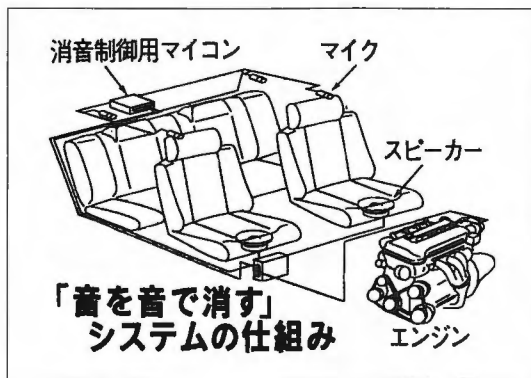
た。唾液を混ぜる時間が長いほど毒消し効果は強く、毒性が元の二割に薄まるのに約三〇秒かかった。成人でも子供でも、一回かむのに大体一秒かかる。「食事は一〇三回」が望ましいわけだ。

なぜ、毒性が消えるのだろうか。発ガン性物質が作り出す活性酸素を、唾液に含まれるペルオキシダーゼという酵素が消してしまうらしい。活性酸素は細胞のガン化や老化に関連があることから近年注目されている。唾液が活性酸素を不活性化しないと、胃や腸で活性酸素が発生してガンの原因となる、と西岡教授らは説明する。もちろん、ガンが唾液だけで防げるわけではない。だが、この他にも消化を助ける酵素や、有害な細菌の発育を妨げるタンパク質など様々な有効成分が唾液には含まれている。無料の万能薬と思えば、かむ手間も惜しくはない。(5・13説)

音を音で消す技術
日産自動車は昨春秋、エンジン騒音を抑えた新型乗用車を発売した。従来の防音・遮音材と全く発想の違う「音を音で消す」技術を導入したのが特徴。

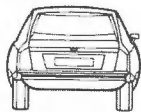
この仕組みは、騒音波の山や谷の形を分析して、即座に山や谷を逆にした波形の人工音を出して、騒音を打ち消すというもの。

天井のマイク四個がエンジンのこもり音を検知、その波形をトランク内のマイコンが瞬時に計算、運転席と助手席の下の二個のスピーカーから逆の波形の人工音を出す。車内騒音は気温、乗員数やエンジンの回転数で大きく変わるが、高速計算用マイコンの開発ですばやい消音ができたという。



「音を音で消す」技術の導入は他の乗り物でも行なわれている。例えば、エンジンがうるさいプロペラ飛行機。英国の航空会社は客室内を静かにするため、二個のマイクと一六個のスピーカーを使った消音実験を進めている。ヘリコプターや小型客船でも同様の研究が世界中で行なわれている。

アイデアそのものは五〇年も前からあった「音を音で消す」技術。電子技術の進歩により、一九九〇年代には様々な乗り物で実用化されそうだ。(3・7説)



▼大阪支部特別月例会、大盛況

去る五月三日、兵庫県尼崎市の市立産業郷土会館で開催された今年度大阪支部特別月例会は出席者七三名という大盛況を呈した。会場が超満員のため立ち見席ができるほどで、会場は熱気に溢れた。翌日は遊覧船で神戸港めぐりその他の行楽で終日楽しくすごして夕方散会した。詳細報告は本号三四〜五頁に掲載。

なお来年度も大阪支部は連休の五月三日に支部大会を盛大に開催の予定。

▼東京本部 UFO 観測会

去る五月三〇日に神奈川県秦野市枳窪台地で実施予定であった今年度 UFO 観測会は雨天のため中止した。そのかわり来たる八月中旬に再度観測会を企画している。ただし日時と場所は未定のため参加者の公募をしない。

▼本年度海外研修旅行

本年度日本 GAP 企再海外研修旅行は計画がたびたび変更されたためか、参加希望者が少ないが一応実施する。目的地は南米アルゼンティンのブエノスアイレス、チリのサンティアゴ、南太平洋のイースター島となっている。多大の成果が期待される。

▼秋田支部大会を開催予定

本年度地方支部大会の一端として、来たる九月一三日に秋田市において秋田支部大会が開催される。気候のよい時期なので多数の参加者が見込まれる。詳細予告は本号四七頁。

▼本年度東京本部総会

来たる一月一〇日(二連休の初日)東京本部は盛大な総会を開催する。会場は月例研究会を開催している機械振興会館の地下二階大ホールで、今回は純然たるセミナー形式として研修会の形で行なう。詳細は本号四九頁。大盛況が予想される。

▼GAPグッズ新製品

★GAP シール 従来青と赤バックのシールを頒布していたが、今度は黒バックのシールを製作頒布している。これは黒カバン、黒財布、その他の黒い製品に最適で、色物の製品にもよく似合う。定価は大小五枚一組で二〇〇円。

★ブックカバー 新アダムスキー全集用として製作されたこの製品は濃紺色の表紙に「With Cosmic Consciousness (宇宙の意識とともに)」という横文字とシンボルマークが金色で箔押しされた典雅なもの。全集と同じ大きさの四六判書籍ならばどれにも使用できる。一枚定価一二〇〇円。

以上二点は巻末の広告欄に詳細がされている。

▼特別維持会員制

日本 GAP は特別維持会員制を設けている。これはほとんど一人で本誌の編集デザインを行なう一方、セミナーの指導その他の行事でも大活動を行なっている久保田会長に対して後顧の憂いなくらしむることを目的として本部役員一同の発案により設定されたもの

で、GAP に対する援助活動の一端をなすもの。会員には久保田会長のエッセイ「意識の声」が毎月贈られる。これは本誌に掲載されない貴重な記事、行事の速報等が盛り込まれており、好評を博している。特別維持会員制に関する詳細は日本 GAP 宛ハガキで申し込まれたい。案内書をお送りする。

▼本誌の書店卸しヴォランティア

本誌は全国の主要書店に卸されているが、まだ開拓の余地があるので、卸し要員を募集している。詳細については日本 GAP 宛ハガキで申し込まれたい。案内書をお送りする。

▼本誌、海外で大評判

このところ本誌は海外諸国の UFO 研究者から絶賛を浴びている。特にベルギーの若い UFO 研究者アンドレア・ヴァン・ルイ氏は本誌一七号を見て、日本語は読めないにしても英文タイトルで内容の見当がつからしく、カラーデザイン等の美麗さで一驚を喫したという意味の書簡を五月二五日付でよこしている。またアメリカ・サンフランシスコのアダムスキー研究者ジョン・H・ローリーノ氏は、英文版ユーコン誌を見て大いに驚き、日本人がこうまでデザートセンターの調査をやっていたとは全く知らなかったし、この英文誌は *Scientific* 棚からポタモチであったと五月三一日付の書簡で述べている。氏は今年一月二〇日がアダムスキーのデザートセンターにおける

コンタクトから四〇周年にあたるので、この日、デザートセンターで特殊なイベントを開催するから来ないかと勧誘してきたが会長は多忙のため遠慮した。

▼国際的な活動

日本 GAP はアダムスキー派研究集団として世界最大の集団であり、今後は世界を対象に国際的な活動を展開するべく、会長以下本部役員団は団結して各種企画その他の活動に鋭意専念する予定。

▼UFO 図書二点

久保田会長は今年度に二点の UFO 関係書を刊行する。一点は「UFO・遭遇と真実」と題する書き下ろしの本。これは日本篇として、国内で発生した各種の珍しい UFO 事件を取り上げたもので、すでに中央アート出版社から刊行されている。二点目は海外篇として海外の特殊な UFO 事件について独自の視野からスポットをあてたもので、これは年末までに中央アート出版社から刊行される予定。

会長の本の特徴は、恐怖心を与えるような不気味な誘拐事件、オバケ宇宙人、心霊の体験、いたずらミステリーサークル、牛の腸えぐり等を一切排除して、読者に明るく希望と勇氣と信念を起こさせる宇宙的な内容に満ちている点にある。来年度も、強力な想念の力による願望達成法、その他精神的な面を主体にした能力開発等の啓蒙書を出すという。

質問に応答するUFO
平成三年一月二六日
学校の帰りにUFOを見ました。それは夕方の六時頃です。赤くて光る大きめの物体で、すごく速く飛んでいました。他の場所に飛行機が飛んでいたもので、ひとめでUFOだと分かりました。そのUFOは木の陰にかくれてし

私のUFO目撃と 不思議な体験

川野 晶子



神奈川県下町在住の日本GAP会
員・川野綾子さんの娘さんで晶子さん
という一六歳の少女がいる。現在、県
立高校の一年生。かねてから超能力が
あり、たびたびUFOを目撃したり不
思議な現象を体験する人。ここに本人
の手記を掲げて参考に供したい。いず
れも中学三年生当時に日記風に書いた
もの。イラストも本人による。

まって、もう見えませんでした。

寒かったから早く家へ帰ろうと小走り
で坂を登るとき、誰かに見られている
ような、誰かがいるような感じにな
ったから、空を見上げると、星のよう
だけれど、少し違うような光が空にあ
りました。まさかと思ったけれど、一
応UFOかもしれないと思い、電柱を
基準にして動きがあるかどうかを確か
めてみました。

思ったとおり動きがあった！ うれ
しいのと寒さで少し戸惑ったけれど
も、好奇心が強かったので見ているこ
とにしました。横に動いたり上下に動
いたりして、とても不思議でした。

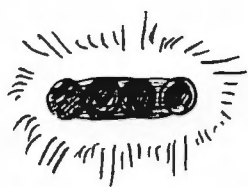
その時、飛行機がたまたまUFOの
方へ飛んできました。私はUFOがど
んな行動をとるのか、とても興味があ
りました。UFOは飛行機が来るのを
知ったのか、ものすごい速さで位置を
変えました。

風が冷たくなってきて、それと同時
に手足や顔も冷たくなって、もう寒さ
に耐えられなくて、「また今度の機会が
ある」と心に言い聞かせて家に向かい
ました。

するとしばらくしてまたさつきみた
いな誰かがいるという気持になつてき
たんです。

空を見るのを少しためらいましたが、
見たんです。見てびっくり。さつきの
UFOがまたいたのです！ なにかこの
機会をみのがすのが惜しい気がして、

近くにあった石の上に腰をかけ、しば
らく見つめていました。



なぜか黙っている時間が惜しい気が
して、UFOに話しかけてみました。
「スペース・ピープル」と呼びかけてい
ると、私の言葉に合わせて動いている
ことに気がつきました。「スペース」と
いうと動き、「ピープル」というと止ま
るんです。

自分の言っていることが空の方まで
届いているんだなと思うと、急に近い
人のように思えてきて、何度もくり返
し呼んでいました。

別な事も話しかけてみました。母の
事や自分の事、勇太（死んでしまった
猫の名前）の事などいろいろ。話しか
けているうちに親しい友達であるかの
ような気持になりました。

私は少し頭を使って合図をしてもら
うことに決めました。「Yes」なら円を
描くように回る。「No」なら横にと。

さっそく話しかけてみました。
「今の私はまだ未熟です。だけど一生懸
命に勉強して一人前になったらぜひ会
って下さい」と言ってみました。

UFOは「Yes」と答えてくれまし
た。

他にも話しました。
「あなたは美しい人なんですよね」
という、なんだかうれしそうで動い
ているように見えました。

その時でした、流れ星を見たのは。
私はその流れ星は彼らからの贈り物だ
と考えています。

またUFOが

一月三〇日

夕方七時五〇分頃、自分の家の窓か
ら北東の空に浮かぶUFOを見ました。
この日は体の調子が悪かったため、長
く見られませんでした。

三機のUFOが出現

二月六日

夕方五時頃、自分の家の窓から三機
のUFOを見ました。北東の位置でし
た。光が大きくなったり小さくなった
りしていました。

三機とも同じ方向に動いていました。
しばらく見ていたら、雲の中にかくれ
て見えなくなりました。

五時四五分にまた見ました。消えた
かと思うと別な場所に移動するので
それをくり返して、しばらくして消え
てしまいました。

気になって外を見ると、いた

二月九日

私の部屋の窓から見て遠くの街が見える空にUFOを見ました。その時はフルートを吹いていたのですが、外が急に気になりましたので、窓をあけるといたんです。

近くではないけれど、光は大きかった。「もっと近くにきてほしいな」と思っていたら、その光が何倍にも大きく光りました。気をぬいたら消えてしまいました。けっこう明るく光っていましたが、他にも見ていた人もいますと思いました。

会いたいというイメージどおりに出現

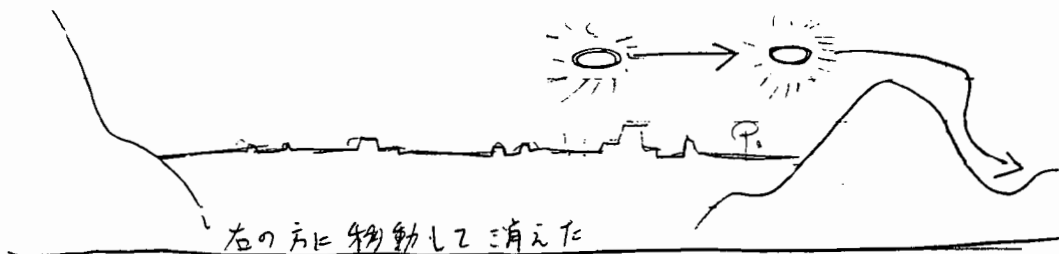
一月二日(水)

風が強く、曇も多い日でした。夕方五時一〇分頃、自分の家の窓から空を見ていたら、山の上あたりにUFOがいました。すぐ消えたあと、遠くの町の上にもう一機いるのに気がついたけれど、長い時間見れませんでした。

五時二〇分。町の方にまたUFOがいました。光が大きくなって、ゆっくり小さくなって消えてしまいました。オレンジ色みたいな色できれいでした。

今日は学校からまっすぐ帰ってきて、時間がけっこうあったので、ちょっと自分の力を試してみようと思い、実験してみることにしました。

大きな画用紙に黒いボールペンで大きく「会いたい」とはっきり太くなぞり、その文字を頭に焼きつけて、空に向かってイメージしました。



その時、五時三〇分というイメージが浮かんできました。すると、ぴつたり五時三〇分に山の上からUFOが来てくれました。左に向かって飛んで行くこうしていました(光が強かったです)。

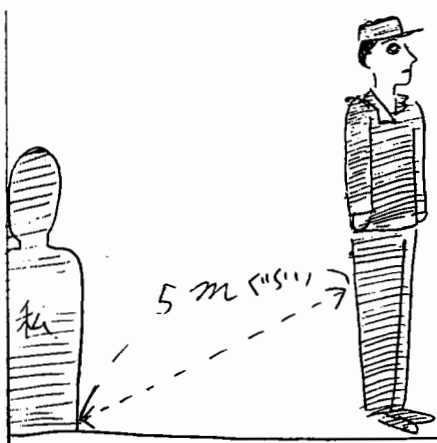
そして次に「うれしい」と伝える感じでイメージするとUFOの動きが止まり、こんどは右の方向に動いて、山にかくれて見えなくなりました。

この時私の耳に「自信を持ちなさい」という秋山(真人)先生の声が聞こえました。

消えた男の人

一月のある日

くわしい日には忘れてしまい、申し訳ありません。この日はたしか夕方六時頃だったと思います。近くの公園の道を歩いていたら、五メートルぐらい離れた所に、なにか作業服みたいなものを着ている男の人が(年は三〇か



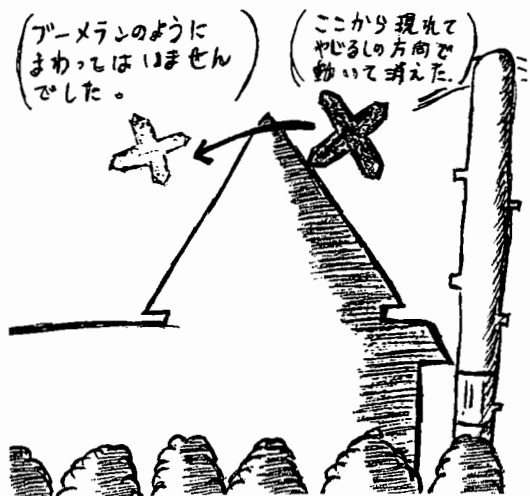
ら三五ぐらい)空をながめていたので、「なにかおかしな人だな」と思い、その男の人に近づくと、その人はアツというまに消えてしまいました。

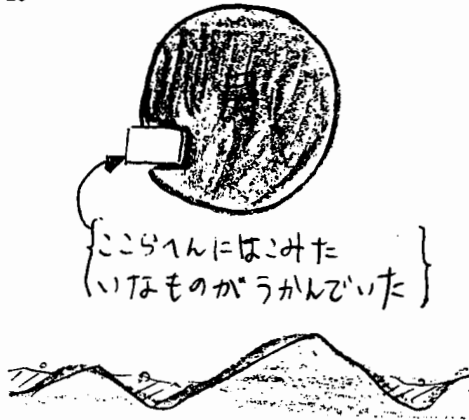
背中がゾツとしたので、道の反対方向に向かって走って行こうとしたのですが、なにかまた空が気になったので、上を見上げると、そこにUFOがいました。しばらく立ち止まって見ていたら、そのUFOは山の方へ飛んで見えなくなりました。

不思議なクロス

二月一日

夕方五時か六時頃、友達と外を歩いている時に、また空が気になったので、上を見上げようとした瞬間、黒いクロスみたいな格好をした物を見ました。ほんの二〜三秒だったので、そんな





にはつきりとは分かりませんが、色は真っ黒であることと、両端になにかマクみたいな物か、または穴のような物があったということだけは、はつきりと分かりましたので絵に描いてみました。友達二人は気がついていませんでした。

月に箱が

二月一八日

今日夕方六時二〇分頃、私は歯医者に行った帰りに不思議な物を見ました。今日の月は満月でしたので、私は歩きながら見ていました。見ている時に気がついたのですが、月の左端に箱のような物が浮かんでいました。雲のかたまりにも見えたのですが、雲にしては形がよすぎるくらいでした。その箱のような物は白かったです。

ものずいぶん大きくなったUFO

二月一九日

今日は学校から帰ってきた時から外が気になっていました。そのため友達と遊んでいたのですが、今日は早く帰ってもらいました。

四時から窓をあけて見ていたのですが、まだ時間が早すぎるかなと思つて、今度は五時頃から毛布をかぶつてずつと空をながめていました。

ブーツとしてゐる時間がなんだかもつたない気がして深呼吸をしています、ちょうど六時にUFOが来ました。はじめは小さな光でした。

私が「うれいしいです。ありがとうございます」と心の中で念じると、UFOは動きを止めて、じつと見ているようでした。

それで私はせっかく会えたのだから考えている事を伝えました。

「人間はなぜ生まれ、何のために生きつづけているのでしょうか。私がりっぱな人間になつたら、その答えを知るチャンスをご覧ください。おねがいします」というと、UFOは今までに見たこともないようなすごい大ききになり、光もまぶしいくらいになりました。

今日はあまり時間がないような気がしたので、長く時間はとりませんでしたが、しばらく私が黙っていたら、UFOははじめに来た方向へ飛んで行きました。

ちやうど町の上あたりに行くときUFO

Oは、まるで飛行機のように赤く点滅しながら、いつもの山の方へといなくなりました。寒さを我慢しながら待っていた甲斐がありました。

気味の悪いオーラを見る

二月一六日

(母注)以下の話は家庭教師にだまされてピラミッドを作ったから見にこないかと誘われて行ったときのことで

話がだいぶ違つてきますが、念のために書きとめておきたいことがあるので、書きます。

日にちは前のことになりませんが、この前の日曜日に知り合いに誘われて出かけた時です。なんとなく行きたくないような気がしたのだけど、相手に悪いので仕方なく行くと、そこはある宗教の集まりでした。

そんなことは全く知らなかった私は、何かいやな所だと思ひました。長く時間がたつにつれて気分が悪くなり、吐き気がするようになりました。

そこにゐる人たちはほとんどの人のオーラがきたない黄色でした。白いはずの壁やふすまがなぜか黄色くや二でよごれたような色に見えました。その部屋の波動が円を描くかのように自分にかぶさつてくるのが何となく分かつて、早く外の空気を吸いたいと思ひていました。私の友達も気持が悪くなりました。

部屋の隅に何かの仏壇があり、その後ろから白いけむりがモクモクたっていました。お線香があるのかなと思ひたけれど、普通のけむりとちがうので、立ち上がつて見に行くと、仏壇の後ろには何もありませんでした。

帰りの車に乗っている時も、何か悪いものが自分の体にまとわりついているようで気分が悪かったです。車から降りて、外の空気がとてもおいしく感じられました。

家に帰つてから疑問をもつたのですが、なぜあの人たちは黄色いオーラに見えたのか、不思議でした。まるで絵の具でみんなを染めたようでした。この日はとてもいやな思ひをしたなど、つくづく感じました。

(母注)この子のオーラは紫です。以前は藍色でした)

植物とテレパシーで語り合う

二月二〇日

私は最近、生まれ変わりの夢を見てから、自分の力が発揮できるようにになりました。植物と少しずつですが会話ができるようになりました。

私の部屋には一緒に暮らしている二本の木があります。木ののどが乾いている時には私に知らせるんです。そのときは私までのどが乾いてくるんです。木に水をあげると、木が「ピチッピチッ」といつて音をたててよるこんだりします。いつもその二本の木ばかり

目立つので可愛がっていると、もう一本の小さな花が咲く植物がやきもちをやいたのか、一日で枯れてしまいました。

他に猫とテレパシーの練習をしています。まだ子猫ですが、とても頭のよい猫です。

私が子猫のひたいに向けて「こっちにおいで」と想念を送ると、子猫は寝ていたのですが、ピクツと耳を動かして、こっちに向かって「ニャー」といながら来たりします。今は名前をよばなくても来るようになりました。

子猫にミルクのイメージを送ると鼻

▲小猫とテレパシーで語る陽子さん。



をクンクンさせてミルクを探しまわることもあります。

今日はおもしろいものを見ました。ベランダに出て遠くの山や空気に「いつもおいしい空気をありがとう」とくり返し言っていると、山から大きなオーラが見えて、そのまわりにはいくつ

もの波動が見えてきました。空から地面にかけていくつもの柱が立っているのも見えました。とてもきれいで、色はありません。透明ではないのだけれど、色はあらわしません。あの柱が何なのか知りたいです。それに近い色といったら青です。

第三の目で透視する

二月二日

今日は雪が降っていたのでUFOの観測はできませんでしたが、変わった物を見ました。

私は夜寝るとき、毎日透視の練習をしています。目をつむって第三の目があるといわれているひたいの真ん中に集中して、その第三の目が「開く」というイメージをすると、自然にまわりの物がうすぼんやりと出てきます。自分の手を目をとじたままで見ていると、はつきり見えてきます。

今日は第三の目で自分のオーラを見てみようと思い、見てみますと、オーラが広がって見えました。いつもはオーラが手についたように見えたのですが、今日はオーラの出ている範囲がとても広がっていました。

少し疲れたので、眠るような状態で休んでいたら、人の顔が見えてきました。三人です。よく見たら母から借りた本の中のオーソンという名の宇宙人でした。もう二人はきれいな顔をした女が男かも分からない人でした。こわ

い感じはしませんでした。

私の波（ここで波というのは自分でコントロールできるエネルギー？です。自分でもよく分かりませんが）が足の方に流れていって眠ってしまいました。波のことですが、精神を集中する時は波が頭の方へ流れ、夜眠れないときとかリラックスしたい時とかは波を足の方へ流したりします。

警告のサイレンが鳴る

二月二日

今日もUFOの観測はしませんでした。代わりに「注意のサイレン」のことを書いておきたいと思います。

私は、いけないことをしたり、悪い人と付き合ったりすると「注意のサイレン」が鳴ります。何か独特の音で、「ウィーン、ウィーン」と大きな音で鳴ります。以前、あまり良くない人に呼び出されて道を歩いていると、注意のサイレンが鳴り、地面から何かおかしなマークみたいなものが蛍光の緑色で浮かんできたので、「何か大切な事が書いてある。読まなければ！」と、懸命に地面をはいつくばるようにして見ると、意味がなんとなく分かりました。それはカニの絵のようなものがカギを持っていて、それが二匹いて、「カギとカギどうしでは合わないよ」と教えていました。

その悪い人に会った時、とてもビツクリしました。その人の顔の上に、も

う一人の白い顔が仮面のように重なっていたからです。ビツクリして逃げようとしたら捕まってしまうました。どうにかしてその白い仮面をはがしてやろうと思い、取ろうとするのですが、全然取れなくて、その人は怒って帰ってしまいました。

これとは別に、ある先輩の家に呼ばれて行った時に、また、あのサイレンが鳴りました。ちょうど玄関の所で、私はまたかと思い、上がるうとすると、また緑色の文字が出てきました。ぎつしりとこまかい文字で書いてあったので全然読めませんでした。

文字といっても日本の文字じゃないんです。私はなにかその文字はとても大切なことが書いてあると思い、必死で読もうとするのですが、全く分かりませんでした。

けれど一行だけ日本語のひらがなで書いてあるところだけ読みとれました。人の名前でした。あの白い仮面をつけたこわい人の名前でした。

呼びかけに応えて接近する

二月二日

今日夕方、UFOをひとめ見たくて窓から自分の波動を大きく空に向かつて流れるようにイメージしていました。目を閉じて「見せて下さい」と何度も心の中となえていたら、目をあけたくなかったので、空を見たらUFOがいきました。いつも見るUFOとはちが

ました。

「あなたがたを応援させて下さい」と私が念じると、UFOが大きくなりました。さつきよりだいたい近くなったので形を見ますと、光が二つくつついていくような感じでした。しばらくしてUFOはまたいつもの方向へ飛んで行きました。

攻撃的な想念はいけない

三月二日

今日の夕方、六時頃、私は二階の窓からUFOを呼ぶ練習をしていました。自分の波動が空一面に広がっているイメージをしていました。

しばらくしてUFOがいつもの山の上にいました。私はいつもよりも力をいれて、「見たい！」と念じると、UFOはフツと消えてしまいました。

あとで母となぜ消えてしまったか話しあいました。たぶん私が攻撃的な念の送り方をしたからだと思います。これからは気をつけます。

オーロラのようなトンネル

三月二三日

昨日の夜、寝る時におもしろい物を見ました。透視の練習をしていると、昨夜はとても冴えていて調子がよかったです。こんな事を口にしてみましたが「スペース・ピープルの皆さん。私に何かメッセージを下さい」

と何度もつぶやいていたら、目の前

に虹色をした、まるでオーロラのようにモヤモヤしているトンネルが見えました。私は中に入って進み始めるけれど、少しこわくなって進むのをやめました。

とてもトンネルの色が美しくて絵にあらわせません。そのトンネルを見る前に人の話し声がありました。水のはじける音も耳の中でしました。

風呂の中の虹

三月一三日

今日お風呂に入っていた時に、ふと「水のオーラは何色だろう？」と思い、水のオーラを見てみましたが、とても見ずらくて見えません。

その時、お風呂の中のお湯が波を打っていました。その波をよく見ると、とてもきれいな色をした虹がお湯の中に見えました。

私はもつと見たくてたくさん体を動かして波をつくりました。色は透明で、色の一つ一つのくきりがありませんでした。お風呂から出る湯気を見ると虹色でした。自分が虹色のお風呂に入っていると思うと、とても幸せな気持ちになりました。

UFOが大接近

三月一四日

今日夕方六時一〇分頃、二階の窓から空を見ていました。今日はいつもと少しちがった場所から飛んできました。

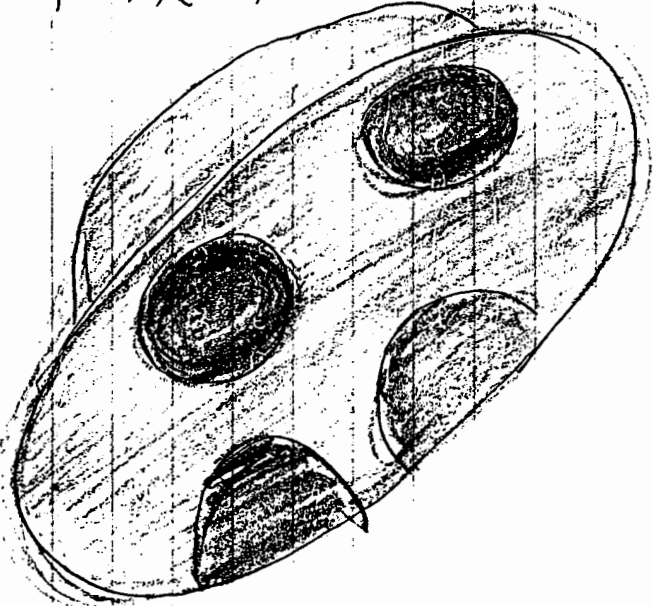
北の山から飛んできて南の空へ消えました。

しばらくして私が「もう一度見たいな」と言っていますと、また南の空からもどるようになって飛んできました。

今日はいつより近くに飛んできませんでした。自分の目の前でくるっと円を描くようにして北の山へ消えていなくなりました。今までUFOを沢山見たけれど、こんなに近くで見たのは初めて

です。五〇メートルから一〇〇メートルぐらいの距離です。最後に私はお礼を言いたくて手を振って「ありがとう！」と何度も言っていると、UFOは二回ほど光を点滅してくれました。UFOを見た時に車輪も見えました。(編注)これは球形着陸装置のことだろう)

団が上げた見下ろし



音楽は生命工ネ
ルギーを運ぶ知られざる
音楽の影響

鷲見 弘

音楽にはエネルギーの流れを一方通行にする半導体的効果がある。

カイロプラクティックや東洋医学に於いて最近よく使われる診断法にオーリング・テストと言う方法があります。一方の手に薬とか食品を乗せておいて、他方の手の親指と他の四指のどれかと先端同士をつけて丸いリング（オーリング）を作り、これに他の人が左右の手の指を引っ掛けて両側に引っ張り、オーリングが開くかどうかをテストすることによって、その薬や食品のその人に対する適合性を調べるテスト方法です。誰にでも簡単に出来る便利な方法ですが、環境条件や先入観によって影響を受け易いという欠点を持っていません。これらの欠点を改善して正確性を高めた「バイ・デジタル・オーリング・テスト」という方法があります。大村恵昭教授が開発され、現代医学に採用して多大な成果を上げている方法です。詳しくは医道の日本社刊「図説

バイ・デジタル・オーリング・テストの実習」をご覧ください。

バイ・デジタル・オーリング・テストでは指がただ開くか開かないかを見るだけでなく、指が開かない場合は+1から+4まで（数字が多いほどしっかりと閉じている）、指が開く場合は-1から-4まで（数字が多いほど簡単に開いてしまう）、合計八段階に分けています。この方法を使って色々な事をテストすることが出来ますが、ここでは音楽の演奏者による聴衆に対する影響を調べてみました。

図表をご覧下さい。このテストでは被験者が二人（AとBとします）必要です。そしてそれぞれの上胸部の胸腺部（胸骨と左右の鎖骨の接合部付近）に磁石のN極とS極を貼り分ける事によって、人為的に非常に健康な状態（A）と非常に不健康な状態（B）を作り出します。即ちバイ・デジタル・オーリング・テストの結果が極力Aは+4、Bは-4に近づく様に磁石を貼りまします。なおこのセッティングは後述の理由でAとB間が6m以上離れた状態で行ないます。

このセッティングをしてからAとBが5m以内に近づいた状態で両者を再テストしますと、両者の数値の平均化現象が起きます。又両者が握手したり、両者間を銅線をつなぎますと数値の逆転現象が起きます。これらの実験は人間相互のエネルギーの同調現象を知る

上で大変有意義ですが、ここでは本題から外れてしまいますので省略します。

そこでまずA+4とB-4に6m以上離れて立つてもらい、両者間を半導体を中間に入れた銅線をつなぎます。始めにAからBに流れる方向につないでテストしますとAの数値はそのまま、Bの数値が一気にAと同じレベルにまで上昇します。次に反対に流れる様に銅線を持ち変えますと、今度はBの数値はそのまま、Aの数値が一気にBと同じレベルにまで下降します。

ここで音楽をテストします。6m以上離れた距離のままで銅線を離し、お互いの影響のない状態にします。そこでまずAが音楽を演奏します。楽器は何でもかまいません。また演奏が下手でもかまいません。この状態でテストしますとAの演奏を聴いているBの数値が一気にAと同じレベルにまで上昇します。Aの数値は変わりません。次にBが音楽が演奏しますと、今度はAの数値が一気にBと同じレベルにまで下降します。Bの数値は変わりません。この結果は半導体を入れた銅線をつないだ時と同じ結果だということがお判りだと思えます。

これらのテスト結果は一見単なる物理学的実験結果の様ですが、実は従来の音楽の世界を根底から揺り動かす重大な示唆をふくんでいます。従来の音楽では演奏技術面のみが重視される傾向があり、ここで言う聴衆にとつての

価値ある演奏は全く考慮されていなかったからです。更に、ここでのテスト結果では演奏家が健康でありさえすれば良い様に思われますが、演奏者自身の+4、-4のテスト数値を決定する要因は単なる肉体的健康度のみならず全人格的な健康度を表し、正確にはどれ位宇宙に調和しているかという事で決まってくるからです。

但しここで述べられている事は従来にない全く新しい説ではありません。コンクール歴等が全くなく、聴衆の支持によって有名になった演奏家達が海外には見られますが、それらの中に良いエネルギーをもたらすものが多いという事は、無意識的ではありませんが人々の中に同種の感覚が働いていたという事を示しております。音楽は半導体とか銅線を使わずに一時に多くの人々にプラスのエネルギーを注ぐ事出来る非常に効率の良い手段として、今後大いに活用されるべきではないでしょうか？

音楽は物にも影響する

音楽が演奏家次第で人間だけでなく物にも影響を与えろという実験結果をお知らせしておきましょう。同じ曲で+4の演奏者と-4の演奏者によるものを用意します（演奏を聴きながらオーリング・テストをして選ぶ）。そして市販のプレーン・ヨーグルト（製造年月日の新しいものを選ぶ）を同じ大きさの

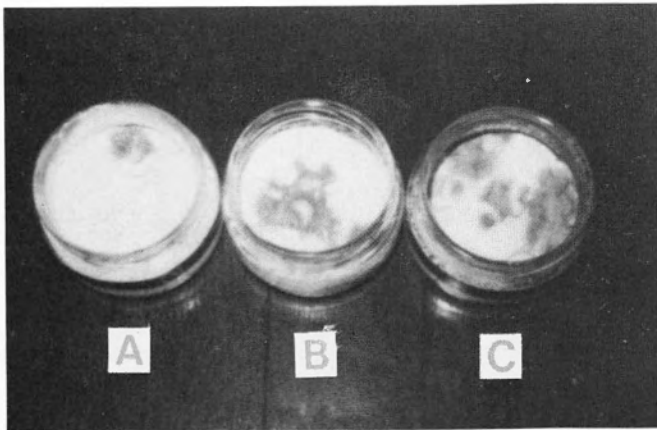
密閉出来る容器（ジャムの空瓶等）二つに同じ分量ずつ入れます。そして一方のヨーグルトには+4の演奏者による音楽を、そしてもう一方のヨーグルトには、-4の演奏者による音楽をそれぞれスピーカーの直前に置いて30分程聴かせます。この時点でヨーグルトをオーリング・テストするとそれぞれ+4と-4になります。食品に良い音楽を聴かせると栄養価が高まり、また美味しくなるということです。

ここでヨーグルトを入れた瓶に蓋をして冷蔵庫に入れます。翌日から毎日一回冷蔵庫から取り出して蓋を開けて点検します。-4の演奏を聴いたヨーグルトは二三日すると水分が始め、一週間もすると豆腐状に変質し始めます。一方+4の演奏を聴いたヨーグルトは二週間以上水分が出て来ませんし、一カ月位は変質も見られません。

ご参考の為に音楽を聴いてから一カ月後のヨーグルトの写真をご覧にしましょう。同じ曲ですがAは+3.5の演奏を聴いたヨーグルト、Bは音楽を聴いていないヨーグルトです。写真に黒く写っているのは青カビですが、Bに比べAははるかにカビの量が少ないのに対し、Cはカビの量が大変多くなっています。又写真では判りませんが、Aは形がほとんど崩れていないのに対し、Cはドロドロに溶けて水分が沢山出ています。

更にオーリング・テストによって、ヨーグルトの様な生きた食品だけでなく、近くにある机とか椅子等々すべてのものに電磁波のレベルで影響を与えていることが判ります。この様に音楽は「耳」のある人間だけでなく、「耳」のない物品にまで大きな影響を与えているのです。自分にとっての演奏の良し悪しはいちいちオーリング・テストをしたりヨーグルトに音楽を聴かせた

ヨーグルトによる実験

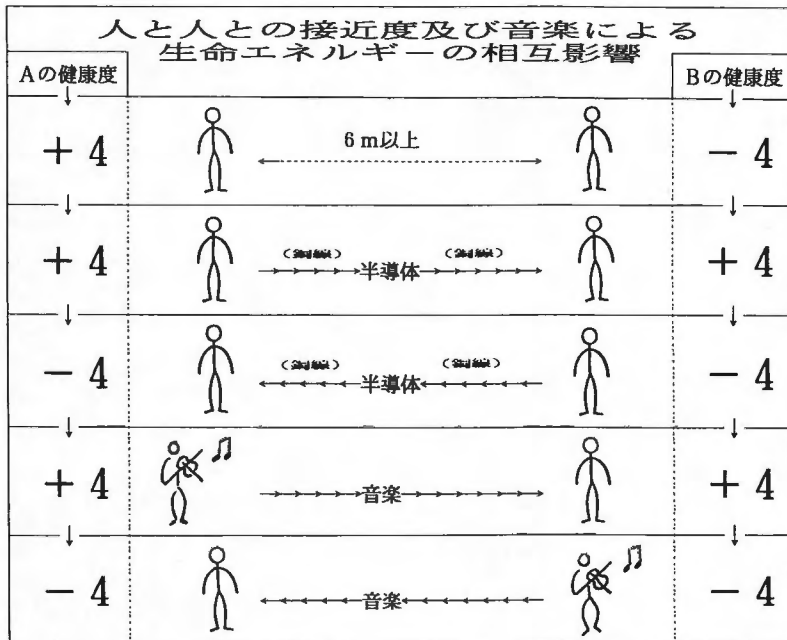


りしなくても、自分の内側に心に向けてることが出来る人であれば、誰でも聴いた瞬間に判ります。その方法に関する解説書「音楽を肌で聴く」をご希望の方は175円切手を同封して下記宛申し込んで下さい。

〒二七一 千葉県松戸市北松戸

二二二 鷺見 弘

(すみひろし)



大盛況!

大阪支部特別月例会

★五月三日 尼崎市産業郷土会館

出席者 七三名

昨年六月に引き続き本年も大阪支部特別月例会として支部大会に準じた大会を開催し、久保田先生のご来臨のもとに支部の士気を高めようと計画したところ、ご多忙中をこころよく引き受けて頂き、首尾よく大会開催の運びとなった。

会場には連休中にもかかわらず、東京、横浜、名古屋、岡山、広島、四国、山口県に及ぶ遠方から多数ご参加を頂いた。先生のご講演は「アダムスキー哲学と超能力開発」と題して次のような内容を話された。

- (1) 隠されていることは必ず洩らされるという法則から、月面の異星人基地の存在がNASA（米航空宇宙局）のアポロ月面写真から漏洩した。
- (2) 来世紀の二〇二〇年ないし三〇〇年頃になると、地球は宇宙時代に突入し、太陽系内の他の惑星群に偉大な文明が存在することが公然と認められることになり、やがて地球と交流が行なわれるようになる。
- (3) コンタクティーとして秋山真人氏の

ような人が今後重要になってくるし、他の惑星の文明を知ることが重要になってくる。

- (4) 私達GAP会員は精神面の向上を図ることが重要である。
- (5) 超能力の開発に努力し、それを見世物でなくて他人を助けるために応用することが大切である。
- (6) 人間の一人一人がすでに完成した人間としての青写真（設計図）を内部に持っていることをプラトンのイデア論を引用して説明された。
- (7) 地球の万物を金星の万物とだぶらせたイメージを描く。地球上のあらゆる物を金星のように完成しつくした物というイメージを描く。
- (8) 病気は精神の変革によって治すことができる。肉体は精神の影響であるから、明るい建設的な想念によって健康体にする事ができる。
- (9) 具体的な方法として大宇宙瞑想があり、これを出席者全員で実習。また練習方法も簡単なことから始めることが大切。実現したイメージを強力に描き、確信を持つこと。

以上の内容であった。初参加の方も多数おられ、久保田先生の宇宙的なご講話を食い入るようにして聞いていた姿が印象的であった。その後休憩、全員記念撮影、質疑に移り、活発なムードのなかに終了した。

その後、神戸三宮に場所を移して夕



▶講演中の久保田会長（上）と参加者 撮影/中村享



食会、二次会と先生を囲み、各支部から来られた方々との交流を深めた。翌日の神戸観光は遊覧船による港めぐり、布引ハーブ園見学の予定はものすごい群衆のために変更し、メリケンパーク、海洋博物館を見学して有意義

な二日間を過ごすことができました。ご多忙中にもかかわらずご出席頂いた久保田先生ならびに遠路をお越しくださった多数の会員の皆様に支部一同心から御礼申し上げます。

大阪支部代表 平塚和義

表面上は特別月例会となっていたが、全く素晴らしい大会であった。七〇名を超える大人数は地方支部の大会として大盛況である。

大阪は商業都市だけあって支部の人はオトナという感じがする。話が以心伝心で伝わるような気がするのだ。

しかも関西へ行けば私の田舎弁を誰も気にしないので気安さを覚えてリラックスできる。出席された皆さんは非常に真剣であった。熱意に満ちた態度は第一級と言えよう。神戸港めぐりの船上から六甲山の上空に不思議な白い半円形の雲が出たのを大勢で見え騒いだ。

コンパスで描いたような半円はどう見ても自然現象ではない。平塚氏はこの日他にも神戸港の上空に浮かぶ黒い UFO を撮影している。これも秋山氏の鑑定で本物という烙印が押された。ただし小さな黒点の画像なので印刷に向きのため掲載できなかった。

尼崎も神戸も美しい街だ。新神戸のオーバ (Oriental Park Avenue) はワシントン市のピアー17に似ているが、こちらの方がきれいだ。メリケン波止場跡の公園は広大で良い。ご出席の皆様と大阪支部のご発展を祈るや切。

久保田八郎

◀五月四日神戸港めぐりの船上から六甲連山上空に出現した不思議な半円形の雲を大勢で目撃した。秋山氏がこの写真を鑑定した結果、UFOのフォースフィールドで形成された典型的なサインであるという。撮影/平塚和義



▼大阪支部特別月例会 (前列中央、久保田会長、その右は平塚大阪支部代表 撮影/中村享)



UFO・異星人・地球人

ジョージ・アダムスキー／久保田八郎訳 (1)

（一九五八年、米ミズーリ州カンザス市における講演より）

異星人に対する誤解と偏見を打破し、地球の環境問題に警告を与えたこの内容は、今も重要な意味を帯びる。

まず最初に今この世界で起こっている、とても大切な出来事についてお話ししたいと思います。それは、私達にとって、UFOの問題よりもはるかに大切なことだとさえ言えるものです。

私がこんなことを言うのを聞いて、もしかしたら皆さんは、「そんなばかな」とお考えかもしれませんが、ところが、これは決してばかなことではないのです。

宇宙空間への進出が最重要

皆さんもすでにご存じのように、ついこの前、人工衛星が打ち上げられました。私たちの歴史上、最も重要な出来事だと言っているでしょう（訳注II これはアメリカ最初の人工衛星エクスプローラー1号）。「いや、そんなこと

よりも、UFO問題の方がはるかに重要じゃないか」とおっしゃる声が聞こえてきそうです。でも、そうではないのです。考えてもみて下さい。UFOは、飛んで来たと思えばすぐ飛び去ってしまいます。そして私たちは常に地上に残されたままです。

でも、今この世界で押し進められている宇宙計画は違います。それによって今度は私たちが宇宙に出て行けるようになるかもしれないのです。これほどに重要なことが、ほかにあるでしょうか？

これは、みなさんの人生にとつて、皆さんの子供さんの人生にとつて、さらには、その子孫の人生にとつても、とても重要なことなのです。

なぜならば、宇宙に出て行くことによって、私たちは、自分達の目をどん

どん外に向けるようになるからです。全世界的な規模です。そしてそれは、おそらく、私たちが忌み嫌う戦争を、その世界から一掃することになるでしょう。かなり高い確立でそうなります。まあ、九〇パーセントは下らないでしょう。

人々は、常に仕事を手にしていません。彼らに常に仕事を与えねばなりません。これまでの歴史で、人々に働くべき仕事がなくったとき、つまり経済活動が激しい停滞に及んだとき、いったい何が起ったでしょう？

そうです、戦争です。停滞した経済を活性化すべく、私たちは戦争を起して来たのです。多くの戦争がそうやって発生してきました。そしてそれは今後また同じようにして起こるかもしれません。

少し歴史を振り返ってみましょう。ご存じのように、私も参加した第一次世界大戦直後に訪れた深刻な不況は、自動車によって救われました。車が大量に生産され、人々はこぞつて車を買いました。それとラジオもありました。それで経済が立ち直り、何事も起こらなくなりました。

そして一九二九年、私たちはまたもや深刻な不況に襲われました。しかしそのときには、それを救ってくれるものが何一つありませんでした。それで結局、歴史が繰り返されることになっ

たわけです。

そうやって私たちは、働き続けてきたのです。実際、戦争は実に多くの仕事を作ってくれます。同時に、たとえ人々が仕事をし続けるためであるとはいえ、戦争によって私たちはあまりにも大きなものを失ってしまいました。

しかしです。もし宇宙開発がこのまま進んだならば、やがてそれは第一次大戦直後の自動車ブームをはるかに凌ぐ仕事を私たちに提供してくれるはず

です。そして、それらの仕事は、いつになってもなくなりません。様々な形の製造や建設のラッシュが延々と続くことになるからです。しかも、それらはどれもが、真の文明開花の促進という、素晴らしい目的を持った仕事なのです。宇宙に飛び出すことによって、他の惑星群の人々との距離も近づきます。当然、相互理解も深まるでしょう。

また、宇宙に目を向け、そこに出て行くことによって、私たちは常に幸せな状態を維持できます。なぜならば、そのとき私たちは破壊的な目的ではなく、極めて建設的な目的に向かって進んでいるからです。

月ロケット発射の成功が、これまでこの世界で発生した最も重要な出来事であるということが、よくお分かりいただけたと思います。これはまさに、私たちが宇宙に出て行くための第一歩なのです。



▲アダムスキー（左端）。右端はアリス・ウェルズ女史。



やがては週末などに皆さんの自宅に他の惑星からのお客様がぶらっとやって来るといったことが、あたり前のことになるかもしれません。まるで隣の友人が訪ねて来るようになります。あるいは、逆に皆さんが彼らの惑星を訪ねるといったことも日常茶飯事になるかもしれません。

さて、そこで皆さんはおつしやるかもしれません。「それなら、どうして今すぐにも彼ら（異星人たち）を受け入れられないんですか？」

まあ、待つて下さい。この世界には現在二五億の人間が住んでいます。そして現在、UFO群の来訪、あるいは

は異星人たちの来訪の事実を心から信じている人々は、そのうちの五百万人にも満たないでしょう。残りの人々はその事実を全く知らないのです。

ある人々は単なる空想物語として捉え、また、ある人々はそれが自分自身の信念や教会の教えなどと矛盾するという理由で、この問題を理解しようとして

する冒険を恐れ、考えようとすらしていません。そういう人々がこの世界の大半を占めているのです。

しかし、もし私たちが自力で宇宙空間に出て行き、他の惑星群に着陸して戻って来たとしたらどうでしょう？

異星人来訪の事実を受け入れる人々の数が飛躍的に増加することは間違いありません。

なぜならば、地球人類は他の人々が成し遂げたことよりも、自分たちで成し遂げたことの方をはるかに素直に受け入れる傾向にあるからです。地球人が真実を知る方法はそれしかないと言ってもいいでしょう。

そして今、私たちはまさにその段階に突入しようとしているのです。私たちが月に、火星に、金星に、さらにはその他の多くの惑星群に降り立つときに刻一刻と近づいてきているのです。

やがて、私たちが初めてそれらの惑星に着陸するときに訪れたとします。そのときの私たちは、その大統領、あるいは政府高官その他の要人たちと会見しようなどという意図を全く持っていないはずで、なぜならばその時点ではまだ私たちはそこに誰が住んでいるのかを知らないからです。しかし、私たちは誰かに会おうとするでしょう。誰に会おうと問題ではありません。

代 今こそ最も希望に満ちた時

まず、もし私たちがどこかの惑星に近づいたならば必ずその惑星に降りてみようと考えはせずです。その惑星の周りを回って帰って来るなどというもつたないことは決してしないでしよう。

そして、もしかしたら私たちは、地球の言葉で言うジャングルのようなところに降り、やはり地球の言葉でいう野蛮人のような人々に出会うことになるかもしれない。そこで私たちは、私たちと同じような人類が存在することを知り、その情報を持ち帰ります。そしてその証拠は、以後のより精密な調査を誘発することになるでしょう。

私が今話している「私たち」とは、地球の宇宙船で他の惑星をはじめ訪れる恩恵に属するであろう人々です。異星人たちのことをとてもよく知っている皆さんや私が、その恩恵を手にするのは、まずあり得ないでしょう。最初に他の惑星に降り立つ人々は、おそらく、UFOのことなど全く信じない懐疑論者たちのはずです。

しかし、たとえいかに懐疑論者といえども、そこに行けば、自分たちと同じような生命体が存在するかどうかを意欲的に調査することは間違いありません。そして誰かを発見して、その情報を持ち帰ったならば、それはほとんど

どの人々によって、受け入れられるでしょう。なぜならばその情報は地球人によって作られた宇宙船に乗って別な惑星に行つて来た地球人が持ち帰った情報だからです。

私たち地球人は、これまでの長い間に、自分たちのエゴを大きく成長させて来ました。そのため、真実が目前に現れても、それを真実としてなかなか受け入れられない傾向にあります。

自分たちよりもはるかに進歩した人間がこの世に存在するなどということを知り、聞かされても、エゴに満ちた私たちにとって、それはとても受け入れ難いことです。自分の親類の一人から「僕の方が君よりもやられてる」などと言われたときでさえ、私たちは、なかなかそれを承服できないのですから、推して知るべしです。

そうなのです。私たちは、常に自分が一番でなければならぬのです。私たちは今そんな心の状態にあるのです。これこそまさに、私たちが抱えている最も大きな問題だと言つていいでしょう。

しかし、もし私たちが、たとえどこに住んでいようとも、すべての人間が発展途上にあるのだという事実を受け入れられたならば、そのときから私たちは、どんどん新しいことを学べるようになります。それによって私たちの心が大きく開かれることになるからです。そのとき私たちは他の人々の話に

より、真剣に耳を傾け、良いものを、真実を、どんどん受け入れることができようになるでしょう。必ずそうなります。

いづれにせよ、今私たちはこれまでの歴史上、最も希望に満ちたときを生きていると言つていいでしょう。

地球はさほど遅れていない

さて、今この地球が、近隣の他の惑星群と比べてあらゆる点で進歩が遅れているということは確かなことです。とはいえ、決してそれほど遅れているというわけでもないのです。

今後私たちは、ときの経過とともに次々と素晴らしいものを手にすることになるでしょう。あと五年あるいは一〇年もしたら、みなさんはおそらく自分たちが新しく手にしたものを見て、まず驚くはずです。

これまでに私たちは、特に科学的には目覚ましい進歩を遂げてきました。もし国家の安全保障という問題が存在せず、これまでに私たちが手にした科学的進歩の全容を知らされたならば、皆さんはおそらく、懐疑論者たちがUFOに関する事実を知ったときと同じほかに驚くでしょう。私たちはすでにこの地球上で、私たちの手で、素晴らしい科学的進歩を果たしているのです。

しかしそれらの技術が仮想敵国に洩れては困るという理由で発表はまだ控

えられているというのが現状です。たとえば、私たちはすでに家中の埃を完全にたくす技術を開発しています。それを用いると家の中で埃の粒子が宙に舞っているといった現象を私たちは全く見なくてすむこととなります。

また刃物類を一切用いずに手術を行なう技術も開発されています。それを用いればこれまでのように手術のあとに傷が残ることもなくなります。

さらには、ほとんどすべての人々に適用し得る全く新しい健康増進法も開発されています。それによって私たちは、確実に寿命を伸ばすことができます。

以上のような事実は、先ほど言った理由で今すぐ公表されるというわけにはいかなければいけません。しかしそれほど遠くない将来、必ず公表されることになりそうです。科学者たちは、私たちが眠っている間にも日夜研究を続け、本当に素晴らしい成果を上げ続けているのです。

それと、もう一つ知られていないことがあります。それは、私たちの目ざましい科学的進歩は決して私たちの力で成し得たことではないという事実です。これも間違いない事実です。

地球人を援助する異星人

二年ほど前、講演のために訪れたニューヨーク州のパツファロー市で、私

はある偉大な科学者と出会いました。彼はベル航空機会社と深い関係にあるドイツ人の科学者でビールをこよなく愛する人物でした。当然のごとく私たちはテーブルに座ってビールを飲みながら話を交わすことになりました。そのとき彼は、私にこんなことをいったものです。

「実はね、ジョージ、僕たちがこれまでに成し遂げてきたことは、決して僕たちだけの力で成し遂げ得たことではないんだ。僕たちは援助を受け続けてきたんだ。」

そこで私が、誰の援助を受けてきたのかと訪ねると、彼の答えは、「君はもう分かっているはずだよ」というのでした。つまり彼は、彼らが異星人たちの援助を受け続けてきたことを明言したわけです（訳注Ⅱこの科学者はヘルマン・オーベルト教授）。

異星人たちは、これまで私たちに、とてつもない援助を与え続けてきてくれています。その全容を知ったなら、おそらく私たちの誰もがその偉大な援助に感謝すべく、床にひれ伏すはずです。彼らは私たちにそれほどほどの援助を与えてくれているのです。

にもかかわらず、地球人たちは彼らに対して貪欲に求め続けています。「どうして彼らは大群を組んで大都市上空に現れないんだ？」

地球人たちは、そんなことをいつまでも言い続けているのです。

でもいつたい、彼らが大群で押し寄せたりしたらどんなことになるでしょう。それを見て地球人の多くはただ恐れるだけです。ある者は地下室に逃げ込み、またある者は銃か何かを取りに走るでしょう。結局、彼らがそんなことをしても何の意味もないのです。時間の無駄というものです。

彼らには他に重要な仕事がたくさんあります。もし彼らがこれまでそんなことにかかわっていたならば、今、皆さんや私がここにこうやっていても、おそらくなかつたはずですよ。

実は、これまでのこの世界では大戦争に発展し得る小さな戦争が数度発生しています。どれもが本当に大戦争の危機をはらんでいました。しかし、彼らの介入でそれらの危機はすべて回避されました。武力や脅迫による介入ではありません。知性による介入です。

そうやって彼らは、小さな争いが大きな争いに発展することを未然に防いだのです。私が知るかぎりでは、これまでに彼らは六度ほどそういった形で私たちを援助してくれています。

皆さんは、彼らにいまさら何をしてほしいと願っているのでしょうか？ 空中シヨウを見せたいのでしょうか？ 自分たちのエゴを満足させるために？ もし彼らがそんなことに駆り出されていたら、私たちのすべてが毒ガスで窒息したり、爆弾で粉々になったりといった運命を辿ることになっていたかもしれ

ないのに――。

私は彼らに決してそんなことを望みません。私は彼らにこれまでどおりの活動を望んでいます。たとえばや二度と彼らに会えなくなつたとしても私がかまいません。

現実にはオーソンが私の前から去つてすでに一年以上が経過しています。オーソンは、私とのコンタクトを別の異星人に託して私のもとを離れました。別のある使命を果たすためにです。

今私は正直なところ彼に会いたくたまりません！ でも私とのコンタクトよりも重要な使命が今の彼にはあります。それを中断してまで私に会いに来てほしいなどと考えるほど私は自分勝手ではありません。

宗教を捨てる必要はない

私たちの多くは全く気づいていませんが、異星人たちは、本当に様々な形で私たちを援助し続けているのです。さて、皆さんは、私に関する様々な噂をお聞きになつていると思います。その一つに、私が特定の団体や主義主張に敵対しているといったものがあるはずですよ。しかし私はいかなるものにも敵対していません。皆さんは自分の好きなものを自由に手にして構わないのです。教会を去る必要など全くありません。たとえカトリックであろうと、プロテスタントであろうと、今の自分

の宗教を捨てて世に言われる「UFO教」に入信する必要など全くないので。これまでのものを捨て去る必要など全くありません。

それは、地球製の宇宙船で皆さんが火星に出かけ、そこで二週間の休暇を過ごす、といったことができるようになったときでも全く同じことです。それを行なうために、それまでの自分の宗教を捨てなければならぬ理由など一つもありません。何も変えなくていいのです。そこに行つて大いに楽しい休暇を過ごす。それだけでいいのです。ただ、もしかしら飛行料金はかなり高いものとなるかもしれません。それだけは一応心に留めておく必要があるかもしれませんね。

異星人に気づくことが大切

マクギニス夫人が異星人たちに会つたと語つたことが話題になっていました。彼女は確かに会っています。そしてそれは決してめずらしいことではありません（訳注Ⅱルーシー・マクギニスはアダムスキーの秘書を多年つとめた女性）。

少し前に私は旅行に出ました。ヒューズ航空機会社のレーダー部門担当の技術者とともにです。彼は私の友人で、ある日私に「ジョージ、休暇が取れないで、よかつたら僕と一緒に車で旅行しないか。もちろん僕の運転でね」と

言ってきたのです。それで私たちは出かけました。

シアトルとポートランドを中心に回ったのですが、その旅の途中で私たちは異星人に会っています。しかも一度だけではありません。それは彼にとつては全く初めての経験でした。

彼はとても深い深き性格です。同時にいわゆる伝統的宗教人でもありません。ただし、さまざまなことを学ぼうという意欲が旺盛で、その意味では、素晴らしいオープンマインドの持主です。さらに、とても敏感な感知力の持ち主です。そのため彼は旅先で異星人に会ったとき、すぐにそれを見抜きました。その人物が地球人ではないということに素早く感じ取ったのです。その人物の持つ地球人にはない特徴に気づいたためです。

もつとも、異星人といえども、外見には全く私たちと同じで、そこから絶対に見分けが付きません。しかし彼はその人物の話し方に明確な違いを感じ取りました。思考の組み立て方が違うのです。その人物が発する言葉の奥深くから、地球人とは大きく異なったものがにじみ出ているのですが、それを彼は見事に感知しました。

皆さんも、もしかしたら異星人と会ったことがあるかもしれません。それは、いつでも、どこでも、起こり得ることなのです。今、皆さんの隣に座っている人物が異星人であっても決して

不思議なことではありません。見ただけでは全く見分けがつかないのです。

でも、話してみれば分かります。彼らの話す内容とその雰囲気、一般の地球人とは明確に異なっているからです。

さて、現在、異星人に関する様々な情報が飛び交っています。そして皆さんは私が言っていることと矛盾した話も当然聞いていることと思います。特に私は気にしていませんが、一つだけここで話しておきたいことがあります。

自分で自分を救うこと

実は、どこに行っても必ずといっていいほど受ける質問があります。

「彼らはいつ私たちを救いにやって来るんですか？」とか「カタストロフィ（大破滅）がやってきたとき、彼らは私たちを救ってくれるんですか？」といったものです。

まず第一に、彼らに救われる価値のある人間とはいったいどんな人間なのでしょう？ 少なくとも私はそんな価値のある人間ではありません。

第二に、私たちはなぜそんなに自分勝手なのでしょう？ なぜ救ってもらいたいと考えるのでしょうか？ 私たちは、自分たちで自分たちを救うためのさまざまな装置なり方法なり知恵を十分に持っているはずで、救われ

なければ、そんなことは自分でやればいいんです。

第三に、特定の人々を救って残りの人々を災難の中に残して行くなどということは、すべての自然の法則に完全に反することです。それは創造主の法則に反することなのです。彼らの進化の度合からして、彼らがそんなばかかなことをすることなど絶対にあり得ません。

彼らと比べれば、私たちはまだまだ進化が進んでいません。しかしながらそれでもなお、もし私たちがハイウェイなどで不運な出来事の発生を見たりしたならばどんな行動に出るでしょう？

例えばある車が横転して中で人々が助けを求めているとします。それを見て私たちは一人一人に「あなたはカトリック？ それともプロテスタント？」あるいは「あなたは黒人？ それとも白人？」あるいは「あなたは善人？ それとも悪人？」などと聞いたあとで、この人物は自分が助けるべき人物だと考えたら助け、そうでなければ放っておく、などということをするのでしょうか？

冗談じゃありません。私たちは、そんな質問など絶対にしません。たとえ彼らが誰であれ、全員を別け隔てなく、速やかに救い出す努力を開始するはずで、

私たちがさえそうするのです。まし

て、異星人たちが災難に見舞われた私たちを見て、そのうちの氣にいった一部の人々のみを救い出そうとすることなど絶対にあり得ないことです。

大変動の予言を恐れるな

それと、未来に関してはまだ正確には何も分かっていないのです。大変動が起こるなどということは誰にもまだ分からないことなのです。起こるかどうかも分からないことに振り回されたりするなど絶対にしないことです。そんなことを恐れるのは時間の無駄以外の何ものでもありません。

しかし何らかの大災害が発生するのではないかという不安は、現在、世界中に広がっています。皆さんも少なからずその不安をお持ちかもしれません。でも、私は今ここで断言します。たとえ万が一何かが起こると仮定したとしても、私たちの科学者が、その発生の少なくとも半年前にはそのことを発表し、次に皆さんが取るべき行動を指示してくれるはずで、そしてそれらに従うことです。そうすれば何の心配もありません。

正しい情報を十分に身につけた人々は、どんな状況が訪れても決してパニックに陥るほどに恐れたりはしません。真の情報を持たない人々のみが恐れおののくのです。

U.F.O問題は決して恐怖をそそるよ



●インディアナ州のアダムスキー型円盤

1977年15時30分、インディアナポリス市の若いボーイスカウト、マイク・ブランデンバーグが自宅上空を旋回する黄金色のアダムスキー型円盤を撮影した11枚の連続写真の8枚目。他にも目撃者がいた。

うな問題ではありません。これは友愛と幸せを提供する問題なのです。スペース・ブラザーズ（友好的な異星人たち）との出会いは、誰にとつても自分が赤ん坊のときに家を出た兄弟との五〇年ぶりの再会にも似た、この上ない大いなる喜びに満ちたものとなるはずです。

私たちはこれまで、この太陽系から自分たちを隔離し続けてきました。まるで本土から離れた孤島に一人取り残された孤独な男のようにして、果てしない年月を生き続けてきたのです。

しかし今や私たちは徐々に気づきつつあります。この宇宙には居住に適した多くの惑星があり、そこには私たちと何ら変わりのない人々が住むということ——。私たちは決して孤独ではないということ——。私たちは、彼らからさまざまなことを学びつつ、彼らとともに仲良く生きることができるようになることを——。

異星人の外観は地球人と同じ

私はある録音テープを持っています。時間の都合で、ここでお聞かせすることはできませんが、その中には一人の火星人の声が入っています。昨夜、ここにおられる少数の方にはお聞かせしたのですが、声を聞いても言葉も聞いても私たちが全く変わりません。おもに私が質問して答えるという形になっ

ていますが、マクギニス夫人も質問しています。彼はあらゆる点において皆さんや私と全く同じ人間です。彼が今の会場のどこかに座っていて、私が彼を指差したとしても、皆さんはおそらく彼が異星人であることを信じないでしょう。彼はとても私たちに似ています。さまざまな動作、仕種の類まで本当にそっくりです。本当です。そしてそれは金星人であっても、あるいはその他のどの惑星の人々であっても全く同じことです。

ただし、彼にとつてこの地球で生活するということとはとても大変なことです。彼らの懐疑論者たちからのみならず、彼らの存在を信じている人々からさえもとても多くの精神的圧迫を感じると語っていました。

さらに、この地球で仕事に就くことも、それを続けることも、彼らにとつてはとても大変なことです。地球に長期間留まるためには、仕事をしなくてはなりません。住居も必要ですし、彼らも食べねばならないからです。靴も買わなければなりません。ここで生きて行くためには、皆さんや私が必要とするものと同じものを彼らも必要とするのです。

彼らは私たちと全く変わらない人間です。さまざまな痛みも同じように感じます。そして多くの点でとても素晴らしい進歩を遂げてはいるものの、彼らとて、まだまだ完璧ではありません。

彼らもまた私たちと同様、進化、あるいは進歩の過程にあることは、私の本をお読みになつた方はご存じのように、彼らが見ずから語っていることでもあるのです。

地球人の頭脳ほどの程度か

この点に関してもう少し掘り下げてみましょう。まず、私たちは今、自動的に同じものですが（の約一〇パーセントを活用しているにすぎません。これは本当のことです。今や科学が明確に主張していることなのです。ということとは、私たちにはまだ開発の余地が九〇パーセントも残っているということになります。

しかし、心のわずか一〇パーセントを活用しただけで私たちが成し遂げ得たことを、よく見てください。自動車やテレビやら、その他の多くのものを、私たちは自分たちの頭脳のわずか一〇パーセントのみ活用して作り出したのです！

もし私たちがもう一〇パーセントの頭脳を活用し得たならば、いったいどれほどのことができるでしょう！ これまでに成し遂げてきたことよりもはるかに素晴らしいことを成し遂げられるでしょうし、同じことを行なうにしても、はるかにスピードアップできるはずです。

さて、それでは火星人たちの場合はどうでしょうか？ 彼らは現在、彼らの頭脳を私たちよりも五パーセントほど多く、つまり一五パーセントほど活用しているといわれています。さらに金星人になると、それが二〇パーセントほどに拡大します。まあ、私たちと比べてそれほど掛けた進歩をしていないわけではありません。私たちはそれほど遅れをとっているというわけでもないのです。

もつとも、あと一〇パーセントの活用はもとより、これまでに用いていなかった頭脳細胞の一つを活用するためにさえ、私たちはもしかしたら大変な努力と時間を要するかもしれません。まあ、いずれにせよ、私たちと彼らの違いはただその点のみだということが言えます。

ただし、当然のごとく、人間は頭脳の発達に伴い、より深い理解力を身につけます。他の人を理解する上においても、その分だけ深い理解が可能となるわけです。彼らが私たちを私たち自身よりも良く理解していることの原因がここにあります。頭脳の活用度において、片や五パーセント、片や一〇パーセントほど私たちがよりも上を行くわけですから、それも当然のことです。

異星人は地球人をどのように見ているか

さて、それでは、進歩の遅れている

私たちが彼らはどのように見ているのでしょうか？ 彼らは皆さんが自分の子供を見ているように私たちを見ています。そうですね、もし皆さんが三〇代の方だとすれば、まあ、皆さんが七歳から一〇歳ほどの自分の子供を見ているのと、ちょうど同じような感じで私たちを見ているといつていいでしょう。

皆さんはその子供からすれば、はるかに年上なわけです。そんな小さな子供が私たちを理解できなくても、皆さんは決して相手を責めたりはしないでしよう。その子供もやがては必ず皆さんと同じ理解力を持つようになり、そんな子供の成長を皆さんはきつと根気よく待つでしょう。

異星人たちの私たちへの接し方も、それと全く同じなのです。まだ低い進歩段階にいる私たちの理解力のなさを、彼らは決して責めたりしません。彼らは、いずれば私たちも彼らのレベルに到達するであろうことをよく知っています。事実、私たちはその方向にのみ歩んで行きます。上に向かってのみです。決して後退はしません。私たちは前進するのみなのです。

さて、その知性面の発達以外には、彼らと私たちとの間には何の相違点もありません。彼らも同じように楽しいことが好きです。彼らも彼らなりにダンスを楽しみます。

もちろん、彼らが好んで踊るダンス

と私たちのそれとは若干異なっています。しかし、その違いは、せいぜい地球上の国家間でみられる習慣の相違程度のもので、国によってさまざまに習慣があります。したがってそれぞれ国のダンスにはその習慣の違いが微妙に投影されることになりました。さらに食習慣や衣服の習慣、そして人々の集まり方なども国によつてさまざまです。でもそれらの異なつた国々の人々を大きなグラウンドに集合させてみたらどうでしょう？ それぞれが互いの習慣的特徴に興味を示しつつ、和気あいあいと、とても楽しいひとときを過ごすことになるはずですよ。

他の惑星の人々と私たちとの違いは、せいぜいそのくらいのものです。それのみなのです。それ以外の点では全く同じ人間だと言つて間違いありません。彼らもまた私たちと同様ジャガイモを掘る器械を持っています。彼らもジャガイモを食べるのです。そしてそれは耕作されねばなりません。本当に彼らは私たちと全く変わらないのです。また、彼らの惑星にも動物たちが生息しています。そうだ、この点に関しては、一つだけ大きな違いがあります。彼らは、私たちが今行なつていようように、動物たちを商売の道具には決してしていません。

例えば私たちはいわば殺すために牛を育てていますが、彼らは決してそんなことはしません。彼らは動物たちの

生育をすべて自然に任せているのです。彼らは、決して自然のバランスを崩すようなことはしません。なぜならば、彼らは、もし自然のバランスが崩れたならば、常にそのくずれが自然によつて修復されることをよく知つていようからです。創造主は、もし自然のバランスを崩すほどに自分の創造物の一部が増殖したときには、それを支えていた手を速やかに離すことで常にバランスを保つていようのです。そのことを彼らはよく知つていよう。よつて自然のバランスが崩れるといつた心配は彼らの惑星群には存在しません。

自然というものは、人間がそれ自由にしておこならば、穏やかな行程を経て見事にバランスがとれるようにできていよう。しかし、もし人間が自然の営みにちよつかいを出したりすると、自然はそのバランスのくずれを急激な活動によつて修正しなくてはならなくなりよう。それによつて人間は当然被害をこうむることになりよう。

要するに、自分で自分自身を痛めつけることになるわけですよ。異星人たちは、苦い体験を経て遠い昔にそのことを学びました。その結果、もはや彼らは決してそんな愚かなことはしていません。彼らは自然のバランスはすべて自然に任せていようのです。

そのため彼らの生活はとても自然と溶け込んだものとなつていよう。大自然や動物たちととても密着した生活を

行なつていようという意味では野性的な生活といつてもいいでしょう。そこで地球人たちは言います。「地球には饕餮な野性動物が多いから、とてもそんな生活は不可能だ。夜眠つていよう間に食べられてしまふかもしれないんだから」

恐怖を知らぬ赤ん坊は安全

ところで皆さんは、ジャングルや荒野などで赤ん坊が食べられたという話を聞いたことがあるでしょうか？ 何らかの理由で一人置き去りにされた赤ん坊が、ライオンやトラなどに食べられたという話を私は一度も聞いたことがありません。赤ん坊は、決して動物に食べられないのです。なぜなら、赤ん坊は恐怖を知らないからです。

一方、大人の人間が同じジャングルの中で眠つていたとしたら、どうなるでしょうか。猛獣が人を襲つて食べた話などを知つていよう本人のまわりには恐怖と警戒の想念の大きな輪が放射されています。本人のまわりの大気がその想念で充満していようといつたらよいでしょう。そして当然、枕元には銃などの武器がおかれていよう。

動物はとても感知力が優れていよう。そんな状態で寝ていよう人間のそばをライオンが通りかかつたならば、ひとたまりもありません。人間は食べられてしまふのです。

(以下次号)

天地万物との 一体化で長寿

90-year-old Man Living
with Cosmic Consciousness
by Nobuo Shioya

医学博士
塩谷 信男

また「無生物も生き物」という一節もまことに同感で、この考えは前に差し上げた愚詩「観真我」の中に盛り込んでございますので、あるいはご記憶かとも存じます。

ある九十翁のうた

妻は 私の 天与の好伴侶

他人は 私の 人生の良師

天地は 私の 育ての親

自然は 私の 同根の同胞

整心は 私の 長寿の因

調息は 私の 健康の秘訣

ゴルフは私の 無二の親友

そして私は

老人の数少ない賦活剤

〈作者解説〉

賦活剤とは肉体の細胞に活力をつける薬のことである。私はゴルフコースへは、たいいてい一人で行く。そして空きのある組に入れてもらう。したがって知らない人と一緒に回る人が多い。二〜三ホールを歩くと、年配のプレーヤーなら、必ずといっていいくらい聞いてくる。

「お年はいくつですか」と。

「九〇歳です」と答えると、みんなビツクリする。「ほんとですか」と疑う人も多い。

さらに二〜三ホール進むと、「イヤー驚きました。実は私も、もう年

◀平成4年3月18日、三島スプリングスカントリークラブにおける塩谷先生の勇姿。卒寿（90歳）祝賀記念競技会にて。



とである。

平成四年三月

〈編者（久保田）注〉

筆者塩谷先生は編者がGAP活動を開始する以前からお付き合いを頂き、以来三〇年以上に渡ってご支援を頂いている方です。本年九〇歳ながらかくしゃくとしてゴルフに興じられるお姿に驚嘆のほかありません。万物との一体感、感謝、特殊な腹式呼吸と瞑想等を実践されて六〇歳代にしか見えない健康体を維持しておられる一種の宇宙的な思想の持ち主です。以前は都内で医院を経営しておられましたが、現在は引退され、熱海市で悠々自適の余生を過ごしておられます。



◀代表・高梨十光氏

Izu Branch Memorial Meeting
新生支部の誕生祝いに集まろう！

伊豆 IZU支部発足記念大会

久保田会長のご支援のもと、懸案であったIZU支部がついに誕生しました。第1回の記念大会を開催しますので多数ご参加下されれば幸いに存じます。今後は鋭意努力して日本GAPの発展のために最善をつくしますので、よろしくご申し上げます。

代表 高梨十光 / 副代表 赤池澄夫

☆

日本GAP最古参クラスの会員で熾烈な宇宙哲学実践者・高梨十光（旧名・和明）氏が、ついにIZU支部設立のノロシを打ち上げました。この音響は全国GAP会員諸兄姉の耳にこころよく響くことでしょう。数年来同氏は職業の自立で多忙を極めていましたが、今や千客万来の大繁盛。時機到来とばかりに船出したIZU支部丸は大航海の旅に出ました。大発展を期待しています。8月9日の発足記念大会には私も駆けつけて熱弁をふるいます。静岡県内はもとより東海地方、関東一円の皆様の多数ご参加をお待ちしております。愉快にすごしましょう。

日本GAP会長 久保田八郎

大会

日時 8月9日(日) 1:15～4:25
会場 三島市民文化会館 大会議室 (3F)
 (昨年建築の古代ギリシア風建物)
 静岡県三島市一番町20番5号 ☎0559-76-4455
 三島駅より南へ徒歩3分。東京より新幹線こだま号で三島までちょうど1時間。新幹線改札口を出て駅舎内の通路を通り、南口(正面口)へ出る。広場を渡って一番町方面の通りへ。

会費 ¥3000 中高生¥2000 小学生以下無料(全員記念写真代は希望者のみ¥1000を別納)

プログラム 1:15 支部代表・高梨十光 挨拶・講演
 1:45 久保田会長講演「UF〇問題の意義とアダムスキー哲学を生かして人生で成功する方法」(大宇宙瞑想と集団想念放射の実習指導)
 3:45 休憩
 3:50 質疑応答/全員記念撮影
 4:25 閉会

夕食会

日時 大会終了後 5:00～7:00
会場 三島プラザホテル 4F「ライラックルーム」(イギリス風の豪華なホール)
 三島市本町14-31 ☎0559-72-2121
 市民文化会館より徒歩10分。

会費 ¥6000 中高生割引なし。小学生以下は無料。

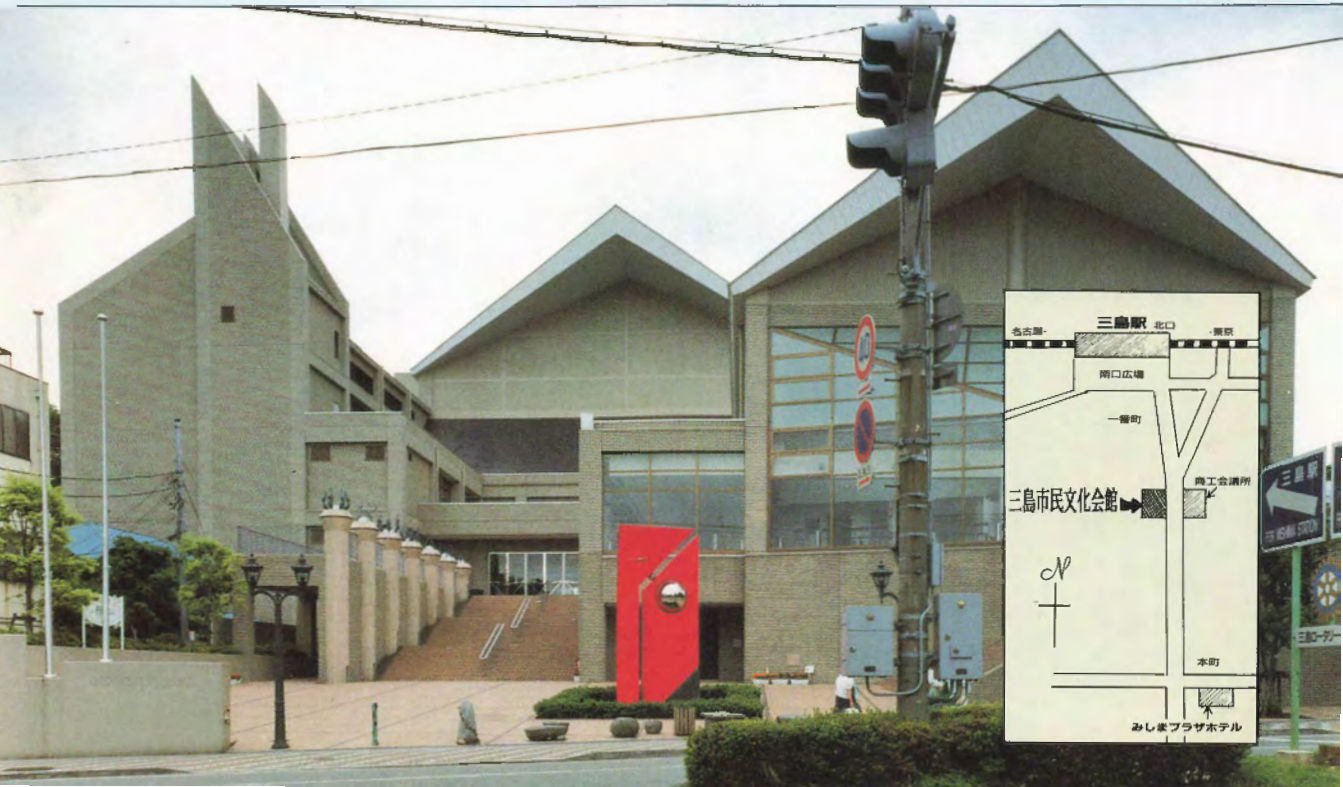
宿舎

ホテル 三島プラザホテル (夕食会場と同じ場所)
料金 シングル¥7000 ツイン 11000 ダブル¥11000 (いずれも税、サ込み)

申込

以上のうち、夕食会出席とホテル希望の方は予約が必要です。ハガキに「夕食会出席希望」または「ホテル希望」と記し、7月末までに下記へお申し込み下さい。
 〒410-24 静岡県田方郡修善寺町柏久保675-1、三田マンション
 高梨十光 (たかなしかずあき) ☎0558-72-7832

▼三島市民文化会館





素晴らしかった大阪支部特別月例会 大阪 田辺健司

大阪支部特別月例会にお忙しい中、東京よりお越し頂きありがとうございます。久しぶり先生が力強い講演をお聞きしてとても勇気が湧いてきて「よし頑張るぞ」という気持ちになりました。

最近の大阪支部は樹木との一体化の練習等で万物一体感を高めることをやっています。今回先生が来られたことで先生の波動の素晴らしさに触れることができ、また一段と進歩するはずになったものと思われま

す。本当にありがとうございます。今後とも御指導よろしくお願い致します。今度は総会でお会いできるのを楽しみにしています。

東京月例会セミナーに感動

東京 大塚成志

本日(五日)の雨により桜の花が少し散ってしまいましたが、今日は盛大な月例会に出席させて頂きましてありがとうございます。

私は三月末に入会させて頂いた大塚成志という者です。実は今日月例会に出るまでは日本GAPがどういう雰囲気なのかわからなくて、少し片寄ったUFO研究団体だったらどうしようかと不安に思いましたが参加させて頂いたのですが、久保田会長の新アダムスキー全集の解説

投稿歓迎 字数を問わず。匿名発表可なるも住所氏名明記のこと。

講義や近況報告を聞いてその不安は即座に解消してしまいました。全く素晴らしいご講義で会場にいる間中、全体が何かやる気で一杯になり随分と心がリフレッシュしたように思います。

私は何度か葉書に書きましたように今年の四月より宇宙開発関係の職場に入社しましたが、そもそもの入社動機自身が「近い将来に必ず宇宙人の実在が公表され、いわば、地球開国」とも言うべき大きな出来事が起こるに違いない。その時には最前線にいて活躍したい」と思っていたのです。(この時点ではまだアダムスキー問題をほとんど何も知りませんでした。そのため、このとき考えていた宇宙人というのはいわゆるグレイと呼ばれるようなタイプのもの

でした)。アダムスキー問題を勉強し始めたのは就職が予定した去年の夏以降のことですが、宇宙哲学についてはそれとほとんど同じ考えを一三歳の時(つまり今から二〇年前)

以来自然に持つようになっていましたので、かなり良く理解できるようになります。それはさておき、いま振り返ってみると偶然とは思えないような出来事が重なる日本GAPへ入会させて頂くことになったのですが、このあたりの経緯はまた改めてお手紙を書くことに致します。

職場では今年には東京本社勤務になり、私としては宇宙科学の勉強と語学を仕事と平行してやっていたのでと願っていました。それから先生のお話の中で宇宙開発コンサルタントの仕事をしておられるM氏が、NASAで見せられたというアポロ計画の月面写真の事にも大変興味を引かれました。M氏は素性を明かすことを拒否されてもいるようですが、その理由はともよく分かるような気が致します。私もUFO問題に関して人類が真剣に取り組まねばならない重大極まりない問題であると考えておりますが、やはり職場では絶対口にしてはならないです。(もともと真面目な関心を抱いてくれる人がいればその人とは話し合おうでしょうが...) まだまだこの道に入って日が浅い私ですがこれかとも月例会等へなるべく参加させて頂きますので宜しくお願い致します。

UFO研究は人間研究

茨城県 久米清

私はUコン一〇八号より定期購読していますが、毎月久保田会長の巻頭言を楽しみにしています。人間に必要なのは外部に何かの絶対者を設定してそれにすがるのでなく、自己の内部に絶対的なものが存在することを自覚すること、そして宗教的偶像や教祖を信じることもりも自分自身を愛して信じていることが大切だと思えます。今の文明生活ではあらゆる膨大な量の情報が外部よりもたらされますが、自分の体の内側から湧き出るフィードバックや内部より情報をもつと大切にしなければなら

ないと思えます。人間は自我を超える境地になれば、この宇宙の意識との合一を図ることができると思えます。アダムスキー氏はコンタクト以前より自我より真我に到達した方です。「UFO研究とは人間研究である」という久保田会長の多年の持論にはまったくその通りだと思えます。人間そのもの、特に自分自身そのものについての理解をもっと深める必要があると考えています。そのために、自分自身で自分の深層心理まで掘り下げていくためのアプローチとして心理療法や催眠療法を勉強してみようということになりました。他人に教えられるものではなく自分で感じるものが本物ではないでしょうか。

そこで友人の深野悦子さんの東京都品川区の自宅で一流の先生にお願いして、週一回最新の心理療法と催眠療法のコースを計画しています。管利を目的とはしていません。興味のある方は〇三―三四九二―四九二六の心理療法研究会へお願いします。深野さんは一年前に千葉県市川市の上空でアダムスキーの撮影したものと似たオレンジ色の炎につつまれた細い筒状の母船二機を娘さんと二人で見たそうです。その時周囲に数人がいたそうですが、その人たちには見えなかったそうです。UFOを見る人と見えない人とは個人のカルマの違いがあるのでしょうか。

私は「信念の力、希望の力、絶対的に諦めない力」をミラクルワードとして使っています。この言葉を唱えると人生設計とか仕事とかに対して非常に意欲が出てきます。今という時を大切に生きなければなら

ないと思えます。これからもよろしく御指導の程お願い致します(歯科医)。また行きたいデザートセンター 栃木県 大橋豊

Uコン一七号のデザートセンター特集にたいへん感動しました。去年デザートセンターに行ったことを思い出しました。あそこは何度でも行きたくなる気持ちがあります。また機会があればみなさんと行きたいと思えます。青い空が素敵です。

またメキシコの神祕の神殿ピラミッドの頂上でずつと僕のほうを見つめていた男性はスペースビープルだったのでしょうか。金髪でこの世の人とは思えないほど美しい男性でした。周囲のGAPの会員の人にその人のことを教えました。誰か気がつきませんでした。先生はここに気づいておられたのでしょうか。

宇宙瞑想と思い込みでトップ賞 東京 山本益巳

二月の月例会ではテレパシー練習で六〇点を出してトップ賞を頂きましたのでありますが、あの時は宇宙瞑想で頭がすっきりした事と「思い込み」の二つが作用していたと思われま

す。つまり宇宙瞑想がともうまくできた事と、「自分は超能力者だ」という思い込みとによって高得点を出せたのだと思います。ちなみに三月はたったの三〇点でした。この時は前半の五問はとも調子良く印象が受けられたのですが後半の五問は疲れが出て全く分かりませんでした。ではまた来月の月例会を楽しみにしています。

第4回

秋田支部大会

全国のGAP会員の皆様にはお元気でお過ごしのことと存じます。今年も秋田支部は第四回目支部大会を開催することになりました。久方ぶりに久保田先生をお迎えして宇宙的な素晴らしいご講話をお聞きし、存分に充電致したいと存じます。夕食会では歓喜のひとときを過ごし、永劫の友情を誓い合おうではありませんか。翌日の観光は清澄透明な空気に満ちた仁別国民の森でUFO観測を行ないながら秋田の郷土料理をご賞味頂き、湯沢台で涙を流す不思議なマリア像を見学します。支部一同、秋田美人達とともに心からお待ちしておりますので、多数ご参加下さい。

秋田支部代表 伊藤正治

日時 9月13日(日) 1:00~5:00
会場 「秋田市文化会館」5F 第5会議室(国際会議室)
秋田市山王7丁目3番1号 ☎0188-65-1191
※JR秋田駅よりバス10分、「文化会館前」下車。
会費 ¥2500(全員記念写真代は希望者のみ¥1000を別納)
プログラム 司会 松田祥子(旧姓・阿部)
1:05 会員講演 佐藤春雄(秋田支部副代表)
1:35 講演「アダムスキー哲学と人生成功の秘訣」(大宇宙瞑想と集団想念放射の実習指導)久保田八郎(日本GAP会長)
3:00 全員記念撮影・休憩
3:20 全員自己紹介・質疑
5:00 閉会

夕食会 6:00~8:30(希望者のみ)
会場 大町ビル 6F 鳥海の間(当日案内)
会費 ¥6000

宿舎 「三井アーバンホテル」秋田市大町2丁目5-1
☎0188-24-4131
観光申込 9月14日(月) 参加費¥1500 仁別国民の森その他を車で周遊。夕食会、宿舎、観光を希望される方はハガキで下記へ9月4日まで(必着)にお申し込み下さい。予約がないと斡旋不可能です。
〒010 秋田市山王新町15-4 伊藤正治 ☎0188-62-2831
注意 9月の月例会は中止します。8月の月例会は移動月例会にしますので、会場については伊藤宛にお問い合わせ下さい。

▼秋田市文化会館



本誌バックナンバー掲載記事目録

*印は絶版。在庫なし。お申し込みの際は郵便振替にて日本GAP宛で送金下さい。バックナンバーに限り送料は不要です。

No.117 平成4年4月25日発行 ¥900

巨大宇宙船、デザートセンター上空に出現 /
地球救済活動続ける異星人(2) 秋山真人
飛行機を助けた謎のUFO
奇跡を起こす反復思念とイメージ法 久保田八郎
善だけを探し求めてテレバシーが発現 小川隆志
ひとりで物品が動く現象 大嶋順子
思いどおりに出現するUFO 中島直仁
ジョージ・アダムスキーと異星人(完) アリス・ポマロイ

No.116 平成4年1月25日発行 ¥900

地球救済活動続ける異星人 秋山真人
南フランスの不思議なコンタクト事件 中村省三
奇跡的に願望を実現させる方法 テッド・オーウェン
病気治療の宇宙哲学的応用 高梨十光
ミラクル・ワードとミラクル・イメージ 久保田八郎
江東区上空のUFO 森田久恵
南九州支部からの声 曾我部勇人
ブラザーズに助けられた? 藤沢清則
ジョージ・アダムスキーと異星人 アリス・ポマロイ

No.115 平成3年10月25日発行 ¥900

アダムスキーとUFO問題の真相 ハンス・ピーターセン
金星表面に超長大な水路を発見 /
28年ぶり宇宙からの帰還?
突然消滅した10人の少年少女 /
暗闇から現れた不思議な人々 服部哲雄
円筒型の奇妙な物体を見る
謎の飛行物体、米子に出没
UFOの色彩についての一考察 斎藤俊徳
UFOと古代マヤの謎 久保田八郎

No.114 平成3年7月25日発行 ¥900

日本GAP 全国ネットワークテレバシーコール UFO観測会、大成功
北海道上空の物凄い光景 松村芳之
尽きぬ宇宙へのロマン 高木 澤
奇跡を起こす思念の力 遠藤昭則
私は巨大な円盤を見た / 松浦義教
タバノイの謎の大爆発 ジャン・パジャク博士
アダムスキーの主張は正しかった ダニエル・ロス

No.113 平成3年4月25日発行 ¥900

ファティマの大円盤出現事件 久保田八郎
奇跡のペンダントと転生の法則 ハンス・ピーターセン
ティモシー・グッドのアダムスキー体験 中村省三
オーラ透視力開発法 遠藤昭則
壁画の奇跡 永山稔恭
江戸川区上空の巨大UFO 北館博子
クリスマス前のUFO出現 伊藤芳和
私のUFO目撃体験 平井沙織
UFO-宇宙からの完全な証拠(完) ダニエル・ロス

No.112 平成3年1月25日発行 ¥900

アダムスキー問題と日本GAP 久保田八郎
宇宙人の遺体はロボットだった / ハンス・ピーターセン
高度に進化した金星人の実態(完) G.アダムスキー
<写真>金星の不思議なスジ模様
青森県に頻発するUFO出現事件
UFO-宇宙からの完全な証拠(14) ダニエル・ロス

No.111 平成2年10月25日発行 ¥900

高度に進化した金星人の実態 G.アダムスキー
金星から転生してきたイエスの大地へ 久保田八郎
長野県に出現した巨大母船型UFO 村田正道
美しいUFOが赤城山付近を飛ぶ 番場博次
松本市にもフットボール型UFO 茶谷健一
北海道に現れたアダムスキー型円盤 堀江健一
私のテレバシクな不思議人生 郡司典子
UFO-宇宙からの完全な証拠(18) ダニエル・ロス

No.110 平成2年7月25日発行 ¥900

UFOの正体と観測の仕方 本誌編集部
UFO・異星人との遭遇体験記 藤本定雄
宇宙哲学で奇跡を起こして安全に生きる方法 久保田八郎
西郷隆盛の最期を透視 遠藤昭則
アダムスキー秘書との対話 向井 裕
アメリカGAP発足 / (完) ダニエル・ロス
UFO-宇宙からの完全な証拠(12) ダニエル・ロス

No.109 平成2年4月25日発行 ¥900

豊かで素晴らしい他の惑星と生命の連続-G.アダムスキー
UFO、朝霧高原に出現 /
デザートセンター円盤着陸事件(2) 久保田八郎
強烈に輝くUFOを見た私たち 川野綾子
オーラ、宝石、超魔術、チャネラー 遠藤昭則/秋山真人
「アメリカGAP」発足 / ダニエル・ロス
UFO-宇宙からの完全な証拠(11) ダニエル・ロス

No.108 平成2年1月25日発行 ¥900

地球へ救援に来るUFOと転生の法則 G.アダムスキー
奇跡をもたらす「生命の科学」 久保田八郎
超能力開発の新しい視点 秋山真人
潜在意識としてのDNA N. H. M. D.
私は巨大な母船を見た 小瀬村美美子
私についてきた光るUFO 郡司典子
GAP海外旅行で目撃した数々のUFO 中根 豊
ロイよ、来て助けておくれ / 久保田八郎
UFO-宇宙からの完全な証拠(10) ダニエル・ロス

No.107 平成元年10月25日発行 ¥900

テレバシー開発法とUFOの実態 G.アダムスキー
マチュピチュとナスカの謎 久保田八郎
私はペルーでUFOを見た 富岡設子
アダムスキーに会った唯一の日本人(完) 向井 裕
超能力開発の基礎レッスン 斎藤庄一
宇宙哲学を生かした超能力開発法 遠藤昭則

No.106 平成元年7月25日発行 ¥900

金星から知的メッセージを受けたマリナー-2号 G.アダムスキー
アダムスキーに会った唯一の日本人(2) 向井 裕
宇宙哲学で奇跡を起こす方法 久保田八郎
ヒーリングとテレバシー 遠藤昭則
テレバシー現象の医学的考察 N. H. M. D.
UFO-宇宙からの完全な証拠(9) ダニエル・ロス

No.105 平成元年4月25日発行 ¥900

デザートセンター円盤着陸事件 久保田八郎/篠方史/坂本貢・茂子
アダムスキーに会った唯一の日本人(1) 向井 裕
過去生透視法とその実例(2) 遠藤昭則
輝く星々の彼方へ 斎藤庄一
長野県に巨大UFO出現! 博田文喜
UFO-宇宙からの完全な証拠(8) ダニエル・ロス

アダムスキー・デザートセンターコンタクト40周年記念

1992年度 日本GAP総会

宇宙的な信念と勇気を与えるセミナー

来たる10月10日、今年度総会を下記の要領で開催します。今回はセミナー形式で久保田会長が絶大な信念と希望と絶対にあきらめない力を与えるための講演を行ない、宇宙冥想と集団想念放射の指導、全員によるテレパシー練習、質疑応答等を担当致します。年一度の楽しい集いですから、この機会にぜひとも多数ご参加下さい。役員一同あたたかくお迎え致します。

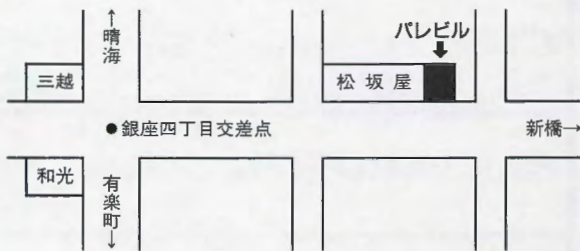
日本GAP本部役員代表 篠 芳史

日本GAP総会

- 日時=10月10日(2日連休初日)〈開場12:00/1:00開会〉
- 会場=機械振興会館 地下2階大ホール
東京都港区芝公園・東京タワー前
☎03-3434-8216
- 交通=都内山の手線電車で浜松町駅下車。降りたホームの有楽町駅寄り方向へ端まで歩き、階段を降りると同駅北口へ出る。改札を出て超高層の貿易センタービルの正面入口前のバス乗り場から東京タワー行きバスで約8分。貿易センタービルの横にはタクシー乗り場もある。東京タワーまで約5分。タワー前で降りたら道路の右側すぐ前に会館ビルがある。休日は会館の正面玄関は閉じられているので、建物の右へ回って右側面の入口から入り、エレベーターで地下2階へ降りてすぐ。
- 会費=¥3500 中学生¥2000 小学生以下は無料(全員記念写真代は別途料金送料込¥1000。希望者は受付で同時に納入)
- プログラム
 - 1:00 司会者挨拶——篠 芳史
 - 1:05 講演「宇宙的な信念・希望・勇気を引き出す方法」宇宙冥想と集団想念放射の実習指導——久保田八郎
 - 2:45 休憩
 - 3:00 出席者全員によるテレパシー練習(最高得点者に賞品贈呈)
 - 3:30 休憩
 - 3:40 質疑応答(入場時に渡される質問用紙に記入して休憩時に提出)
 - 4:40 出席者全員記念撮影
 - 5:00 閉会
- 注意=●総会中のカメラ(ストロボ付き)やビデオ(照明付き)による撮影、テーブルコーダーによる録音等は許可しますが、会長の講演その他の発言内容の著作権は日本GAPに帰属しますので、日本GAP以外の個人または団体の印刷物には使用できません。
●翌日の観光は実施しませんが、個人または小グループで都内観光またはディズニールランド行きを希望する方は、下記のワールドセプトラベル社の田中氏宛ご相談下さい。ただし連休中ディズニールランドは大混雑しますから、その点をお含みお下さい。
●10月の第1日曜日(4日)の東京月例会は中止します。

大夕食会 (予約が必要です)

- 日時=総会終了後6:30→8:30
- 会場=銀座館
東京都中央区銀座6丁目 パレビル6F
☎03-3574-9101
- 交通=東京タワー前にはタクシーが沢山来るので、ここから数分でタクシーに相乗りして銀座6丁目まで直行するほうが早くて便利。電車は山の手線新橋駅または有楽町駅より徒歩10分。銀座中央通りの松坂屋デパートの右隣。パレビル右側のエレベーターで6階へ昇り、降りた所。
- 会費=¥6000(中学生割引なし。小学生以下保護者同伴で無料)
- プログラム
 - 6:30 司会者と久保田会長挨拶
乾杯音頭=IZU支部代表 高梨十光氏
食事と歓談
- 注意=今回の大夕食会は立食形式ではなく、高級レストランの貸切り大部屋で椅子に着席して数名で1テーブルを囲みながら食事をします。1人あたり洋食が8品、ウイスキーとブランドーは飲み放題、ジュース類とサワーはサービスという豪華版です。余興はなくて、優雅なクラシック音楽またはムード音楽の流れるなかを愉快地歓談します。カラオケその他の飛び入り余興は禁止。この夕食会に出席する方は、ある程度きちんとした服装をお願いします。ラフな格好はご遠慮下さい。
- 二次会=大夕食会終了後、近くの銀座8丁目の「橋茶屋」で二次会を開催します。出席希望者は司会者の指示に従って各自で行って下さい。



●銀座四丁目交差点

- 申込=大夕食会とホテルは予約が必要です。予約は下記の要領で行なって下さい。
- (1)大夕食会=ハガキに「総会後の夕食会に出席予約」と記して、氏名、住所、電話番号を明記の上、9月末までに(必着)日本GAP宛お送り下さい。
- (2)ホテル=「ホテル宿泊申込」と書いて、氏名、住所、電話番号、宿泊日を明記した上、宿泊料¥9600を現金で同封し、現金書留で9月20日までに(必着)下記へご送金下さい。
〒150 東京都渋谷区東3-24-9 サンイーストビル2F ワールドセプトラベル社 田中正(宛)
☎03-3499-2461(電話による予約は受け付けません)
ホテル=銀座キャピタルホテル 〒104 東京都中央区築地3-1-5 ☎03-3543-8211 シングル 1泊朝食付き¥9600(税込み)
地下鉄「有楽町線・新富町駅」前。銀座の夕食会場より徒歩約20分。タクシー5分。

絶賛発売中

※新アダムスキー全集全巻をまとめてご注文頂きますと定価の10%引き+送料がサービスとなります。

新アダムスキー全集

—— 全面改訂・改訳 全10巻 ——

久保田八郎・訳 / 各四六判



中央アート出版社・発行 〒104 東京都中央区京橋3-7-13 三成ビル5F ☎03(3561)7017 ●郵便振替 東京8-66324

超絶した大文明を持つ、太陽系の他の惑星群の人々とコンタクトしたアダムスキーを米政府機関は密かにマークしていた / UFOや惑星群の驚異の実態と深遠な宇宙思想を伝える本全集は、地球人類に宇宙的覚醒の必要性和真の生き方を示す永遠の古典。UFOと宇宙哲学の研究者にとって必読の名著。旧全集を全面改訂した最新決定版。世界に類書なき金字塔 /

アダムスキー

① 第2惑星からの地球訪問者 352頁・定価1980円

UFO研究者として世界的に著名なジョージ・アダムスキーの、1952年11月20日、米カリフォルニア州の砂漠に着陸した円盤から出てきた金星人との会見から始まる驚異的なコンタクト実録。著者みずから円盤や母船に乗り組み、他の惑星の超絶的大文明の実態を明かにする、本全集の中心の書。写真多数収録。

アダムスキー

② 超能力開発法 (テレパシー、遠隔透視その他) 192頁・定価1300円

世間に氾濫する通俗的な超能力開発法とは根本から異なる宇宙的能力の発現法を説いたもの。目、耳、鼻、口、の四官をコントロールして、肉体内部の宇宙の意識から来るメッセージを感じ、真の意味でのテレパシー、遠隔透視その他の超能力を身につける方法を具体的に詳述。類書皆無の重要文獻。

アダムスキー

③ 21世紀/生命の科学 208頁・定価1300円

アダムスキーが他界する前年に出した12冊分の講座を1冊にまとめたもの。アダムスキー宇宙哲学の総合的な一大金字塔。特に人体細胞の実態と真実のテレパシー、及び境界通信の誤り等を科学的に解説した超能力開発指導書。心霊現象への接近を警告する画期的な理論を明快に説く、第5巻の続編として必読のテキスト。

アダムスキー

④ UFO問答100 216頁・定価1300円

1958年にアダムスキーは、世界中から来る質問の洪水を分類して質疑応答集を出した。全部で100問のUFO関係の質問に懇切な回答を与えている。現在の混迷した世界のUFO研究界に的確な示唆と回答をがすものとして、内容は今も驚くほど新鮮で有用である。UFO研究者の素晴らしいガイドブック。

アダムスキー

⑤ 金星・土星探訪記 380頁・定価2400円

アダムスキーが大母船に乗せられて、想像を絶する進歩をとげた金星と木星を訪れた体験記。特に金星人の少女として生まれかわったじき妻メリーとの劇的な対面が主巻。第2部には1958年以来、日本におけるアダムスキーの代理人として啓蒙活動に専念している久保田八郎宛の多数の書簡を収録。

アダムスキー

⑥ UFOの謎 282頁・定価1980円

UFOの推進原理をはじめ、聖書とUFOとの関連などを詳述して様々なミステリーを解明した重要な文獻。第2部はアダムスキーの世界講演旅行記で、各国GAP網の活動状況が克明に描写されていて1960年代のUFO研究界の実情と一般人の宇宙観がよく理解できる。第1巻の続編。

アダムスキー

⑦ 21世紀の宇宙哲学 148頁・定価1030円

地球人が真に宇宙的な成長をとげるための基本的思想として、マインド(心)と肉体内部に宿る宇宙の意識との一体化を説いた書。既成のあらゆる宗教や哲学では理解し得なかった人間の意識と万物との関係を説いて21世紀の思想を先取りした。第5巻、6巻と合わせてアダムスキー哲学の三部作をなす。

アダムスキー

⑧ UFO・人間・宇宙 370頁・定価2400円

アダムスキー支持活動の母体として世界のトップクラスをゆく日本GAPの機関誌に掲載された、アダムスキーのUFOと宇宙哲学関係の論文、講演録等を編集。他界する直前の最後の講演あり巻。第2部には訳者・久保田八郎が再三渡来してアダムスキーの今はじき高弟たちと接したインタビュー記事を収録。

アダムスキー

⑨ UFOの真相 320頁・定価1980円 1991年4月刊 /

アダムスキーの薫陶を受けた人達の論説・講演録等を収録。宇宙の実像と人間味豊かな庶民性をあわせもつ偉人の素顔を多角的に描写。ア氏の高弟アリス・ボマロイ、キース・フリットクロフト、ハン・スピーターセン、金星文字を解説して画期的な永久モーターを開発したバシル・バン・デン・パーグラの証言が注目。「サンビエトロ大寺院の異星人」と題する久保田八郎の体験記も興味深い。

アダムスキー

⑩ 超人ジョージ・アダムスキー 232頁・定価1300円

歴大な新アダムスキー全集の最後をしめくくる完結篇。アダムスキーの宇宙的な活動と深遠な哲学を集約して伝えるとともに、彼の伝記をも加えてこの1人の人間像を克明に描写。これ1冊でアダムスキー問題の何たるかが理解できる全集のコンパクト版。豊富な写真入り。国際的なアダムスキー研究者・久保田八郎が書き下ろし執筆。

UFO—宇宙からの完全な証拠 480頁・定価2800円

ダニエル・ロス著 / 久保田八郎訳

アメリカの気鋭UFO研究者ダニエル・ロス氏が全力で展開したUFO問題の真相。月・惑星探査結果に関するNASA(米航空宇宙局)の隠蔽工作を暴露し、アダムスキーの体験の真実性を科学的に実証した画期的な内容の本書は、UFOの研究者のみならず、宇宙科学に関心ある人にもきわめて有益な知識情報の源泉となる。写真多数掲載。

新刊！ 全国書店で絶賛発売中

UFO・遭遇と真実

四六判・264頁
美麗カバー付

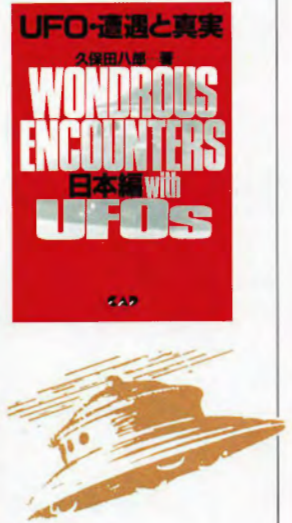
★久保田八郎著

¥1,500 送料 250

かつて本誌に掲載された驚異的なUFO事件を8件選び、わが国UFO研究界の第一人者・久保田八郎が新たに書き下ろし読みやすく編集した本書は、類書がないほどに不可思議な事件に満ちています。実証主義をつらぬく著者が各事件現場を検証、体験者や証人達に直接会って徹底的に調査した結果、真実そのものであると確認した事件のみを流麗な筆致で活写。豊富な写真・イラストとあいまって読者を遙かな惑星群に誘う稀有の保存資料です。

(内容)

- ①関東大震災中に人々を救出した円盤（横浜の世にも珍しい大事件）
- ②東京タワーから目撃されたUFOと搭乗員（東京の素晴らしい目撃体験）
- ③超低空に降下した円盤と、手を振る異星人少年（高松市の驚異的事件）
- ④旭川市郊外の夜空に展開した物凄い光景（上富良野の仰天現象）
- ⑤UFOに乗ってエジプトまで飛んだ少年（松山市の物凄い事件）
- ⑥熱烈な願いに答えて出現したUFOを撮影（東京でのテレパシー体験）
- ⑦尾道市に出現したアダムスキー型UFO（尾道市の偶発事件）
- ⑧円盤や母船に乗って別な惑星へ行ってきた！（秋山眞人氏の超絶的体験）



■書店で品切れの節は下記へ郵便振替か現金書留で直接ご注文下さい。

中央アート出版社 〒104 東京都中央区京橋3-7-13 三成ビル ☎03-3561-7017 振替・東京8-66324

※上記の書籍は日本GAPでも取扱います。著者の署名捺印入り。ハガキでご注文下されば代金到着後払いで直送します。

英文版「UFO contactee」No.7

申込先▶日本GAP

B5/12頁/コート紙使用/
¥500 (送料¥175/3冊まで¥250)

世界のUFO研究会で注目の的になっている日本GAP発行英文版は、各国UFO研究者や団体が絶賛。UFO問題は国境を越えた宇宙的な要素を帯びていますから、英文による国際版が情報伝達に重要。No.7はコンタクティー春川正一氏(仮名)の宇宙的体験記事「A Young Japanese Man Visits Other Planets」の連載最終回、アダムスキーの質疑応答を掲載。いずれも流麗な英文による貴重な情報源となるもので、英語学習用テキストとしても最適。両記事とも質疑応答形式なので、UFOや宇宙的思想を話題とする高度な英会話の習得に絶好の資料になります。

編集後記

◆イエスの映像に迫るのは至難の業ですが、新約その他の文献による調査には限界があります。そこで聖骸布と秋山氏の母船内における映像目撃がポイントになります。興味深いところですよ。

◆中村氏の記事はUFO問題の真偽を判断するうえで貴重な資料になるものです。英語とフランス語の達者な氏の今後の活躍が期待されます。

◆強烈な反復思念とイメージ法により、ついに独立して治療院を開業し、大成功した高梨氏の体験記事も素晴らしいものです。出現した不思議なネズミは宇宙の意識(神)からのみ使役であったのでしょうか。

◆氏は八月より日本GAPのIZU(伊豆)支部を創立し、その発足記念大会が来たる八月九日に三島市で開催されます。多数ご出席下さい。(詳細は四五頁)。

◆今年度日本GAP総会も一月一〇日に盛大に開催されますので、こちらもお忘れなく。

◆今後本誌は外国語のカタカナ表記を一般の慣習にとらわれることなくなるべく原音に近い表記にします。たとえば、パチカンをヴァティカン、マゼランをマジェラン、ピーナスをヴィーナスというぐあいです。

◆UFO目撃報告、UFO写真、超能力開発体験、宇宙哲学研究実践、宇宙科学等の原稿や資料を募集しています。原稿書きの苦手な方には面談して取材します。

◆本誌は多数のヴォランティアにより全国の主要書店に卸されています。この活動に参加希望の方はハガキでお申し込み下さい。説明書をお送りします。(K)

日本GAP機関誌・季刊 秋季号
UFO contactee 118pp

編集発行人 久保田八郎
発行所 日本GAP
〒113東京都江戸川区本一色1-12-1511
☎03-3665-1095 5
振替 東京4-355912
一九九二年七月二十五日発行
定価九二七円(本体九〇〇円・送料27円)
※本誌掲載の全記事・写真共、他の印刷物への無断転載を禁じます。

平成4年度
日本GAP全国月例研究会案内

支部名	日 時	会 場	会 費	プログラム・テキスト
東京本部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※10月は10日に総会開催のため、第1日曜日の月例会は中止。	港区芝公園3丁目5-8「機械振興会館」地下3F第2研修室。 ☎03-3434-8216。JR浜松町駅下車。東京タワーの正面前。 浜松町駅から東京タワー行きバスで約8分。 連絡先=日本GAP本部 ☎03-3651-0958 ※日曜日は正面玄関が閉じられているので、右へ回って建物の右側面の入口から入る。	会場費 ¥1000 セミナー受講料 ¥1500 計¥2500	1:00→1:30 会員による講演。 1:30→3:00 久保田会長による講義。 テキスト=5月より『生命の科学』 3:10→5:00 超能力開発練習/近況報告/質疑応答。
大阪支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※今年度は1月から10月まで会場と日程の変更があるので平塚宛問い合わせること。	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」 ☎388-7351。JRまたは阪急電車吹田駅下車。 連絡先=平塚和義 ☎06-436-3478 平成4年1～10月=「尼崎市立産業郷土会館」兵庫県尼崎市東大町1-1-2	¥500	東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。 テキストその他=東京本部と同じ。
新潟支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	新潟市東万代町9「新潟市青年の家」(万代市民会館と同じ建物) ☎025-246-7711。JR新潟駅より徒歩5分。 連絡先=星 富治夫 ☎02579-2-5562	¥500	同 上
名古屋支部	毎月第2日曜日 午後1:00→4:30 ※8月は第3日曜日に名古屋国際センタービル5F第2会議室に変更。9月も第3日曜日の20日に変更。会場は名古屋市民会館。	名古屋市中区金山1丁目5番1号「名古屋市民会館」特別会議室。 ☎052-331-2141代。 JR東海・名鉄・地下鉄の金山橋より徒歩5分。 連絡先=林 国宣 ☎0586-45-6468	¥300	同 上
仙台支部	毎月第3日曜日 午後1:10→4:20 ※当分の間、月例会を休会。	仙台市青葉区米ヶ袋1-1-35「仙台市片平市民センター」会議室。 ☎022-227-5333。仙台駅からお霊屋橋経由動物公園方面バスで約7～10分。東北大正門前下車。真向かいの建物。 連絡先=笠原弘司 ☎022-284-2910	¥300	同 上
山形支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※日時は変更があるため、毎月月例会の前に柴田宛電話で問い合わせること。	山形県天童市老野森1丁目1-1「天童市中央公民館」 ☎0236-54-1511。天童駅から徒歩10分、タクシー4分。天童市役所の裏側。 連絡先=柴田光明 ☎0233-25-3261	¥300	同 上
札幌支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30 ※日時・会場は不定につき、高野宛問い合わせること。	中央区北一条西13丁目「札幌市教育文化会館」会議室。 ☎011-271-5821。 連絡先=高野省志 ☎011-783-6393	¥500	同 上
旭川支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	旭川市五条4丁目「旭川ときわ市民ホール」3F 302研修室 ☎0166-23-5577 連絡先=川上三秀 ☎0166-61-0044	¥500	同 上
沖縄支部	毎月第4日曜日 午後1:00→4:30	具志川市栄野比1213-1「具志川市野外レクセンター」会議室。 ☎09897-2-7722 連絡先=里 孝人 ☎098-869-9964	¥500	同 上
秋田支部	毎月第2日曜日 午後1:00→5:00 ※8月は移動月例会。詳細は伊藤まで。	秋田市八幡運動公園1-2「中央公民館」趣味の間。 ☎0188-24-5377。 連絡先=伊藤正治 ☎0188-62-2831	¥500	同 上
横浜支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	横浜市中区万代町2-4-7「横浜市技能文化会館」7F 703号室。 ☎045-681-6511。JR 関内駅、地下鉄・伊勢崎長者町駅より徒歩3分。 連絡先=清水 正 ☎03-5951-3518	¥500	同 上
茨城支部	毎月第4日曜日 午後1:20→5:00	水戸市梅香1-2「三の丸公民館」小集会室。 ☎0292-24-6600。水戸駅北口より徒歩10分。 連絡先=清水勝一 ☎0292-73-1903	¥300	同 上
長野支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	塩尻市大門7番町「塩尻総合文化センター」第1会議室。 ☎0263-54-1253。 連絡先=博田文喜 ☎0263-58-8510	¥500	同 上
紀南会	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※今年2月より月例会を再開。日時と会場については小川宛問い合わせること。	和歌山県新宮市新宮6682-1「新宮市福祉センター」1F相談室。 ☎0735-21-2760。JR 西日本新宮駅下車、徒歩5分。 連絡先=(副代表)小川隆志 ☎0735-32-2834	¥300	同 上
栃木支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	鹿沼市市役所裏「御殿山会館」1F小会議室。 ☎0289-64-4334。JR 鹿沼駅から西へ1.5km。東武新鹿沼駅から北へ1.5km。市内行きのバスに乗り天神町下車。徒歩5分。 連絡先=渡辺克明 ☎0289-62-3319	¥500	同 上
南九州支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	鹿児島市与次郎2丁目3-1「鹿児島市民文化ホール」 ☎0992-57-8111。 連絡先=鶴田清則 ☎0993-25-4398	¥500	同 上
高松支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※日時・会場は変更があるため、関宛問い合わせること。	高松市番町1-8-22「高松市立市民会館」会議室。 ☎0878-39-2888。JR 高松駅より徒歩15分。 連絡先=関 高明 ☎0875-72-2698	¥400	同 上
IZU(伊豆)支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30 ※月例会は9月より開催。 ※8月は支部発足記念大会(本号45頁参照)。	静岡県三島市一番町20-5「三島市民文化会館」第3会議室。 ☎0559-76-4455。三島駅より徒歩3分。 連絡先=高梨十光 ☎0558-72-7832	¥500	同 上

オーソン肖像写真

新アダムスキー全集第1巻に出てくる金星人の肖像。目撃者アリス・ウェルズ女史のスケッチに基づいて女流画家ゲイ・ベッツが描いた等身大の油絵の写真。10.5cm×17cm。

¥1,000 送料 ¥120

金星のシンボルマーク

中央の眼は万物を見透すパワーをあらわし、周囲の4層の星は人間のマインド(心)の発達状態をあらわしています。9.3cm×8.8cm。

¥500 送料 ¥62

ESPカード

超能力開発練習用としてアメリカのテューク大学で開発されたカード。5種類の図形カード各5枚ずつ、計25枚1セット。堅牢な厚紙製。重さ40gの軽量。5.7cm×8.9cm。ポケットに入れて携帯するのに便利なので、どこでも気軽に練習できます。

¥900 送料 ¥120 (2~5個 ¥175)

テレフォンカード

日本GAP特製のテレフォンカードの第5弾。今度はアダムスキーの原書からオーソン氏のスケッチを取り入れました。1952年11月20日、カリフォルニア州デザートセンターで会見した金星人の姿を目撃者のアリス・ウェルズ女史がスケッチしたものです。

¥1,500 送料10枚まで ¥62

GAPキーホルダー

多数の方の要望にお応えして制作したオリジナル・キーホルダー。シンボルマークの周囲を「WITH COSMIC CONSCIOUSNESS(宇宙の意識とともに)」の金文字が取り巻く優雅なデザイン。メタル部分は径3.2cm、全長9cm。

¥1,900 送料 ¥120

会員バッジ

金星のシンボルマークが金色に輝く優雅なデザイン。表面の透明樹脂がキズを防ぎ、光を反射してキラキラ輝きます。男性用は裏の留め金が心棒ネジ留め式。女性用は安全ピン式。ご注文の際は、いずれかを明記して下さい。実物径1.7cm。

¥2,000 送料4個まで ¥120

ブックカバー

新アダムスキー全集のカヴァー用に作られたものですが、同じ大きさの四六判の書籍ならどれにも利用できます。表側の中央にシンボルマークと「宇宙の意識とともに」という意味の英文が金色で箔押しされた濃紺色の優美なデザインです。人造皮革製。

¥1,200 送料 ¥175 5枚まで ¥250

GAPシール

シンボルマークを「宇宙の意識とともに」の英文が取り巻く優雅なデザインのシールです。黒地のため黒カバンや黒い物に最適。色物の品物にも似合います。

¥200 送料10枚まで ¥62

新アダムスキー全集★★★★☆ 訳・著者 久保田八郎のサイン・捺印入り!!★★★★☆

中央アート出版社刊の新アダムスキー全集を日本GAPでも取り扱います。各巻とも扉に久保田八郎の直筆サインと捺印を入れてお届けします。全巻注文の割引はありません。送料はご注文内容によって異なりますので、ご注文の際は書籍代のみご送金下さい。書籍発送の際、送料の請求書と振込用紙を同封します。ハガキでご注文下されば代金あと払いでお送りします。(電話によるご注文はご遠慮下さい)

申込先 住所、氏名、電話番号、商品名、種類、個数等をご明記の上、郵便振替または現金書留でお申込下さい。代金後払いのご注文も承ります。ハガキに品名個数をご記入の上、投函して下さい。品物をお送りするときに専用振替用紙を同封しますから、現品到着後、それを用いて郵便局よりご送金下さい。振替によるご送金は当方へ到着す

るまでに約1週間かかります。この欄の商品はすべて消費税は無関係です。

〒113 東京都江戸川区本一色1-12-1-511
日本GAP 振替・東京4-35912 ☎03-3651-0958

日本GAP能力開発テープ

●**日本GAP東京月例会セミナー**
 毎月開催される日本GAP東京月例会セミナーから、久保田会長の解説講義と質疑応答を他を録音したものを、これを聴けば絶大な信念と勇気がわきあがり、人生の荒波に屈することなく堂々と前進できます。

●**テープ① ¥1,300 送料 ¥175**
 〈内容〉 会員講演、久保田会長による新アダムスキー全集の解説講義。近況報告。

●**テープ② ¥1,000 送料 ¥175**
 〈内容〉 超能力開発練習。質疑応答。
 ※①②一括ご注文の場合は送料 ¥250
 ※1990年以前のバックナンバーもあります。往復ハガキでお問い合わせ下さい。

日本GAPビデオ

臨場感溢れる画像があなたを会場に引き込み、宇宙的な一体感を起こします。全巻VHS。

●**東京月例会セミナー** 全1巻 ¥4,000
 〈内容〉 久保田会長の解説講義、他。約120分。(1990年12月分から在庫有)

●**日本GAP総会** 全2巻 各¥3,000
 〈内容〉 毎年の日本GAP総会を完全収録。(1989年度分から在庫有)

●**日本GAP海外研修旅行** 全1巻 ¥3,000
 〈内容〉 旅行のハイライトをまとめた楽しいビデオ。(1989年度分から在庫有)

●**デンマークGAP大会** 全2巻 各¥3,000
 久保田会長の講演(英語)、他。英文のテキスト(和訳付)もついているので英語学習にも最適!

下巻=美しいデンマークの探訪記録。送料はいずれも1本 ¥360、2本 ¥510。

申込先 申込先「品名」「〇年〇月分」「個数」「お名前・ご住所・電話番号」等を明記の上、郵便振替でお申し込み下さい。
 〒113 東京都江戸川区本一色1-24-3-202
 松村芳之 振替・東京0-162644 ☎03-3653-9387

申込先 「品名」「〇年〇月分」「上・下巻」「個数」「お名前・ご住所・電話番号」等を明記の上、郵便振替でお申し込み下さい。
 〒162 東京都新宿区富久町36-18 富久マンション103
 伊東芳和 振替・東京4-13811 ☎03-3351-9526

先着250名様限り お好みのサブリミナルテープ®

1本(60分テープ) 無料進呈!

(デジタル録音)



サブリミナルテープ®の美しい音楽をBGMとして聴くだけで――

あなたの人生が変わる!



下のテープの中から、お好みのテープを選べます。

『自分の能力への自信の強化』	『自分の魅力に気づく』
『自分の可能性への確信』	『女性への緊張感の除去』
『ビジネス能力開発への意欲』	『男性への緊張感の除去』
『本来の自分を取り戻す』	『偉大な成功へのイメージを描く』
『自分自身への自信』	『幸運な人生をめざす』
『人間関係の苦手意識の克服』	『経済的成功への自信』
『人間的魅力を養う』	『充実人生獲得への自信』

(詳しくは、お届けする案内書をご覧ください。)

●「記憶力・集中力強化」「魅力的性格」「学力向上」「心のやすらぎ」「最高の頭脳」等々を努力なしに現実のものにしてくれる、アメリカからやってきた「サブリミナルテープ」がNHK等でも紹介され、話題になっています。

●その人気16シリーズの実際の効果を試せるベーシックテープ(60分デジタル録音)をこの広告をご覧の方、先着250名様に無料で差し上げます。今すぐおハガキ・お電話でお申込み下さい。

サブリミナルテープとは、ストレスを解消し、気分をさわやかにする特殊な音楽に、「特定の効果をもたらす」耳に聴こえない周波数に変換された心理的メッセージを同調させた特殊な音楽テープ。BGMとして聴き流しているだけで、自然に潜在能力が開発されたり、理想的な習慣が身につきます。「無料ベーシックテープ引換券」と同時に、「能力開発」「心身の健康」「性格の改善」等の各シリーズの案内書をお送りいたします。

先着500名様限り、下記までお電話・おハガキで!!

超高速英語学習テープ 1本 無料進呈

「短期間に英会話をマスターしたい」「ほんとうにしゃべれる英語を身につけたい」「楽しく聴けて、しかも飽きのこないテープがほしい!」そんな方にぜひ、おすすめします。

BGMとして楽しんでるだけで『自然に英語を口ずさみ始める』

●BGM感覚で聴き流しているだけで、自然に英語が身につけてしまおう、ブルガリア出身のI・バルザコフ博士の手になる超高速英語学習テープ「サジェストロニクス・ラーニングテープ」がアメリカからやってきました。

●実際の効果が試せる「試験用テストテープ」をこの広告をご覧の方、先着500名様に無料で差し上げます。今すぐお電話・おハガキでお申込み下さい。



サジェストロニクス・ラーニングテープとは、モーツァルト、バッハ、ビバルディー等々のクラシック音楽に、ブルガリアで特訓を受けた加速教育トレーナーの専門家が独特の技法を用い、音楽と絶妙の「モー」をまじり出しながら、3バタインのナレーションを吹き込んだ特殊な語学テープ。歌の歌詞を憶えるように自然に頭に染みこみ、何度聴いても飽きがこない「BGM感覚で、心地よく聞き流す」というのがこのテープの特徴。子供が母親より言葉を吸収してゆくように、自然に体が英語を吸収してゆきます。試験用テストテープの引換券(先着500名限り)とサジェストロニクス・ラーニングの詳しい案内書をお送りいたします。

希望 41

郵便はがき 107

東京港区南青山 1-26-4

アメリカライオン社 1658係

住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記の上、「無料サブリミナル・ベーシックテープ案内書と商品券希望」あるいは、「超高速英語学習テストテープ希望」と左記までおハガキ、又は下記までお電話でお申込み下さい。(今回のお申込みでお届けしたテープ・案内書等の返品の義務や商品購入の義務は全くありませんので安心してお申込み下さい。)

無料ベーシックテープ案内書と商品券、超高速英語学習テストテープをご希望の方は、

住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記の上、「無料サブリミナル・ベーシックテープ案内書と商品券希望」あるいは、「超高速英語学習テストテープ希望」と左記までおハガキ、又は下記までお電話でお申込み下さい。(今回のお申込みでお届けしたテープ・案内書等の返品の義務や商品購入の義務は全くありませんので安心してお申込み下さい。)

お電話での申し込みは ☎ 0120・363・002 受付時間AM8~PM24 (日・祝日も受付中)